

東方最高神 [零 Z E R O] 【番外
編：日常編】（完結）

神森リョウカ

※…注意！これは最高神シリーズの番外編です…尚R17・9要素も有る為注意して下さい…それでも良い方は先にお進み下さい…

尚以下注意書き…

・ R・17・9は要素あり…(グロは無い…と思う筈…一応閲覧注意)

・ 基本的にはのぼのでギャグ要素満載…稀に百合及びR・17・9表現有り更にシリアス要素あり…尚且つ神森家中心…

・ 本編無関係…なのだが、そこで得た物は本編にて引き継がれる…

・ 本編のタグ一部機能しない

・ お馴染みの文章力と駄文注意！

・ 番外編である故に本編と違い短め…尚且つ…独自の編集時のルール適応外である…

・ 更新不定期及び投稿不定期…

・ 何時ものあらすじコーナー及び後書きコーナーは無し…

等の以上だが…偶にタグが変わる事が有るので注意！

目次

その1	神森一家の厄介な事情	1
その2	神森一家の戦力超増加計画スペシャル	35
その3	神森一家の騒動祭	51
その4	神森一家の恐怖のエイプリルフール	75
その5	神森一家の戦力超増加スペシャル②…そして邪神界及び魔王界及びラスボス界合同緊急会議	107
その6	リョウカの修行…そして蘇る伝説の超最強人間！	127
その7	神森一家の戦力超増加スペシャル③…そして…復讐に蘇る邪神…	163
その8	リョウカと蘇る不沈戦艦大和…	205
その9	この精神的不安定なリョウカに完全復活を！	235
その10	リョウカとリユウカの娘達の日常生活	277

その11 神森大連盟国…リョウカの故郷へ…

その12 神森一家の拠点の秘密…そして未来へ…

その13 更なる神化新装！神森大連盟国！

その14 リョウカ達の休日

その15 最高神及び最高邪神の完全開放と完全覚醒

その16 最強軍事国家・神森大連盟皇帝神国…ピースウォーカー事件の前

準備！

その1 神森一家の厄介な事情

大事な事なのでもう一度だけ説明します…

※…注意！これは最高神シリーズの番外編です…尚 R・17・9 要素も有る為注意して下さい…それでも良い方は先にお進み下さい…

尚以下注意書き…

・ R・17・9 は要素あり…（グロは無い…と思う筈…一応閲覧注意）

・ 基本的にはのぼのでギャグ要素満載…稀に百合及び R・17・9 表現有り更にシリアス要素あり…尚且つ神森家中心…

・ 本編無関係…なのだが、そこで得た物は本編にて引き継がれる…

・ 本編のタグ一部機能しない

・ お馴染みの文章力と駄文注意！

・ 番外編である故に本編と違い短め…尚且つ…独自の編集時のルール適応外である…

・更新不定期及び投稿不定期…

・何時ものあらすじコーナー及び後書きコーナーは無し…

等の以上だが…偶にタグが変わる事が有るので注意！

ここは、あのブッ壊れのチート使いの最強…いや元最強の最高神…神森一家の住んでいる空間だ…そこは、神様…いや最高神か…にしてはあまりにも科学に発展しまくっているわ…更には魔法とも共存しているわ…物理法則を無視するわ…軍事力も最強だわ…殆ど何でも有りな神森一家の作った空間…さて、そんな彼女達の日常の話である…

【東方最高神「ZERO」】番外編：日常編

はい！どうもです！あ…こうして挨拶するのはかなり久々ですね、お馴染みのリヨウカですよ！あ…本体です、今回から…いえ正確には番外編なので、本編と関わり無いですから、あの特殊な編集ルールは無効となってますのでご了承下さいね？えっと、今回は、私達の日常って言う話なので…ごゆっくりと見て下さいね。

リユウカ(幻想)「おい…お前どこに向かってぶつぶつ呟いているんだ？って何だこのデジャブは…久々だな、こんな事を言うのは…。」

リユウカ(幻想)「あ…ごめんなさい…久々なのでつい癖が出てしまいました。」

リユウカ(幻想)「やれやれ…まあ良いが…だがな…かと言って…食事中にそれは無いと思うが？」

リユウカ(幻想)「う…ごめんなさい…。」

リユウカ(幻想)「まあ、気を付けろよ…ほらさっさと食べろ。」

リユウカ(幻想)「はい。」

そう…今絶賛リヨウカ達は食事中だった…時間帯は…夜だ…つまり晩御飯だ…だ

が…彼女達の事だ…普通の食事で済むと思ったたら大間違いだ…何故なら…

ドン…!!

リュウコ(幻想)「テメエ…!!それは、俺のエビチリだって言ってるだろうが…!!」

リュウキ(幻想)「ああ…!?そんなの速い者勝ちだろうが!?」

リュウコ(幻想)「やんのかテメエ…!?」

リュウキ(幻想)「やんのかリュウコ…!?」

リュウキ&リュウコ(幻想)『うるさいですよ、それだったら私達が貰います…!』

パシ…!!

リュウコ&リュウキ(幻想)『あ…!?俺のエビチリ…!?全部取られたアアア…!!!』
 リュウキ(幻想)「全く…!もう少しマナー良く食べないといけないよ?お姉ちゃん?」

リョウコ(幻想)「そうですよ？だから、こうなりました…はむ…。」

リュウコ(幻想)「くく…！ちきしょうめえ…！…！…！」

リュウキ(幻想)「だいきらいだあ…！！バァァカ…！…！…！」

ポーピー…！！ポーピー…！！

リュウコ&リュウキ(幻想)「…へ？」

デデーン…！！

リュウカ(幻想)「うるせえぞ？テメェら…そんな事で騒いでどうする？」

リュウコ(幻想)「だ…だけどよお、今日の前に食べたい時に無いのが問題なんだぞ！」

リュウカ(幻想)「だったらまた自分で取って来るか、自分の手で作りゃあ良いだろうが？」

リュウキ(幻想)「ああ…そうかそうか…分かったよ…なら、テメエのお頂き…」

ゴツチイイン…！…！…！

リュウキ(幻想)「あの…こちらのお姉ちゃんが本当にすみませんでした…」

リュウコ(幻想)「ごめんね？」

リュウカ(幻想)「はあ…まあ大丈夫だ…」

リュウキ(幻想)「…そうですか…じゃあ、ほら…行きますよ。」

リュウコ(幻想)「ほら、貴女もですよ。」

リュウキ&リュウコ(幻想)『…ふえい…』

そして…リュウコとリュウキは、妹達に引き摺られながら戻されて行った…

リュウカ(幻想)「こうしてみると…本当に平和ですね…」

リュウカ(幻想)「ああ、そうだな…まあ、束の間の奴だが…」

リヨウカ(幻想)「そうですね…あ、お姉ちゃん…はい、豚の角煮だよ…はい、あーん。」

リユウカ(幻想)「お！サンキュー…あーん…むぐむぐ…そんなじゃあ、こっちも…はい、あーん。」

リヨウカ(幻想)「はい、ありがとうございます…あーん…あむ…。」

リユウキ(海賊)「あああ…！！！！それは、俺が最後に楽しみにとっていた豚の角煮い…！！くう…！！！！」

リヨウカ(幻想)「あ…ごめんなさい…。」

リユウカ(幻想)「…なんかすまん…。」

リユウキ(海賊)「とほほ…まあ良いが…また美味しいもん探さないとなあ…はあ…つて！あああ…!?そいつは俺のチキン南蛮…！！！！ 待てエエエエエ…！！！！」

リヨウカ(幻想)「あ…行っちゃった…。」

リユウカ(幻想)「はあ…何だろうな…確かに戦力的は、超有難いが…色々とかオスだな…こりゃ…。」

リヨウカ(幻想)「…うん…そうだね…あ、お姉ちゃん…はい、あーん。」

リュウカ（幻想）「ありがとな…あーん…：はい、俺からもだ…あーん。」

リュウカ（幻想）「ありがとう…お姉ちゃん…あーん…。」

そしてリュウカとリュウカは…結婚したからか…更にイチャイチャしているようだ…：周りの事もあまり気にして無いようだ…：って言うよりも何時もの光景らしいと言う感じだった…

次の日…本体のリュウカは、新しい技や形態を編み出し…修行していた…

リュウカ（幻想）「お！リュウカ！調子はどうだ？」

リュウカ（幻想）「うーん…あんまりですね…鈍ってしまったか…お姉ちゃんとの死闘で敗れて…何かの力を失ったかの…どちらか…又はその両方かな…。」

リュウカ（幻想）「…そうか…：。」

そう…実はだが、本体のリュウカがハンターハンターの世界線にて…本体同士

で…リヨウカとリュウカが本気の殺し合いをしたのだ…その結果…リュウカによって…完全に逆転敗北されてしまった…しかもリヨウカ自身の意思が有る状態で…完全にリヨウカを打ち負かした…そして…本当の意味でリヨウカの願いが叶い、リュウカの手でリヨウカを殺す事とリュウカの手でリヨウカを止める事…そして…リュウカが…リヨウカを幸せにする事…その全てが叶った事によってだ…リヨウカの邪や負の部分が消えた…いや正確には…融合しちまったと言うべきか…まだ慣れてないのと、身体は治っても戦闘に関する治療はまだ終わった訳じゃ無い為か…かなりリヨウカの動きは鈍っている…

リュウカ(幻想)「…それで、新しいのが出来たって聞いたが？」

リヨウカ(幻想)「ああ…それでしたら、少し見てて下さいね。」

リュウカ(幻想)「お…おう。」

リヨウカ(幻想)「……………」

パチン…！

リュウカ(幻想)「…な…何だ？その格好は…？」

リュウカ(幻想)「これですか？これは、これから行う技や形態に関係ある服装でしてね…見栄え的にはこれが適任かと思ひまして…。」

そう、今リュウカの着ているのは…確かに何時もの服装…ぱく見えるが…スカ―トは更に長くなつていて…足までとは行かんが…膝以上の長さで…服の模様が…龍や龍神等の龍系に関する物に変わっている…更には、装飾品も戦闘用か…少なくともいる…色も…所々に黒く染まつていて…欲に言う…極道やヤクザやマフィアに関係した服装っぽくなつていた…(以後…極道服と呼ぶ)

リュウカ(幻想)「……服装から見ると…まさか…極道か？」

リュウカ(幻想)「…よく分かりましたね…その通りですよ。」

リュウカ(幻想)「おいおい…。」

リュウカ(幻想)「それでですけど…形態変化…いえ…この服装では、スタイルっ

て呼びましょうか…先ず…【オリジナル…つまり自身】の場合のスタイルは…【怪力乱神・破壊神・龍神皇天帝王・伝説(自身)】の以上のスタイルとなっています。」

リュウカ(幻想)「あ?…あゝ…じゃあ、こうか? 【怪力乱神は…現実的には…喧嘩師スタイルで…破壊神が…破壊やスラッガースタイル…んで伝説って言うのは…自身のスタイルでやる…】って感じか? まあ、龍神皇天帝王は知らんが。」

リュウカ(幻想)「ええ、そんな感じですよ…因みに龍神皇天帝王スタイルは…激しく動き回り…敵を翻弄しながら敵を追い詰めて…隙あらば一気に仕留める…どちらかと言えば…喧嘩師に更にスラッガー又は破壊者スタイルとラッシュとダンサースタイルの今までの全てのスタイルを詰め込んだスタイルって言う所ですよ。」

リュウカ(幻想)「あ…なるほど…。」

リュウカ(幻想)「さてと…やってみますか…お姉ちゃん、的を。」

リュウカ(幻想)「あいよ。」

リュウカは、リュウカの為に的を出した…がその的は…

？「な…なんだあ!!」

？「お…おい！何処だよ此処は!？」

そう…人間だ…だが普通に人を殺すくらいの実力を持った男達だ…数は10人…

？「あ…？何だ？」

？「おいガキ！此処はどこかいな？」

？「喋ってくれたなら、見逃してやるぜ？」

リヨウカ(幻想)「答えるつもりは無いですよ、だってこれから…私のリハビリの為に散ってもらいますからね…悪く思わないでね？」

？「な…何だとこのガキ…!!」

？「もう良い!!構わねえ!!殺しちまえ!!」

リヨウカ(幻想)「御託は良いです…死にたい奴だけ…掛かって来いやああ…!!!!」
リユウカ(幻想)「うわあ…似合わねえセリフ…。」

そしてリヨウカは…何処ぞの伝説の堂島の龍みたいなセリフを言って…戦闘を始

めた…(因みにだが…リョウカ自身は、至って正常なのか…?…まあ良い…それであのセリフを言った…あれ? 本当に邪や負が取れたのか?)

VS 【チンピラ×10】

勝利条件【敵の全て撃破】

【戦闘開始】

? 「おらあ…!!!!」

ブオン…!!バシ…!!

? 「な…!?!は…離せ!!」

リョウカ(幻想)「遅い…止まって見えますよ?…ふん!!」

ズガアン…!!グシャ…!!バキ…!!グシャアアア…!!

? 「がああああ…!!!?」

リョウカ(幻想) 「…一人目…。」

? 「な…こ…コイツ強いぞ…!!」

? 「なら数で攻めれば…!!」

リョウカ(幻想) 「数で責めたら…、」

パチン…!

リョウカは、その場で指を鳴らすと、そこには…10人のリョウカの分身がそこに居た…

リョウカ(幻想&分身) 『何だって?』

？「こ…コイツ！増えやがったぞ…!!」

？「と…トリックだ…!!トリックに…！」

バシ…!!バキィン…!!

男の一人は最後まで言わせて貰えず…分身のリョウカに背後から頭を掴まれて…勢いよく地面に頭からめり込んで即死した…

リョウカ（分身1）「二人目…。」

？「な…何て奴だ…!!」

？「こ…コイツらに勝てるのか…!？」

リョウカ（幻想）「あ…テメェらに忠告言っとく…その分身…分身のようで分身じゃないからな？だから本体と全く同じ強さだから頑張れよ？まあ、どっちにしてもテメェらは死ぬだけだ…。」

？「な…何だと!？」

？「なら……！テメェから始末……」

ザシュ……!!ゴロン……ブシャアアア……!!!!

？「ひ……ひい……!!!!」

リョウカ（幻想）「ねえ……今お姉ちゃんに……何しようとしていたの……？ねえ？」

ドカ……！キイイン……!!ズガアアアン……!!!!

？「が……！」

リョウカ（幻想）「……お姉ちゃんに手を出す敵は容赦しません……一人残らず……
【コロシテアゲル……。】」

リョウカは、構えを変えて（龍神皇天帝王スタイルに変更）……殺気を放った……一気に4人も殺害されてしまったか……此処で怖気ついて失禁してしまう者が居たり……

必死に祈りを捧げる者まで居た…

リョウカ（幻想）「もう良いです……さっさと死んで下さい…。」

パチン…！

リョウカは、指を鳴らし…分身を全て消して…

パチン…！

ブルウン…！ブルウン…！ブルオオオオオン…！！

？「ひ…ひい…！！」

リョウカ（幻想）「……………。」

リョウカが出したのは、何とチェーンソー…そのチェーンソーは、神森一家の改造して出来た対人及び対戦車や対艦にも使えて…挙げ句には、核シエルターも鋼鉄の要塞も意図も簡単に断裂切断し…惑星も簡単に切断可能…つと言った物だ…まあ、例の刀剣と比べると、破壊力やヒット数ではチェーンソーが上だが…それ以外では完全に刀剣が上と言う感じだ…（コラそこ、『別に刀剣使えば良くね？』なんて言わない…）

リョウカ（幻想）「……………」

ブルオオオオオン…!! ザシユ…!! ブシヤアアア…!!

リョウカ（幻想）「5人目…。」

リョウカは、瞬時に男の懐に入り…真下からチェーンソーを振り上げて…男を縦に真っ二つに切断し…殺害した…

？ 「ひ…ひい…！」

？ 「く…くらえ…!!」

バン…！バン…！キン…！キン…！グシャ…!!

？ 「が…!?」

リョウカ（幻想） 「6人目…。」

男は、発狂しながらも拳銃を取り出して発砲したが…無残にも反射結界によって、威力や貫通力や弾速が何倍にも爆発的に膨れ上がった弾丸が…急所の心臓部を貫き死亡した…

リョウカ（幻想） 「…クックック…！ヒィハッハッハッハッハ…！！！」

ブルオオオオオン……！！！！

リョウカは……まるで……いや既に戦闘が始まる以前から狂っていたか……狂った笑い
声をあげて……

ザシユザシユザシユザシユザシユ……！！！！　　ブシャアアアア……！！！！！！

リョウカ（幻想）「ヒィハッハッハッハッハ……！！！！　　ヒヤハハハハハハハハハ
ハ……！！！！」

残った男達をチェーンソーで横に切断したり……縦に真っ二つにしたり……木っ端微
塵にしたり……首を切断したりして……全員殺害した……

ピキィイン……プシユウ……

リヨウカ(幻想)「……………!？」

戦闘が終わったのか、リヨウカは元の姿に戻った…が…リヨウカ自身に…その男達の返り血でべっとりと大量に付いていた…

リヨウカ(幻想)「私…私…は……………！何て事を……………」

リユウカ(幻想)「…リヨウカ……………あゝ成る程な……………あの姿になっちまうと、どうやら…お前の意識は別のなんかになっちまう感じで…事が終われば元に戻るが…それまでやった記憶は元に戻った際にその記憶を引き継ぐと言う感じになっちまうな…。」

リヨウカ(幻想)「…だとしても…私が殺した事に間違いないですね……………本当に…ごめんなさい……………」

リユウカ(幻想)「リヨウカ、もう良い…お前は確かに強いのは分かるし…俺達のをにやろうとしているのは分かるが…お前はれっきとした俺の大事な俺の妹なんだ

よ…お前が俺の為や家族や仲間や友達の為にその手を汚す必要も無いし…お前自身
が黒の世界に入る必要は無い…良いな？」

リヨウカ(幻想)「……………うん…。」

リユウカ(幻想)「おりこーさん…ほら、さっさと風呂入って服を着替えて…さっさと
休め…お前が倒れるのはこりごりなんだよ…後、此処の後始末はしとく。」

リヨウカ(幻想)「うん…分かった。」

そして…リヨウカは、風呂に入って…服を着替えて…精神的に参っている為かその
のままぐったりとした感じで眠った…一方リユウカの方は、リヨウカの殺した奴の
死体の除去をしているんだが…殺害方法が原因で手間取ってしまっていたらしいの
で…盛大に溜息をついた…

そしてまた次の日…

どうやら…本体のリヨウカが昨日の一件が原因…いや元々病弱で更には身体も弱

くまだ幼い身体である故か…起き上がる事さえ出来ないくらいにまで身体が弱っていた…

リョウカ(幻想)「…力…入らない…ですね…。」

リョウカ(幻想)「あのさあ…昨日言った通りにやって、ここまで弱るもんなのか？」

リョウカ(幻想)「ははは…面目無いです…っ…ごほ…ごほ…！」

リョウカ(幻想)「大丈夫か…？」

リョウカ(幻想)「ごめんね…多分2週間か…4週間ぐらいはこのままだと思います…げほ…！げほ…！…はあ…はあ…。」

リョウカ(幻想)「…そうか…まあ、お前は良く頑張った…何度も言うが、お前が倒れて動けない状態なら…俺達がお前の代わりをしてやる…だから安心しろ。」

リョウカ(幻想)「うん…分かり…ました…っ…！げほ…！げほ…！」

リョウカ(幻想)「はあ…もう寝とけ…リョウカ…。」

リョウカ(幻想)「うん……そうするね……おねえ…ちゃん…。」

リョウカは、ただ起き上がって…喋っただけにも関わらず…酷く体力を消耗してしまった為か…直ぐに眠ってしまった…

そして…数時間後…今度は、それぞれの神森一家を全員集めた会議が始まった…

リョウカ(幻想)「では…これより会議を行う。」

リョウカ(忍者)「あの…何の会議をするのですか？」

リョウカ(幻想)「これから説明するから待て…え…ごほん…！んで俺達は、未だに最強の存在なのは分かってはいる…だが…今の俺達に…深刻な問題を抱えている…。」

リョウカ(海賊)「それは一体…何だ？」

リョウカ(幻想)「それは…、」

全員『それは…？』

リョウカ(幻想)「それは即ち…！【深刻な側近や執事長やメイド長とメイドや

執事不足である…!!」

全員『な…何だつてえええ…!!?!?』

そう…これである…神森一家はありとあらゆる面で最強の存在なのだが…唯一の最大級の問題が…彼女達を支える為の側近やメイドや執事や執事長やメイド長が深刻に人材不足になっていた…

リュウカ（ハンター）「だけどよお…別にそこまで問題じゃあ…、」

リュウカ（幻想）「じゃあ、聞く…いつもこの空間や家や戦闘…その他色々あげたらキリがないくらいのをこなしているのは…誰だ？」

全員『……!?!』

そう…実はもうその人物の正体はもう分かっていた…だが全員が沈黙してしまっ
た…

リュウカ(幻想)「……だろうな……まあ、そうなるだろうな……今全員が揃ってる状態で……この全てをやっているのは……本体……いや……俺の嫁のリュウカだよ……リュウカが全てをやっているんだよ……はあ……お前ら一体何を考えている？これで全てにおいて最強って言う肩書きは御飾り当然だぞ？これだから本体のリュウカばかりに被害が出ているんだよ……せつかくもう無理しなくていいって言った直ぐ側にこの様だ……あ？」

リョクヨウ(幻想)「面目無いです……本当にごめんなさい……。」

アヤカ(幻想)「すまなかった……ごめんよ……。」

リュウカ(幻想)「はあ……まあ愚痴っても仕方ない……早速だが……兵士の中から大人数のメイドや執事を募集して……採用し……更に兵士の隊長クラス以上の奴から側近や執事長やメイド長を募集する……お前らも協力しろよ？」

全員『はい！（おう！）』

そして……何やかんや有りながらも……【何とか】募集に成功し……リュウカ達の直属の指導や修業によって……あの何処ぞのパーフェクト長顔負けの完全な従者が大量に

量産された……尚……これを1週間でやってのけたのだ……そう……リョウカ達（分身体も含む）の為に……無論、最低クラスメイドや執事でも……元は神森一家の隊長クラス以下の兵士達だ……戦闘が起きようが即座に鎮圧する程の実力者だ……もう一度だけ言うが……最低クラスのメイドや執事は……元は……神森一家の隊長クラス以下の兵士達だ……最弱クラスの兵士だけでも……全ての世界線の主役のキャラや敵キャラが束に掛かって来ようが……一人で余裕で返り討ちにする程の超実力者だ……能力無しでも……無論だが、能力有りの場合は……何処ぞの某メイド長よりも恐ろしい存在となる……因みにだが……彼女達の方にも、何と咲夜が居たりもする……しかも一人につき一人だし……彼女達の直属の鍛え上げた熟練者のメイド長だ……

リョウカ（幻想）「でな訳でだ……リョウカ……」

リョウカ（幻想）「あはは……なんか……色々とごめんなさい……」

リョウカ（幻想）「いやいや、別に気にする必要はねえよ。」

リョウカ（幻想）「えーっと……それじゃあ、どうしましょうか？」

リョウカ（幻想）「ん？何が？」

リヨウカ(幻想)「えっと……何と言うかその……お嬢様風って……基本的にどんな感じにでしたっけ？」

リユウカ(幻想)「……あ……」

そう……新たな問題が有った……そう……神森一家は、確かに最高神でお嬢様でもあるが……基本的には、部下には無理はさせたくないが為にか……基本的に家事や整備等全ての事は基本的にリヨウカがやっており……リヨウカが倒れたり何らかの事情で居ない……又は動けない時はリユウカ達でリヨウカの分をカバーすると言う物だった……だからお嬢様風と言う根本的な事が分からないのだった……特にリヨウカは酷い……何度も言うが基本的に全ての事はリヨウカが全てやっているのだ……だからリヨウカはお嬢様って言うよりも……メイド長……いや……メイド総長の方が一番長くやって来たと言う感じで、お嬢様としては……何にも知らないし……してもいないのが現状だった……因みにリユウカ達の場合は、お嬢様風と言うのは最低限の事は分かる……寧ろ神森一家としては偉業を成し遂げたと言う物だ……が……その最大の要であるリヨウカがその最低限の事を知らないとなると……その偉業は全てパー……水の泡と化するのだ……何せ……神

森一家の大黒柱って言うよりも…その親も…リヨウカ無しで神森一家は絶対に保たないし消えてしまう…って言う感じで、リヨウカの存在は、最早心臓部って最大の存在と化している…つまり…リヨウカがお嬢様風としての最低限の事を覚えなければ…その偉業は成し遂げたとは言えないのだ…

リヨウカ（幻想）「…あ…うん…まあ、リヨウカの事だからな…何も知らないんだよな？」

リヨウカ（幻想）「あ…はい…すみません。」

リヨウカ（幻想）「う…ん…どうするか…一応は服装的には問題無いし…カリスマ性は有る…尚且つ部下達の信頼も濃厚…まあ、確かに見た目や周りは問題無い…これだけでも最低限は満たしてはいるが…じゃあ、おーい。」

メイド長1「はい、何でしょうか？」

リヨウカ（幻想）「じゃあ、リヨウカ…このメイド長になんでも良いから指示を出してみろ。」

リヨウカ（幻想）「え？で…でも…。」

メイド長1「大丈夫です、お嬢様…その為の私達です…さ…ご指示を。」

リヨウカ(幻想)「そ…そう…それじゃあ…紅茶を入れて来てもらえないでしょうか？」

メイド長1「かしこまりました。」

リヨウカの指示を受けたメイド長は、瞬時にその場から消えた…

リヨウカ(幻想)「…時止め…ですかね…それとも…別の空間移動能力を使ったのかな…それとも…その両方かな…？」

リヨウカ(幻想)「まあ、俺達全員も…その両方を持っているがな…味方が使っても何も問題無いだろ？」

リヨウカ(幻想)「そうですね…。」

そして…数分後…

メイド長1 「お待たせしました、紅茶を淹れて参りました。」

リョウカ(幻想) 「えっと…ご苦労様でした…ありがとうございます。」

メイド長1 「有り難き幸せです…それでは何か有りましたらお呼び下さい。」

そして、メイド長は再び即座に姿を消した…

ズズズ…

リョウカ(幻想) 「……美味しいですね。」

リョウカ(幻想) 「そうだな…。」

リョウカ(幻想) 「流石、お姉ちゃん達に鍛えてもらっただけの事がありますね。」

リョウカ(幻想) 「へ…よせやい…俺達は、お前にこれ以上無理はさせない為にやっただけだ…褒める様な事はしてないぜ。」

リョウカ(幻想) 「それでも…私の為に…ありがとうございます…。」

リョウカ(幻想) 「……おう。」

ズズズ……カチャ…

リョウカ（幻想）「はい、ごちそうさまでした…。」

リユウカ（幻想）「おう…。」

メイド長1「それでは、片付けて来ますね。」

リユウカ（幻想）「おお…いつの間に…ありがとな。」

メイド長1「いえいえ…それでは失礼致しました。」

メイド長は、リョウカとリユウカが飲んだカップセットを持って、瞬時に姿を消した…

リョウカ（幻想）「っ…ふう…。」

リユウカ（幻想）「…大丈夫か？」

リョウカ（幻想）「はは…少しだけマシになった程度ですから…すみません…ま

た眠りますね……。」

リュウカ（幻想）「ああ……ゆっくり寝ている……って俺も疲れた……俺も寝る。」

リュウカ（幻想）「そう……ですか……それじゃあ……おやすみ……なさい……おね

え……ちゃん……。」

リュウカ（幻想）「……リュウカ？」

リュウカ（幻想）「……すう……すう……。」

リュウカ（幻想）「……寝るの早いな……あ……くそ……眠い……よいしょと……

んじゃ寝るか……。」

そして……リュウカも何時もの様にリュウカの隣に寝転がり……そのまま眠った……

【その
1..完
】

その2 神森一家の戦力超増加計画スペシャル

本体のリョウカが超弱体化期間から…約4週間経過して…

リョウカ（幻想）「復活です！」

リョウカ（幻想）「そうだな…ってリョウカ…そのセリフって何回も聞いた様な気がするが？」

リョウカ（幻想）「そうですね…確かにそんな気がしますね。」

リョウカ（幻想）「さてとだ…なんかこのままだとまたリョウカがぶっ倒れるだろうから…」

リョウカ（幻想）「…え？」

数時間後…

リョウカ（幻想）「……これより、神森大連盟国の戦力超増加計画を再び行う…。」

リヨウカ(幻想)「えっと…お姉ちゃん？」

リユウカ(幻想)「何だ？」

リヨウカ(幻想)「確かに原因は私なのは分かりますけど…そこまでしなくても…」
リユウカ(幻想)「リヨウカ、それは甘いぞ？まあ…お前の気持ちは分からくもないが…肝心なのは…如何にして、お前を…いや妹達や家族を守るのが重要なんだ…んで最大なのが…お前を守り切る事…尚且つ…絶対に犠牲者や破壊されない事や…如何にしてお前を動かさなくても済む様にする事が最も重要な最大級の課題なんだよ…」

リヨウカ(幻想)「……………そう……………ですか……………じゃあ、私って…やっぱり迷惑なの？」

リユウカ(幻想)「いや…寧ろ逆なんだよ…お前は俺達の為に…いや…この神森大連盟国全ての為に…たった一人で全てをやって来て…無茶ばかりしてまで…全てを尽くして来たんだよ…だからこそ、俺達は最大限までお前に貸した借りを返す…んで…妹で嫁のお前に俺がただのお飾りや…動かないニート扱いされるぐらいなら…死んだ方がマシだ…そんな屑みたいな存在になりたくないわ……………更に言えば

だ…俺達は俺達の意味でやっている事だ…なんも問題ない。」

リョウカ(幻想)「そう…なんだ…。」

リュウカ(幻想)「んじゃあ、そう言う訳だ…お前ら？理解したな？」

全員『はい！(おう！)』

リュウカ(幻想)「さて…じゃあ意見を聞こうか？」

リョウカ(海賊)「はい。」

リュウカ(幻想)「ん？ああ、ワンピースの世界線のリョウカか？言ってみろ。」

リョウカ(海賊)「はい、実は…神森大連盟艦隊についてですけど…、」

リュウカ(幻想)「おお…そいつらがどうした？」

リョウカ(海賊)「うん…あの…装甲列車艦隊には…【列車砲(主砲&副砲)】が有っ

て…潜水艦隊には…【超電磁砲(主砲&副砲)】…等の固有の武装が有りますけど…

艦船艦隊には…そう言った固有の武装が無いので…最大級存在である艦船艦隊

に…【神森大連盟国の要塞砲系又は超要塞砲系】を搭載してみるの如何でしょう

か？」

リュウカ(幻想)「成る程な…確かにそうだな…確かにこのままでも強いが…前に

戦った：超兵器達も：だんだんと強くなっている：あのトーレスと言う超兵器は：俺達にまあ、少しは被害を出した：更には、攻撃にある程度耐えた：なら、更に決定打を与えるべく要塞砲よ超要塞砲か：良いだろう！採用だ！」

リュウカ（海賊）「ありがとうございます！」

リュウカ（幻想）「そうだ：ついでにだ：なあ？確か、殆どの超兵器は：【超要塞級】だったな？」

リュウカ（幻想）「はい、そうですよ？」

リュウカ（幻想）「では：新しい上のクラスの：【超極弩要塞級・極弩要塞級・超弩要塞級】の以上三種を追加し：俺達の最大戦力の：【神森大連盟艦隊と神森大連盟護衛艦隊とジ・アークと神森大連盟国と神森大連盟国護衛軍基地「島型・惑星型の全て」】以上五種をその三種の内：最大級の：【超極弩要塞級】に改造し：他の種類は：【極弩要塞級及び超弩要塞級】に改造する！尚、既存の通常兵器類は：超兵器に格上げし：【超要塞級から、要塞級】に改造する！」

全員『はい！（おう！）』

リュウカ（幻想）「後ついでにだ：艦船艦隊に搭載予定の要塞砲系と超要塞砲系を

変えて…超極弩要塞砲と極弩要塞砲に変更し…搭載しようか。」

リョウカ（海賊）「ありがとうございます！」

因みにだが…この超要塞級から、超極弩要塞級までの差について簡単に説明する…先ず、超要塞級とは何かと言えば…AFのスピリット・オブ・マザーウィル…を例に挙げると…そいつを…【約1000万機以上】ぐらいのサイズとその強大な攻撃能力と防御能力…更に言えば移動能力も有って、ようやく超要塞級になれるという物だ…そしてだ…超弩要塞級とは…超要塞級の約1000倍以上のサイズアップと総合的な性能アップと武装追加…が見込まれる物だ…次に極弩要塞級とは…その超弩要塞級の…更に1万倍以上のサイズアップと総合的な性能アップと新たな武装追加がされた物で…最後の超極弩要塞級とは…その極弩要塞級の…何と【10億倍以上】のサイズアップと総合的な性能アップと更に武装が追加された物だ…つまりは…超要塞級と超極弩要塞級との差は…約10億倍以上の差が付いてしまうと言うのだ…まあ、無論だが欠点も有る…先ず最大級の欠点は、とにかくサイズがデカイ事だ…元々超要塞級でさえ、サイズがデカイと言うのに…更にサイズがデカく

なる…早速だが…相手によってはただのデカイでしかないし…とにかく移動しにくさも上がる…後、サイズがデカイ…イコールは…弱点部位そのものもデカくなる
と言う意味にも繋がる……とりあえずは以上だ…

リュウカ(幻想)「さて、次は？」

リュウカ(ハンター)「おーい、俺だ。」

リュウカ(幻想)「ん？ああ、ハンター×ハンターの世界線のリュウカか？どうぞ。」

リュウカ(ハンター)「ああ、神森大連盟艦隊に新しい艦を追加したい。」

リュウカ(幻想)「ほう、どんなのだ？」

リュウカ(ハンター)「ああ、こいつを見てくれ。」

ハンター×ハンターの世界線のリュウカは、とある設計図を見せた…それは…

【神森大連盟艦隊…追加艦】

・超極弩空母戦艦：シナノ系（信濃）

・超極弩空母戦艦：シナノタケル系（信濃武尊）

・超極弩駆逐空母戦艦：ハレカゼ大和ムサシナキタケル系

・超極弩駆逐空母戦艦：ハレカゼ日本ムサシナキタケル系

・超極弩装甲列車「空母戦艦型」 信濃系

・超極弩装甲列車「空母戦艦型」 信濃武尊系

・超極弩装甲列車「駆逐空母戦艦型」 晴風大和武信紀武尊系

・超極弩装甲列車「駆逐空母戦艦型」 晴風日本武信紀武尊系

以下略（潜水艦隊『解せぬ。』）

リュウカ（ハンター）「と言う感じだが…如何だ？」

リュウカ（幻想）「有りだな…んで、信濃が、ある意味で戦艦に改造される日が来るとはな…まあ現実の世界じゃあ…元々、大和型戦艦の3番艦として建築される

予定だったんだ…願ったり叶ったりだな…良し！採用だ！」

リュウカ（幻想）「ハンター」「うっしやー！」

リュウカ（幻想）「んで次は？」

アンカ（幻想）「はいはい、私だよ。」

リュウカ（幻想）「こっち側のアンカか、なんか有るんか？」

アンカ（幻想）「ええ、まあ戦力増加って言うよりは…リュウカさんその物の改善策が有りましてね…確認だけど…大体のリュウカさんの入院要因って何ですか？」

リュウカ（幻想）「ん？ああ、大体が自身の能力の反動や技の反動による…ほぼ自爆だな…。」

リュウカ（幻想）「う…ごめんなさい…。」

リュウカ（幻想）「まあ、今に始まったばかりじゃないが…んで何だ？」

アンカ（幻想）「ええ、だからそんな事だろうと思ってね…密かにリュウカさん専用の…能力と設定を追加したよ。」

リュウカ（幻想）「おお！どんなのだ？」

アンカ（幻想）「まあ、無駄かもしれないが…言うけど…先ず能力についてだけ

ど…リョウカさんは、偶に能力によって時間が経過と共に全能力が上昇する能力で…自身の身体の容量が超えてしまい暴走する事が有るので…先ずそれを抑える為の能力が…【時間経過と共に自身の限界を超える能力】を追加したよ、その能力はそのままの意味で…自身の限界を超える事が出来る能力…因みにだけど…その能力…リョウカさんとの死闘で、リョウカさんがあの時見せた限界を超えた究極の力と火事場の馬鹿力は…リョウカさんの能力による物だったと言うのが判明したよ…そしてそれが、今言った…自身の限界を超える能力と同じ…いえ…それ以上の物だと分かった…つまりは、私が作った物は…リョウカさんの能力の量産型と言った所だけど…リョウカさんならそれだけでも充分な筈ですよ。」

リョウカ（幻想）「そうですか、ありがとうございます！ アンカさん！ それと、驚きましたね…まさかお姉ちゃんに…そんな能力が有ったなんて…。」

リョウカ（幻想）「へ、よせやい…まああの時はただ勝ちたいと思ったからやっただけだ…。」

リョウカ（幻想）「それでもすごいです、それに…私に勝ったんですから、本当に凄い事です。」

リュウカ(幻想)「そうか…。」

アンカ(幻想)「…え…コホン…リュウカさん、まあ貴女の場合のオリジナルの方の能力名についてだけで…まあ名付けられるなら…【自身が窮地に追い込まれたり自身の想いに応じたりする事によって自身の限界を超えた究極の力を得る能力】…って言った所ですね…後、ついでに言えばだけで…リュウカさんもやろうと思えば多分だけど…リュウカさんの方の能力が使えると思いますよ?」

リュウカ(幻想)「……成る程な…。」

アンカ(幻想)「まあ、続きは置いといて…話を戻すけど…設定についてですけど…幾ら私でも、リュウカさん自身をどうにかするのは厳しかったけど…追加による物でどうにかしました…それは、【時間経過による強化抑制効果】と【全反動無効及び全自爆ダメージ無効化】と【常時全結界展開能力と常時全バリアー展開能力】と【常時ゴットピット系展開(※基本的に見えないけど、ゴットピットが行動時のみ見える)】…まあ大体以上かな…いくつか既存の奴が有ると思うけど気にしないでね?」

リュウカ(幻想)「あいよ。」

リュウカ(幻想)「ありがとう。」

リュウカ(幻想)「で、次は？」

リュウカ(龍)「おーい。」

リュウカ(幻想)「ん？龍が如くの世界線のリュウカか？言ってみろ。」

リュウカ(龍)「おう、実は、新たな武器種とジ・アーク専用の兵器を開発したぜ。」

リュウカ(幻想)「ほう、どんなのだ？」

リュウカ(龍)「あいよ、先ず…武器についてだが…この…【神森一家専用改造携行用ゴットアークレールキャノンと神森一家専用改造携行用要塞砲「全種」(通常・超・超弩級・極弩級・超極弩級)と神森一家専用改造鞭と神森一家専用改造短剣及び小太刀と神森一家専用改造大刀剣と大太刀と神森一家専用改造携行用神森大連盟艦隊の一部の武装】の以上で…ジ・アークには、先程言った…ゴットアークレールキャノンを…既存のゴットアークレールガンと取り替える形になるぞ、後、ついでにゴットピット系に今さっき言った武器の一部を追加する。」

リュウカ(幻想)「おお、これまた凄い量だな…。」

リュウカ(龍)「まあな、取り敢えずはこんなもんだろう。」

リュウカ（幻想）「そうか…それで次は？」

リュウカ（幻想）「……………どうやら以上そうですね…。」

リュウカ（幻想）「そのようだな…んじゃあ、聞くが…もう無いんだな？」

リュウカは、再度確認し…全員は、それぞれ返事して了承した…

リュウカ（幻想）「よし！んじゃあこれを持って…第1回神森一家の戦力超増加計画スペシャルの会議を終了する！」

全員『はい！（おう！）』

リュウカ（幻想）「さて、早速実行だぞ！ありったけの兵士集めて計画を実行するぞ！」

全員『はい！（おう！）』

そして…リュウカの号令によって…その戦力増加計画が実行された…

約…1年後…

リュウカ(幻想)「ぜえ…ぜえ…ようやく出来た…ぜ…。」

リュウカ(幻想)「はあ…はあ…は…い…そうです…ね…。」

神森一家と神森軍総出で掛かって…約1年掛けてようやく大規模な計画が終了した…だが流石に無茶が祟ったか…全員はかなり疲労していた…

リュウカ(幻想)「はあ…はあ…お前ら…計画は無事に終了だ…帰ってゆっくり休め…。」

リュウカは、そう言って、全軍を帰投させた…

リュウカ(幻想)「はあ…はあ…俺達も帰って…ゆっくり休もうか。」

リュウカ(幻想)「はい…そうですね。」

リョウカ達も自宅に帰投し…ゆっくりと休む事にした…

更に1週間後…

リョウカ（幻想）「おお、やっぱり大規模にリニューアルしたからか…大賑わいな。」

リョウカ（幻想）「そうですね。」

そう、この神森大連盟国は…いや、この空間そのものが大規模な改修工事をしたお陰で…続々と兵士や兵器が追加されて行っている…まあ何時もの事らしいのだが…ここまで規模がデカくなるのは珍しいらしい…

リョウカ（幻想）「まあ、平和ならそれで構わんな。」

リョウカ（幻想）「うん。」

リュウカ（幻想）「さてさて……もうちょいのんびりと過ごしたら……また旅の再開だ。」

リュウカ（幻想）「うん。」

リュウカ（幻想）「……今度こそ……俺達の求めてる平和を掴むし……今度こそ……お前を守ってやる。」

リュウカ（幻想）「………うん。」

リュウカ（幻想）「………リュウカ。」

リュウカ（幻想）「…何？」

リュウカ（幻想）「………愛してるぜ。」

リュウカ（幻想）「………うん……私も……お姉ちゃんの事……永遠に愛してるから……。」

そして……リュウカとリュウカは、愛を確かめる為に……その場で深めのキスをした……

【その
2
完】

その3 神森一家の騒動祭

とある神森一家のある日の事…

リュウカ（幻想）「……………」

リョウカ（幻想）「あゝうゝ…おねちゃん、あそぼう。」

リュウカ（幻想）「どうしてこうなった…。」

そう…リョウカがとある原因により…精神が見た目相応にまで退化してしまっ
た…

その原因が…

リュウコ（幻想）「いやゝ悪かった…まさかりョウカに当たるなんてな。」
リュウカ（幻想）「ああ!? 何とかしろよ! お前がやった事だろうが!？」

そう、事の発端は…リュウコだ…リュウコが新しい薬品で実験しようとした時に…たまたま通りかかったリュウカにターゲットを絞る…その新作薬品の入った銃で撃とうとしたら…更にたまたま運悪くリュウカが射線上に入り込み…

リュウカ（幻想）「ねえ…おねえちゃん…遊ぼうよ。」

…現在に至る訳だ…

リュウカ（幻想）「あ…分かった、分かったから…あ…ほら、ちょっとあそこで待ってろ。」

リュウカ（幻想）「はい。」

トテトテトテテ…

ある意味幼児化したリュウカは、何処かに可愛らしい足音立てながら行ってしまった…

リュウカ(幻想)「さて、リュウコ…何か俺に言う事は？」

リュウコ(幻想)「あゝ…だ…大丈夫だ！1日待てば元に戻る…!!だからお許しください!!明日まで！明日までお待ちをお…!!」

バキバキ…!ギチギチ…!ゴオオオ…!

リュウカ(幻想)「リュウコ…まずお前から血祭りに挙げてやる…。」

リュウコ(幻想)「ダニィ…!?!」

ガチ…!

リュウコ(幻想)「ふふお…!?!?」

キイイイイン…!!ズガアアアアン…!?!!

リュウカは、強制成長し…何処ぞの伝説のスーパーサイヤ人みたくなり…リュウコを岩盤送りにして…

ブシユウ…

リュウカ(幻想)「ふう…あ！やべ！リュウカの所に急がねば…!!」

リュウカは、リュウカの待つ所に向かった…

リュウカ(幻想)「おーい！リュウカ！何処だ！」

リュウカ(幻想)「ばあ…！」

リュウカ(幻想)「おわ…！」

リュウカ(幻想)「あはははは…！おねえちゃん、驚いた？」

リュウカ(幻想)「あ？ああ…驚いたさ…さて、何遊ぶ？」

リヨウカ(幻想)「んゝ…じゃあ、隠れんぼしよう…この家全体がステージだよ！

」

リユウカ(幻想)「ほう…良いだろう！じゃあ、リヨウカ！さっさと隠れな！」

リヨウカ(幻想)「はい！」

トテトテトテトテ…ゴオオオ…！

リユウカ(幻想)「…可愛い…ってか飛べるんだな…さて…1！2！3！4！
…5！…6！…7！…8！…9！…10！ヒヤハハ…!!もういいかい！？」

リユウカが声を掛けて隠れたかどうか確認してみたら…

『キヤアアアアアア…！！！！！！』

返って来たのは…家全体に響き渡る悲鳴だった…そしてその声の主は…

リュウカ（幻想）「……………！！！！？ リョウカ……………！！！！？」

ダッ……………！！ キイイイイン……………！！！！

リュウカは咄嗟に飛び立ち……………それと同時に……………

ウオオオオオ……………！！ ウオオオオオ……………！！

『緊急事態発生！緊急事態発生！全軍！戦闘配備！これは演習ではない！繰り返す！これは演習ではない！』

ウオオオオオ……………！！ ウオオオオオ……………！！

国全体が警報が鳴り響き……………軍全体が神森一家の所に緊急出撃して行った……………

リュウカ(幻想)「リョウカ…!! 無事に居てくれよ…!!」

キイイイイン…!! ズガアアアアン…!!

リュウカ(幻想)「リョウカ…!? おい! リョウカ!! 返事をしろ! リョ……………!!?」
リョウカ…!! おい! しつかりしろ…!!」

リュウカは、リョウカの居る部屋に突撃し…入ってみれば…そこには、血を流して倒れているリョウカが…そこに居た…

リョウカ(幻想)「っ…! お…ねえ…ちゃん…………。」

リュウカ(幻想)「おい…! 一体どうしたんだ…!?」

リョウカ(幻想)「ご…めん…ね…隠れ…場所…探して…いたら…げほ…! げほ…

! 急に…誰かに…襲われて…げほ…!」

リュウカ(幻想)「分かった……!どんな奴だ……!」

リョウカ(幻想)「はあ……!はあ……!……はつきりと……見えなかった……けど……長身の……男性で……青いレイン……コートに……身を包んでいて……片手に……ナイフを……持つて……ゴホ……!ゴホ……!……それ以外は……分からなかった……です……ごめんね……一緒に……遊べなくて……」

リュウカ(幻想)「ありがとな……だからもう喋らなくても良い……!お前が死んじまう……!」

リョウカ(幻想)「……おねえ……ちゃん……また……元気に……なれたら……遊べる……かな……?」

リュウカ(幻想)「ああ……!遊んでやるから……!!もう休んでくれ……!」

リョウカ(幻想)「……げほ……!げほ……!……後は……頼み……ます……ね……」

リュウカ(幻想)「リョウカ……!?!」

リョウカ(幻想)「……………」

リュウカ(幻想)「リョウカあああああ……!……!……!」

リョクヨウ(幻想)「はあ……!はあ……!何があ……!……!……? リョウカ……ちゃん……」

!？」

アヤカ(幻想)「おい……！リュウカちゃん……！！まだ死ぬんじゃないよ……！！」

リュウカ(幻想)「畜生……が……！！っ……！！！！！！ギギギ……！！グウウウ……！！！！！！」

アヤカ(幻想)「……！！！！！！？リュウカちゃん……！！落ち着けて……！！！！！！」

ビキビキ……！ギチギチ……！ピキイイン……！！ゴオオオ……！！！！！！

リュウカ(幻想)「グオオオオオオオオ……！！！！！！！！！！」

全員『……！！！！！！？』

ダッ……！！キイイイイイン……！！！！！！ズガアアアアア……！！！！！！

そして、とうとうリュウカは完全に激昂し……怒り狂って……半人半龍形態になり……何処ぞの妖狐の衣ならぬ……半透明の赤黒い龍神王の衣を纏い……部屋の壁をブチ抜き……外に飛び出した……

一方で…リョウカをやったであろう犯人の様子はと言うと…

？「な…何だって言うんだよ…！俺はただ、盗みに来て…たまたま見られた小娘にナイフぶっ刺したただけだぞ…！何なんだ…！あの化け物は…!?」

何処かの森の中にて…怯えながらさっさと何処かに行って欲しいと願う哀れな犯人だが…そんな願いを踏み躪られるのが先だった…

ゾクウウ…！！！！！！

？「…な…なんだ…!?この…殺気は…!?まさか…！見つけたのか…!?クソ！動け…!!」

だが、殺気の所為で思うように身体が動かず…そして…

キイイイイン……！！　ズガアアアアン……！！！！

？「……………！！？」

リュウカ（幻想）「グルルル……！！！！　グオオオオオオオン……！！！！！！」

キュイイイイイン……！！！！　ピキイイン……！！！！　ドギヤアアアン……！！！！

？「う……うわああああ……！！！！！！」

ピキイイン……！！！！　ズドオオオオオオン……！！！！！！

正に、サーチ&デストロイの要領で……あっさりと犯人を殺害した……

リュウカ（幻想）「グルルル……！！！！　グオオオオオオオン……！！！！！！！！！！」

そして…リュウカは、悲壮に満ちた咆哮をあげて…元の姿に戻って…氣を失った…

1日後…

リュウカ（幻想）「……………は！ここは!!」

？「あ…起きましたか？お姉ちゃん？」

リュウカ（幻想）「……………？ リュウカ…!?無事だった…のか…!?」

リュウカ（幻想）「まあ、私は…さつき目が覚めたばかりですよ…それと…元に戻りましたけど……本当に…ごめんなさい…私の不甲斐無さばかりに…お姉ちゃんが暴走してしまう事にしてしまって…本当にごめんなさい…!」

リュウカ（幻想）「……………いや…もう良いんだよ…お前が生きただけでも、俺は嬉しいんだぜ…。」

リュウカ（幻想）「本当…?」

リュウカ（幻想）「ああ、本当さ…。」

リヨウカ（幻想）「……えへへ……ありがとうございます。……ごさいます。」

リユウカ（幻想）「……おー……ってか思ったんだが……お前……傷の方は？」

リヨウカ（幻想）「え？それが……数時間前までは深刻な状態だったので……私の精神が元に戻った際に……能力が活性化して……この通り完全回復しました。」

リユウカ（幻想）「……相変わらず便利な能力だなあ……。」

リヨウカ（幻想）「そうですね……。」

リヨウカとリユウカが甘い空間を作っていた時に……

リユウコ（幻想）「よう！お二人さん！元氣かな？」

そう……元凶のリユウコが入って来た……

リユウカ（幻想）「……ああ……そうだな……そりゃあもう元氣だなあ……今ここでテメエをぶっ飛ばしたいくらいにはな……。」

リュウコ（幻想）「ええ…!? ちょ…ちょっと待って！リュウカも元に戻ったし…!! リュウカもこの通りピンピンしているだろ!?」

リュウカ（幻想）「だが、元凶である事には変わりはない…だから…ケジメつけろや。」

リュウコ（幻想）「そんな殺生なあゝ…!! こうなったら…! 避難する準備だゝ!!」

リュウコは、その場から逃走し…

ウィイン…! ガシャン…! !

そう…伝説の1人用のPODに乗り込み…逃走しようとしたが…

リュウカ（幻想）「何処に行くんだあ…?」

最早お決まりの台詞と共に…伝説のスーパーサイヤ人化したリュウカが例のPO

dに入ったリュウコの前に現れて…

リュウコ(幻想)「お…お前から逃げる為だあ…!!」

リュウカ(幻想)「ほう…堂々と良く言えたもんだあ…だがとうとう終わりの時が来た様だ…!」

ガチ…!!

リュウカ(幻想)「ウオオオオオオ…!!…!!…!!」

ゴゴゴゴゴ…!!ギチギチ…!!グシャグシャ…!!

リュウコ(幻想)「ぐお…おおお…!!はあ…この始末だ…ちきしょうめええ…!!…!!…!!」

ズガアアアアン……！！！！ ブオン……！ブオン……！ポオオピイイ……！！キイイイイ
ン……！！！！

リュウコの入った1人用のPodは……リュウカの手により……圧縮……潰して……遙
か彼方に投げ飛ばした……(尚リュウコは死んではない……)

そして1週間後……

リュウカ(幻想)「さーてさて……今日は、どんなメニューにしましょうかな……。」

リュウカが何時もの様に……昼食の準備をしていると……

ガサガサ……

リュウカ(幻想)「ん？何か居るの？」

リヨウカが、物音がした方を見ると…そこに…

リヨウカ（幻想）「あ…あ…！」

ガサガサ…！ブウウン…！

リヨウカ（幻想）「…ツツツ…！！！！いやアアアアアアアア…！！！！！！！！！！」

そう…現れたのは…黒くてすばしっこく…しかも生命力が異常な害虫…【G】が現れた…リヨウカは、家中に響き渡る悲鳴をあげてしまった…無論そうなる…

『緊急事態発生!! 緊急事態発生!! 全軍!! 出撃せよ! 繰り返す! 全軍出撃せよ!!』

ウオオオオオ…!! ウオオオオオ…!!

リュウカ（幻想）「どうした…!? 何が有った…!?」

リュウカ（幻想）「お…お姉ちゃん…!!」

ぎゅううう…！

リュウカ(幻想)「どうしたんだ…!! 落ち着いて言ってみろ…。」

リヨウカ（幻想）「……で……出たの……！」

リュウカ（幻想）「何が出たって言うんだ……？」

リョウカ（幻想）「……!! あ……あそこに……!!」

リュウカ（幻想）「あ……？……！！？　　っち！道理でリュウカが叫ぶ訳だ……！全軍に到達……！！【対G（ゴ○ブリ）装備をして家に集結せよ！！】　とな……！！早く……！！」

兵士隊長1「は！」

そして：約30分後に：

家の中に…対G（ゴ○ブリ）装備をした軍が巡回し…

ガサガサ…！

兵士1「…!!居たぞ!!」

兵士2「目標発見!!応援を送れ!!」

HQ『了解！全軍！目標を捕捉との報告有り…現場に急行せよ！』

ガサガサ…！ブウウン…！

兵士1「逃すなあ…!!」

ダダダダダダ…!!

兵士2 「グレネード…！」

ガチャ…！ブォン…！ゴロン…！ピキィイン…！！バフウウン…！！！！

兵士2 「やったか!?」

兵士1 「馬鹿者！それは生存フラグだ!!…!!見ろ!!」

ガサガサ…！

兵士3 「退いている…!!うおりやあああ…！！！！！！」

キュイイイ…!!ドドドドドドドドド…！！！！

そして…数時間を経て…ようやくG（ゴ○ブリ）殲滅作戦が終了した…

リュウカ（幻想）「お疲れさん…お前ら、さて、疲れただろう…俺達が料理を作ってやるから食って行け。」

全軍『は！』

リュウカ（幻想）「怖い…怖い…怖い…怖い…。」

リュウカ（幻想）「…ん？おい、リュウカ。」

リュウカ（幻想）「ひゃう…!? え…えーっと…どうしたの？」

リュウカ（幻想）「……………はあ…大丈夫だ、例の奴は始末した…だから安心して。」

リュウカ（幻想）「そ…そうですか…良かったです。」

リュウカ（幻想）「…はあ…元最強が…Gで怖がるのも、なんかシュールを感じるな…まあいっか。」

そして、リュウカ達は、大仕事を終えた軍に料理を振舞って…1日を終えた…

その4 神森一家の恐怖のエイプリルフル

4月1日……これはどう言う意味かと言うと、エイプリルフルって言う……嘘をついても良い日で……わいわいと楽しい行事でもあったりする……が……

あの狂気化異変を解決したて言う英雄達とは言う……(何ヶ月も経過して、現在……その問題の日である……)

リュウカ(幻想)「来ちまったか……」

岬「どうしたの？」

リュウカ(幻想)「今日は、何月何日か知っているか？」

宗谷「突然どうされたんですか？」

リュウカ(幻想)「良いから答えろ……まあ別に間違えて閉まっても構わん。」

宗谷「は……はあ……今日は、4月1日ですよ？」

リュウカ(幻想)「そうだな……じゃあ、今日は何の日か知っているか？」

岬「え？勿論…エイプリルフルだよ？」

リュウカ（幻想）「ああ、そうだな…はあ…困った…俺達にとって地獄の日だな…。」

宗谷「え？どう言う意味ですか？」

葉（幻想※分離した）「あの…教えてもらえないでしょうか？」

リュウカ（幻想）「ああ、実はな…何でこれが地獄の日かと言うと…この日に限ってリュウカは…嘘に関して敏感で…更に俺の事に関してもかなり神経質になっている…。」

岬「…え？リュウカちゃんが？何で？」

リュウカ（幻想）「ああ…実はな…昔の今日に…って言っても最近だが…リュウカにドッキリで…俺が死んだ様に見せたり…俺が浮気している…等のドッキリって言う嘘を…俺の許可無くやられてな…こん時は、たまたま運悪く…俺は家を少しだけ空けてしまった…いや、正確に居たんだが…側には居なかった…んで、何度も言うがリュウカはまだ子供だ…だから嘘だろうが、純粹で有るが故に…そう…俺が死んだ事や浮気したんだ…なんてホラ吹いたんだよ…そうしたら、リュウカはどうしたと思うか？」

文花(幻想※葉と同じく分離)「まさか……暴走したのかい？」

リュウカ(幻想)「ああ…暴走をはるかに超えた暴走…その更に超えた暴走…正に暴走の中で最終形態の奴を引き起こして、何もかも全てを消滅させようとしたぞ…。」

宗谷「…??暴走をはるかに超えた暴走で…それを更に超えた暴走って言うのは…？」

リュウカ(幻想)「あゝ…それか…今のリュウカの場合は…【通常の暴走はしない…】…が…それ以上の段階の暴走は普通に引き起こす…んで、そんな時になったのが…滅多な事でないようにがない…暴走系の中で一番ヤバイ最終形態だ…その名は…【終焉ノ終滅零神・深度:最大・段階:最大】…って言う状態だった…これはつい最近でいつのまにか新しく自動追加されていた物だった…まあ俺達もあからさまにヤバいつて思ったぜ…無論、なりたくないって思いながらな…。」

岬「そうなんだ…それでだけど…深度や段階って言うのは？」

リュウカ(幻想)「ああ、暴走した場合には…基本的に、暴走の深さとその段階って言うのがある…無論だが…深ければ深い程に…その暴走の脅威や恐ろしさが増し

て…鎮圧するのは難しくなる…んで、段階も同様だが…所謂だが…暴走の深度を更に上げる…まあ深くする為のレベルって言う物だ…例えば、暴走の深度が1の状態…段階が最大になると…深度レベルが2になり…段階がリセットされる…って言う物だ…が更に真に恐ろしいのは…通常の暴走でも更にヤバイ暴走になる場合の可能性もある…んで、通常の暴走から、大暴走形態になる場合には…通常の暴走形態で…深度が最大で…段階も最大になった時に、大暴走が発動し…深度及び段階もリセットされるって言う事だ…。」

文花(幻想)「うわ…聞いただけで恐ろしさが伝わるよ。」

リュウカ(幻想)「ああ、まあ俺達はなつた事はまあ…無い訳じゃ無いが…俺達の場合はちゃんと加減って言うのは理解しているし…制御も出来る…まあそれは覚醒形態って意味だが……がだ…相変わらずリュウカだけは、暴走の制御が出来ないのが実情だが…まあ通常の暴走程度なら制御可能だが…それ以上の段階は無理だ、ってか普通に暴れに暴れてしまう…殺されかけたから分かる。」

宗谷「……ご愁傷様です……。」

リュウカ(幻想)「全くだ…まああの時は、一番ヤバかった…俺どころか…お前ら

も消された可能性も有ったからなあ……まあ間一髪、俺が来て……何とか鎮圧出来たから良かったんだがな……」

葉（幻想）「そうなんですか……」

岬「……ねえ、その時の事って……もうちょっと詳しく聞かせて貰えないかな？」
リュウカ（幻想）「あ？まあ良いぜ……」

そして、リュウカは……当時の状況を説明を始めた……

時は遡り……例の植物の異変及び狂気化異変が発生する……2年前の今日……

リュウカは、仕事関係で……家には居るが、リュウカの側には居なかった……がリュウカは、重々承知の様だったが……

時刻的には、夜ぐらいになった……

リョウカ（幻想）「……流石に遅いですね……お姉ちゃん……大丈夫なのかな？」

この時リョウカは、一人きりだった……他の家族は、仕事やお出掛けや買い物……等の理由で、居なかったが……そんな時……

プルプル……プルプル……

リョウカ（幻想）「ん？リユウコお姉ちゃんからだ……。」

突如として、電話が鳴りだした……電話主は、リユウコの様だ……

リョウカ（幻想）「はい、どうしましたか？」

リユウコ（幻想）『お！リョウカか……！丁度良かった……！今大変な事が起きてんだよ……!!』

リョウカ（幻想）「……!!何が起きたの!？」

リュウコ(幻想)「ああ……！ 良いか？ 落ち着いてよく聞けよ……？」

リュウカ(幻想)「う……うん……」

リュウコ(幻想)「実はな……お前の所の姉……リュウカが……【血まみれで倒れてんだよ……】んで……急いで治そうとしたら……【首が取れてたんだよ……】」

リュウカ(幻想)「……………！！？！？……………う……………う……そ……だよ……ね？」

リュウコ(幻想)「……………いや……………マジだ……今の状態を映像で送る……」

そして、リュウコから、その映像が出て来て……血まみれで……首が切断されている……無残な姿になってしまった……リュウカにとって、大切な存在で……愛する存在である……リュウカの姿だった……

リュウカ(幻想)「……………！！！！？！？！！？」

ビキビキ……ガシャアアアン……！！！！

リヨウカは…リユウカが凄惨な死体によって…リヨウカの中で何か完全に砕け散った…

ドクン…!!

リヨウカ(幻想)「…………い…いやあああああああ…………!!!!!!」

ピキイイン…………!!　ズドオオオオオオン…………!!!!!!

リヨウカ(幻想)「…………(お姉ちゃんが…死んだ…………お姉ちゃんが…死んだ…………ああ…………神様…やっぱり私が幸せになる事は嫌いなんですわ…………ハハハ…ああ…………もう…………良いや…………お姉ちゃんが、居ない世界なんて…………)」

【消えちゃえ…。】

キユイイイイイン…………!!!!　キイイイイイン…………!!!!　ゴオオオオオオオオ

…!!…!!

とうとう…リョウカの心は打ち砕かれてしまい…リュウカの居ない世界を完全に
拒絶し…

リョウカ（幻想）「グオオオオオオオオン…!!…!!…!!…!!」

ピキイイン…!!…!! ドオオオオオオオン…!!…!!…!!

再び、赤黒い禍々しい爆発を引き起こして…リョウカは、全てを破壊尽くす…完全な邪神…いや…大邪神を超える大邪神…全てを終わらせる破壊…終焉…零…それ
に極振りした…破壊の魔龍神王が誕生した…

リョウカ（幻想）「グオオオオオオオオン…!!…!!…!!…!!」

そして…破壊の限りを尽くすりョウカは…全てを破壊する為に動き出した…

一方その頃リュウコは…

リュウコ(幻想)「ヤバイヤバイヤバイ……！！！！　やり過ぎた……！！！！　あれは嘘だつてのに……まさかりユウカが死んだ事やこの……リュウカそっくりの人形……に血のりを大量にぶっ掛けて……更には、人形は……頭部の部分が着脱式なだけなんぞ……全部嘘……！全部嘘なんだぞ……！！　って！あれは……不味い……！！！！」

そう、案の定……首謀者は、リュウコだった……リュウカの死体は、頭部が着脱式な人形で血のりを大量にぶっ掛けただけのフェイク……リュウコは、エイプリルフールって言う事で……実験でリュウカをドッキリするつもりが……この有り様だ……逆効果で、リュウカが暴走を誘発させてしまうと言う大失態をしでかしてしまった……

そして、リュウカが暴走したと聞き……急いで全軍出撃して……家族が揃った……無論

だが：リュウカも居る：

「態じゃねーかよ……!!!」

リヨウカ（幻想）「グオオオオオオオオ……！！！！！！！！」

ズドオオオオオン……！！！！！！！！

ヤバい熱線を乱射しまくっていて……火の海に変えていた……

リュウカ（幻想）「クソ……!! 一体どうしてだ……!! まさか……!! おい……! お前

らに一応聞くが……お前らの中で……今日……俺の事でなんかやりやがったな？ 今すぐ答えろ!!」

アヤカ(幻想)「私は知らないね……買い物で忙しかったからねえ……」

アンカ(幻想)「私達は、そもそも居なかったし……茶々入れるような冗談は言わずに正々堂々とやり合う物でしょう?」

リュウカ(幻想)「……なるほどな……で……リュウコ……お前さっきからガタブル震えてるな?………何か知っているのか?」

リュウコ(幻想)「………!!? な……なんの事だ……?」

アंकロ(幻想)「……ふ……この子……嘘言ってるね……僕は長年邪神やってるから、大体の嘘は完全に見抜けるよ……さて、まあ……どうせ君の事だから……今日……確かエイプリルフルだったね? それを利用して……とある実験で、リュウカに対してドッキリを仕掛けてみた結果……あの状態にしてしまった……なんて事ないよねえ……? リュウコちゃん……?」

リュウカ(幻想)「……どうなんだ? 大人しく白状しろ!」

リュウコ(幻想)「……アंकロの言う通りだ……俺が愚かだった……! まさか、エ

イプリルフルって言う事で…リョウカに…お前が死んだって言うドッキリを仕掛けただけなのに…！」

リユウカ(幻想)「……………こ…この大馬鹿野郎がああ……………！」

バキィン……………！！

リユウコ(幻想)「グフ……………！！」

リユウカ(幻想)「……………テメエ…幾ら今日がエイプリルフルだって言って…俺の事を死んだ事にする愚かな真似すんじゃないよ……………！！そんな事すりゃあ…リョウカだってああなる……………！！お前はそれを理解してやったのか……………！！」

リユウコ(幻想)「……………すまなかった……………！！そこまでは……………！！」

リユウカ(幻想)「……………つ……………！！もう良い……………！！話は後だ……………！！要するにだ……………リョウカに、俺が生きている事を認識させて……………どうにか鎮圧すれば良いだけの事だ……………！！耳が駄目なら……………存分に俺の姿を見せてやるだけだ……………！！」

リュウカは、そう言い…愛するリュウカを止めるべく、飛び立った…

リュウカ(幻想)「グオオオオオオオン…!!!!!!」

ビイイイイイ…!!!!!!

リュウカ(幻想)「やらせるかああ…!!!!!!」

ガキイイイイン…!!!!!!　　ビイイイイイ…!!!!!!　　ズドオオオオオオン…!!!!!!

リュウカ(幻想)「グウウウウ…!!!!!!」

リュウカ(幻想)「……………リュウカ……………」

リュウカ(幻想)「グオオオオオオオン…!!!!!!」

キユイイイイイン…!!!!!!　　ビイイイイイ…!!!!!!

リュウカ(幻想)「……リュウカ……頼むから……元に戻ってくれ……。」

ガキイイイイン……!!ズドオオオオオオン……!!

リュウカ(幻想)「グウウウウ……!!グオアアアアアア……!!!!」

リュウカ(幻想)「リュウカ……苦しんだな……俺が居なかった事が悲しかったんだな……俺が……死んだ事が……悲しんだな……。」

リュウカ(幻想)「グオアアアアアア……!!!!!!」

ブオオン……!!……ガチ……!!

リュウカ(幻想)「……!!!!?」

リュウカ(幻想)「……もう……大丈夫……大丈夫だから……お願い……元に戻って……リュウカ。」

リョウカ（幻想）「……………！！！！！！！！？」

ザーツ…！

リョウカ（幻想）「……………！！！！」

ザーツ…！

リョウカ（幻想）「……………。」

ザーツ…！

ドクン…！

ドクン…！

ドクン…！

ピシユウン…！ピシユウン…！ピシユウン…！ピキイイン…！…！…！…！

リヨウカ（幻想）「グオオオオオオオオオン……………！！！！！！！！」

ボオオン…！！ボオオン…！！ゴオオオオ……………！！！！！！！！

リヨウカは…リユウカの呼び声と…姿を認識し……………身体が発光しだし…断末魔をあげるような咆哮を放った後…連鎖爆発が発生し……………徐々に身体が融解溶けながら…その巨体が地に墜落して行った…

リユウカ（幻想）「リヨウカ…！！」

キイイン…！！ガチ…！！

リュウカは、その墜落する巨龍からリョウカを引き摺り出し…救出し…

リュウカ(幻想)「ふう…やれやれ…もうそんな姿見るのは…もうごめんだな…つてヤバイ!!お前ら!!逃げろ!!墜落するぞ…!!

ゴオオオ…!!ズガアアアアン…!!ピキイイン…!!!!ズドオオオオオオ
ン…!!!!!!

その巨龍は、地面に墜落し…臨界点を突破し…爆発寸前状態だったのを地面に墜落した衝撃で…超規模の大爆発を発生させて、周囲を消しとばした…が、それで怪我人は居なかったのは幸いだった…

そして、その後含めてまとめたら…リョウカを救出したリュウカは、墜落する巨龍から全軍と家族を退避させて、被害を免れて…その後一旦リョウカを再び入院させて…リョウカ及びリュウカを除く完全復旧作業をした…無論だが…リュウコの件

は…流石にリヨクヨウやアヤカがブチ切れて…1年間雑用係と…修理費及びリヨウカの入院費及び1ヶ月の間の生活費をリユウコ自身のお小遣いを差し引いたり…長い説教責めをされる等の処罰が与えられた…無論だが、嫁で妹である、リヨウコは呆れに呆れたそうだった…まあそれでも離婚話はなかったが…最近までは口を聴かなかった…

そして、現在に戻る…

リユウカ(幻想)「……って言う訳だ…全く呆れたもんだ…まさかエイプリルフルって言う特性で、全てが消滅し掛けるなんてな…。」

岬「うん…そうだね…ごめんね、変な事聞いちゃって…。」

リユウカ(幻想)「いや、気にするな…俺達家族のルールじゃあ…隠し事はしない事になってんだよ…だからお前らには普通に話せる。」

宗谷「そう言えば…そうですね…。」

リユウカ(幻想)「まあ、正式な家族だが…いつも通りで構わん…普通に家に帰る

なり…俺達の所に泊まりに来るなり構わんぞ。」

岬「ありがとう…リュウカちゃん。」

リュウカ(幻想)「おう…あゝ…ついでにだが…リュウカには、あの出来事は、夢だつて言う事になつてから忘れないでくれよ？まあ…そもそもこの話を忘れてくれるんだつたら楽な方だが…。」

宗谷「…夢…ですか…。」

リュウカ(幻想)「そうだ…リュウカにとってはあまりにも辛い現実だ…前にも全てを失つた経験も有るからな…それで俺が死んだつて聞いたり見たりしたら…あんな暴走に当たり前の様になつちまうからなあ…。」

文花(幻想)「…そっか…そうだよね。」

リュウカ(幻想)「…まあそう言う訳だから、基本的に今日と言う今日は…如何なる理由だろうと、家族全員は休日且つリュウカの前では絶対に嘘は言つてはいけない…つて事になつてゐるし…特に俺の場合は…ほれ。」

全員(リュウカ除く)『……………あ…。』

リュウカ(幻想)「……………すう……………すう…。」

そう……言う事である……この日に限ってリョウカは、頑なに……何が何でもリユウカの側から離れようとしなかった……

宗谷「あの……いつも間に居たのですか？」

リユウカ（幻想）「いや、ずっと居たぞ？……まあ寝ているけどな……がどうやっても俺からは離れない……まあ仕方ないだろうな……あん時は、俺が側に居なかった事が悪いしな……正直迂闊だったと思った……まあ過去を引きずっても仕方ない……とりあえず今のリョウカは、俺と言う存在がちゃんと有ると言う事を確かめないといけないからこうなってもいるし……更には、今までの負担や精神的にも有るし……今日って言う地獄の日って言うストレスが重なって、眠ったままだ。」

岬「……確かに……そうだねー……こうしてみんなと話しているのに……全然起きないね……。」

宗谷「……やっぱりあの時の事件って言うのがショックで……。」

リユウカ（幻想）「ああ……そうとしか言いようがないだろう……まああの時もれっき

とした異変としてカウントされるけどな…。」

文花(幻想)「あらら…そうなの?」

リュウカ(幻想)「ああ…んで、異変の名前が…【終焉を誘う4月1日異変】…って言う名前だ…まあどちらかと言えば…恐怖のエイプリルフル異変って言う名前の方がしっくり来そうだが…あん時のリュウカはガチで全てを消滅させようとしたから、前者の名前になっているんだよ。」

文花(幻想)「あ…そう…。」

宗谷「あの…思ったのですけど…ずっとリュウカさんを抱いていて大丈夫なんでしょうか?」

リュウカ(幻想)「ん?ああ、大丈夫だ…ってかなんか知らんが軽いからなあ…まあお前らでも軽々と抱き上げてもそんなには疲れんぞ?…まあリュウカはやらんが。」

岬「あはは…そうなんだ…それよりも、リュウカちゃんって…何時も良く頑張っていてカッコイイって思うけど…こうして見ると…なんか…可愛いね。」

宗谷「確かに…言われて見れば…本当に子供の様な感じで眠っている姿も…良い

ですね…。」

リュウカ(幻想)「おお…お前らも分かるか？まあ、リュウカに関しては俺が詳しい…何から何まで知っている…まあ敵さんに易々と教える馬鹿じゃねーし…渡す気もねえがな…ま、俺も堕ちたもんだな…はあ…俺自身も重度のシスコン気味な気がするな…。」

葉(幻想)「……??シスコンって何ですか？」

リュウカ(幻想)「葉…お前らもだが、それを知るのはまだ早い…気にしたら駄目だ…ってか知ったら知ったで後悔するだけだ。」

文花(幻想)「ま、そう言う事よ…貴女には早いわ…もっと大きくなったら分かる事よ…大きくなれたらの話だけだね…。」

葉(幻想)「む…私だって…大きくなりたいですよ…。」

リュウカ(幻想)「葉…残念ながらそれは無理だ…リュウカを見れば分かるが…こゝろ見えて、何年…何十年…何百年…もうキリがないくらいの時を過ごしているが…永遠にこの姿のままだし…年齢も永遠の10歳未満のままだ…他の不老不死の奴らと違い…完全に年齢も上がらず固定だ…誕生日の際には、その固定されている年齢

に上がるって言うシステムだしよ…。」

葉(幻想)「……なんか…すみませんでした…。」

リュウカ(幻想)「……まあ良いが……ってか…あゝ…言ったかどうか分かんが
一応言っておくが…俺達はもう既に結婚してんだよな…これが。」

全員(リュウカ及びリョウカ除く)『……え!?』

リュウカ(幻想)「その様子だと、言ってなかった感じだな…まあとにかくもう俺
達は結婚している事は事実だ…まあ公表はしなかったがな…。」

宗谷「け…結婚…!?年齢差と身長的には…絶対に出来ない筈では!?それにそも
そも女性同士なんて…聞いた事無いですよ!?!」

リュウカ(幻想)「ああ、普通ならそうだろう…だが俺達の前じゃあ有り得ない事
が有り得ないって事は当たり前だぞ?そこは慣れないとな?」

宗谷「む…確かにそうですけど…結婚した理由が知りたいです。」

リュウカ(幻想)「そうだな…じゃあ直球で言えばだ…本気のリュウカと命を賭
けた決闘をして…真正面から勝った…んで結婚した…。」

岬「……………え?」

宗谷「どう言う事なんですか!? 何で…貴女とリョウカさんが決闘を!？」

リュウカ(幻想)「ああ…それはだな…普通なら、決闘を仕掛けて来るのは…俺の方で…更には命を賭ける馬鹿な真似はしないし…怪我もさせない様にはしている…だが今回の場合には…リョウカ自身が…自らの意思で俺に決闘を願い…更には殺し合いをする事になっちまった…だがするしかなかったんだよ…。」

岬「ど…どうしてなの!？」

リュウカ(幻想)「ああ…これはリョウカ自身の、最初で最期の…俺との最後の殺し合いの決闘をしたいと言う願いと…もう一つ…もしこのまま戦っていると、自分が自分で無くなってしまふのが怖い…だから俺自身の手で…尚且つ真正面から堂々と勝負してリョウカに勝ち…リョウカを止める事…それが俺に出来る事で…そして…リョウカ自身の最初で最期のデカイ我儘だ…無論だが拒否れば、今のリョウカ自身は存在せず…ただの戦闘狂に成り代わり…昔の頃に返っていたし…もし俺が負けてしまっても同様で…俺はこの場には居ずにリョウカ自身も死ぬか…昔の頃に返るか…どちらかを選んでいたんだよ…。」

岬「……………」

リュウカ(幻想)「……んで結局は、決闘をして……まあそれと同時に、俺とリョウカの所有している兵器やペットが命がけの決闘を同じくやりあっていたがな……俺達の知らない所でな……無論大惨事だったそうだがな……んで更には、兵器系は、全て大破……又は完全破壊されてたり……ペットに至っては入院していたからな……荒れに荒れまくってたぞ……まあ……勝負の結果は、俺が勝ったが……俺自身も相当な無茶が崇ってしまったからか……報告では、俺もリョウカも……死んでしまった様だ……」

全員(リュウカ及びリョウカ除く)『……………!?!?』

リュウカ(幻想)「あ……安心しろ……ちゃんと蘇った……だからこうしてこの場に居るだろう?……ま……俺もリョウカ自身も死んだ事には気付かなかったけどな……まあ仲良くあの世で遊んでもらったがな……身体が蘇るまで暇だからな。」

岬「死んだ……の?」

リュウカ(幻想)「……………ああ……俺達だってな、やりたくてやってる訳じゃない……それにこの事も本当なら言いたく無い事だ……知ったら知ったでお前ら自身が悲しむ……だから言いたくなかった……まあ喋ってしまった事は仕方ない………本当に済まないと思っではいる。」

岬「……………」

リュウカ(幻想)「だがこれだけは言える…もう俺達の中で殺し合いになる試合はしない…俺達に誓ってな…それにもう家族内でのルールを追加で…【如何なる理由だろうと…家族内での殺し合い及び命掛けの試合…つまりはデスマッチ系を含む方式又はルールを仕込んだ試合は一切禁ずる…例外も含めてだ。】」

岬「そ…そうなんだ…」

リュウカ(幻想)「まあ、遅かったと思うし…すんげえ後悔はしているが…これでもうリュウカは裏や黒の世界に踏み込む事は多分無い筈…と信じたい…」

宗谷「何故そこは疑問形…?」

リュウカ(幻想)「何というか…曖昧なんだよな…無茶に近い感じのレベルはやっているしいや普通に無茶レベルはやってるな…更に言えば、あんまし変化が無いって言う感じが有るな…まあ結婚したから、そのお陰で…入院する頻度は減った……が相変わらず入院する時は普通に入院物の事をする……で、俺達は少しでもリュウカに楽になってもらおうと考えた結果だが…ようやく最近になって…メイドや執事やメイド長や執事長や側近…その他色々…身の回りの事をやる奴らを配置

し始めた……がメイド総長や執事総長の座は譲らんけどな……」

宗谷「なるほど……。」

葉（幻想）「あの……メイドって……咲夜さんみたいな人達の事？」

リュウカ（幻想）「まあそんな感じだが……ってか、実力的には咲夜よりは完全に上だし……紫でも勝てねえよ……そればかりか、龍神が何体も掛かって来ようが……刺身に変えられるか……龍の肉って言う料理材料にされるかのどちらかだ。」

文花（幻想）「うわ……エゲツないね……ってか普通に龍神様に勝てるのか……。」

リュウカ（幻想）「おう……ってかこの空間に居る奴らは最低でも……全能神や全宇宙を軽く蹂躪するぐらいのレベルは優に持っているぞ？ 無論……他の世界線の奴らも蹂躪するぐらいにな……。」

葉（幻想）「へ？ そうなのですか？」

リュウカ（幻想）「おう……まあ俺達家族の場合は……こう言う奴らと特殊部隊が束に掛かって来ようが瞬殺出来るぐらいは優に持ち合わせているがな……ってか普通の事だけだな？ ……まあ例外も有るし……そもそも、この空間は一種の生活に困っている奴らを保護する事や……とある理由でその世界から拒絶又は困難になった奴ら……」

その他色々だが、色々な事情が有って流れ着く…楽園みたいな空間だ…まあ、葉や文花…そしてお前らも同じだが…って言うよりも岬達の場合は…突然国諸共転移して来たって言うのが良いか…がリョウカがお前らの事を本当の家族の様な感じに扱ってるし…俺もお前らの事を家族と思っているから家族にしている…しかも正式だぞ？」

岬「あ…ありがとう。」

リユウカ（幻想）「……さてと…さっさと今日を乗り切って…通常運転に戻さんと…ってその前に、あの異変で、俺達もやっぱり追い詰められたな…それにあの大和や武蔵についての調査は完了した訳じゃない…良し！また戦力関係での会議するか！お前らも参加するか？」

岬「うん！行くよ！」

葉（幻想）「私達も行くね。」

リユウカ（幻想）「そうか、じゃあ明日また来てくれよな…あゝ…因みにだが…度々戦力増加計画って言う会議…まあ今正にやろうとしている事だが…俺達にとつてのメリットだと思うが…実際にはリョウカの為にやってるような物だ…戦力を上

げるに上げて、どれだけリョウカの負担を減らせるかって言うのが真相だが…今現状で、もっともリョウカが負担が掛かり、入院する事になるのは…戦闘系が多い…だから考えついたのは、こう言う会議を度々やって…戦力を増やさないといけない…無論だがリョウカにはただの戦力増加計画って言う事になってはいる…嘘では無いから無問題だ…ただ言わん…それだけだ。」

岬「そう…分かった、私達も出来る限り考えてみるよ。」

リュウカ(幻想)「おう、ありがとな。」

そして今日と言う日が過ぎて…次の日に第二次戦力増加計画スペシャルをやった…今回も新たに新しい兵器も追加され…武装と武器の追加…その他色々有ったが…岬達の案のお陰で、凄まじい強化を得てしまったって言うのは言うまでもなく…その案が…相手が強いなら…自分達が絶対に負けない程強くなるか、もっと数を増やすか、………その他色々案が有り…それらがまさかの採用…実際にそうやってみたら…正に無双の如し…絶対の無敗となったそう…

尚…例の大和や武蔵件だが…調査が完了し、正確な情報が判明し…あの大和と武蔵は…あの【超カミモリハレカゼ大和ムサシキタケル・改】…を取り込んだ上で…更には、空母の能力や駆逐艦の能力…挙句には完全潜水能力…正に神森艦隊の究極の極みに極まった艦だ…これを切り札と呼ばず、どう説明すると言う…って言う感じの要素満載で…しかも他の艦と列車や潜水艦も同様…今回の場合、その戦力の更に増加と…潜水艦隊と走行列車の奴の名前の交換もついでにやった…（…要するにだ、装甲列車艦隊がひらがな表記で…潜水艦隊がカタカナ表記になった…）

【その4…完】

その5 神森一家の戦力超増加スペシャル②…そして邪神界及び魔王界及びラスボス界合同緊急会議

例の迎撃戦から数ヶ月経過…このすばの世界線にて…あの調査クエストと言う名の討伐クエスト…を神森一家は久々に大損害を出した…それらの為に、またしても戦力増加会議が開かれようとしていた…

リュウカ(幻想)「揃ったな？それじゃあ、これより…第2回神森一家の戦力超増加スペシャルを始める。」

マザーリュウカ(幻想)「ほう…これが会議と言う奴なのか？」

リュウカ(幻想)「うん、そうですよ…。」

リュウカ(幻想)「今回開いて理由は、あのエステリア大陸やイースの調査クエスト…まあ実際にはその中に討伐クエストや大討伐クエスト…んで超要塞防衛戦もある…それらを含めて俺達は大損害を出したのは覚えているな？」

リュウカ（このすば）「確かに出したな…。」

めぐみん「そうですね…。」

リュウカ（幻想）「だから、俺達はずっと強くならないといけないが…それ以前に…もっと戦力を増やさないときつとこの先で…これ以上の大損害を出す恐れもある…無論…今まで死傷者が出なかったのが…出て来る可能性だって有り得る！だからこの会議を開いたのだ！」

マザーリュウカ（幻想）「成る程…。」

リュウカ（幻想）「さて、それじゃあ意見が有る奴はどんな言ってくれ。」

リュウカ（幻想）「はい。」

リュウカ（幻想）「リュウカか？なんか意見が有るか？」

リュウカ（幻想）「はい、拠点の強化をしたいと思います…国全体を広げて…更に超要塞都市の数を増やしたり…更に超要塞砲台の数を増やしたりもして…それで新しい超要塞砲台の種類を増やしたり…その国全体の全防衛設備に機能を追加してみたいと思います。」

リュウカ（幻想）「ふむ…確かにそうだな…今回最も大損害が出てしまった事だ

し…そろそろだな…分かった、採用だ。」

リョウカ(幻想)「ありがとうございます。」

リュウカ(幻想)「んで次は？」

マザーリョウカ(幻想)「うむ、我からも一つ良いか？」

リュウカ(幻想)「ああ、言ってみろ。」

マザーリョウカ(幻想)「うむ、お前らの所を今まで見てみると…どうしても最低射程距離に達するまで、この拠点はほぼ機能してないようだが…我から言わせて見れば…敵によっては瞬間移動で一気に此処にやって来る奴も現れるだろう…ならば…その事…更に最低射程距離やら迎撃開始距離を増やすなり…更にはそれらの敵の対策を試してみるのかもしれないと思うのだが？」

リュウカ(幻想)「確かに…まあリョウカと似た意見だが、採用しないとな…重要な事だし…拠点が陥落すればある意味で帰る場所がねえからなあ…。」

マザーリョウカ(幻想)「確かに…。」

リュウカ(幻想)「んで次は？」

カズマ「おーい、俺からも良いか？」

リュウカ(幻想)「ああ、カズマか…言ってみろ。」

カズマ「ああ、取り敢えず確認だけど…防衛ラインって…最終防衛ラインしかねえのか？」

リュウカ(幻想)「うーん…他にも有るには有るが…基本的に俺達が戦闘を行うのは最終防衛ラインの所だけだな…」

カズマ「ふーん…何故他の防衛ラインを使わないんだ？使った方が良くねえか？」

リュウカ(幻想)「そうしたいのだが…そもそも…あ…なんて言うかその…その他の防衛ラインの数が多過ぎてな…俺達でも対処が出来ないんだよ…ならばいっその事、一つに絞るって事に決まって最終防衛ラインになった訳だ…まあ時折視察には行くがな…視察だけでも全てを回るのは難しい程の量だ。」

カズマ「そっか…仕方ないな…ん？だったら、最終防衛ラインの前の所を防衛する…前衛ラインや中衛ラインや後衛ラインを設置するのはどうだ？無数有る防衛ラインの中から出来る限りの最大級の戦力をその三つに絞らせて…それで最終防衛ラインを守る…ってのはどうだ？」

リュウカ(幻想)「ふむ…なありョウカ。」

リョウカ(幻想)「はい? どうしましたか?」

リュウカ(幻想)「確か、カズマの言った案ってのは…昔に戦力不足で没になった案だが…今なら行けそうな感じか?」

リョウカ(幻想)「そうですね…まあこの会議で更に戦力を増加出来ればギリギリ採用可能ですけど…本当にギリギリですね。」

カズマ「へ? これだけ大量に居るのにギリギリなのか?」

リョウカ(幻想)「はい…残念な事にね…全て揃えるにはもっと大量に更に私達にとって最大級の戦力が大量に必要なのです…だから昔にそれをしてみようとしたのですけど…呆気なく没となりました…ただ今じゃあ、着実にその戦力は増加していますけど…その没案が実現するには本当にギリギリ足りない位です。」

カズマ「そうなのか…。」

リュウカ(幻想)「まあ、カズマの言った没案だが…もうちょっとって言う感じだからな…一応は仮採用だ…完全に余裕持って揃ったら正式に即座に採用する。」

カズマ「分かった。」

リュウカ(幻想)「そう言えばだが、その三つのラインを全て設置するとなれば……この拠点とほぼ同等の超要塞拠点を設置しないといけないが……どうするかな……今の所……地上型……島型……惑星型……空間型……以上4種類のこの本国……神森大連盟国があるが……揃えたとしても今度はスペースが問題となる……特に地上型と島型が問題だ……この惑星だってスペースは有限だ……まあ能力で無理矢理伸ばすって手もあるが……それだと移動距離が増えて、一般市民が困る……」

リュウカ(幻想)「そうですね……」

リュウカ(幻想)「しかも、仮にその三つを設置出来たとする……今度は、その三つラインとなるの拠点の防衛する為の防衛ラインも設置しないといけない……まあ要するにだ……ある意味でこれの無限ループって感じになっちゃうから……その三つのラインと最終防衛ラインの以上4つをメインに……それぞれ最大で10箇所の防衛ラインを防衛する防衛ラインを設置する……無論だが流石に小規模だがな……俺達の中にな……」

カズマ「え……って事は……最大で……40箇所も作るって事か？」

リュウカ(幻想)「そうなるな……まあ場合によっては増える……ただ、この個数制限

は…地上型と島型のように適応する。」

リョウカ（幻想）「分かりました。」

リョウカ（幻想）「さて、次は？」

リョウカ（艦娘）「はい。」

リョウカ（幻想）「ん？艦娘側のリョウカか？言ってみろ。」

リョウカ（艦娘）「うん、新しい超兵器や超要塞を追加したいと思います…あ、普通の兵器も追加しますね…それと、通信に関してですけど…もうちょっと改善した方が良いと思います…通信妨害や通信の傍受だって有り得ますからね…。」

リョウカ（幻想）「そうだな…分かった。」

そしてあれこれ2時間の会議をして、会議は終わって…早速実施に入った…

…更に数ヶ月後…今度は、偶に開催される…正に闇その物の存在だけが集う合同会議が行われていた…無論だが…リョウカ達は、この会議中は常に完全邪神化して議している…後、カズマ達も見学で参加している…

リョウカ（幻想）『さてと…みなさん集まって頂いてありがとうございます…今回は緊急の案件でしてね…みなさんに本当に申し訳ないって思っています…ですけど…この案件は、とても重要な事です…どうかお分かり頂きたいです。』

ゾーマ『ええ、勿論ですともお嬢様…それで一体今回はどう言った要件で？』

リョウカ（幻想）『ああ…実はな…ダム界に裏切り者が出たっていうんだね…直々に制裁を加えたんだが…どうやら、そのダムに問い詰めたら…俺達にクーデターを仕掛けようとする大馬鹿野郎がいるらしいんでな…これは一体どう言う事だ？あ？』

全闇界『……!?!』

どうやらこの案件が出て、この場に居た全ての闇業界が騒めき出した様で、誰が首謀者だ？って感じになっている…

リョウカ（幻想）『静粛に！…確かにみなさんの気持ちは分からなくも無いです…

ただ、今この場でパニックになれば…首謀者にとって好条件を出すだけです…まあその前に…3代目ダーム界の会長のダームさん…その裏切り者のダームさんが死んでしまったので…代わりのまともなダームさんを派遣出来ないですか？保護していますダレスさんが可愛そうです。』

ダーム(三代目会長)『分かりました、全身全霊を掛けて…要望に答えましょう…お嬢様。』

リョウカ(幻想)『ありがとうございます…すみませんね…無理をさせて…。』

ダーム(三代目会長)『いえいえ、光栄です…どうかお気になさらず…。』

リョウカ(幻想)『そうですか…でも無理はしないで下さいね？ゆっくりで構いませんから…。』

ダーム(三代目会長)『は…承知しました。』

リョウカ(幻想)『さて、話は戻しますけど…例のクーデターの件は…もう既に手は打ちました…って言うよりも解決しました。』

全闇界『…え?』

リョウカ(幻想)『まあ驚くも無理は無い…その首謀者についてだが…完全に鎮圧

してある…ついでだ、今日から新しく俺達と同じ闇業界の総会長及び副総会長となる…マザーコアの家族集団だ…』

マザーリョウカ（幻想）『うむ、宜しく頼むぞ。』

マザーリョウカ（幻想）『同じく宜しく。』

ムーア『そのお方達が、そうなのか？』

リョウカ（幻想）『まあ、コイツらがクーデターの首謀者だが…先に言っておくが…もうこいつらは、俺達の家族だ…無論家族に入れる正当な理由も有る…手を出したら容赦はしないし拒絶も許さん…良いな？』

全闇界『……!!はい……!!』

リョウカ（幻想）『分かるなら良い…さてだが…確かに首謀者の件はどうにかなったが…共謀者の件は終わった訳じゃない…で？誰だ？正直に言うなら今だけ許してやらなくもないが…。』

リョウカがそう言う…闇業界の奴らが、ある奴に向けて一点に視線が集中した…

？『へ？何故私の方を見る？』

リュウカ(幻想)『ほう…お前が共謀者なんだな？【ニコラスIIガーランド？】』

ガーランド(25代目)『ち…違います!!私は共謀者じゃあないです…!!』

リュウカ(幻想)『…おい、このガーランドの上司のガルバランは誰だ？』

ガルバラン(同じく25代目)『は、我ですが?』

リュウカ(幻想)『…一応聞くが…何かこいつの事を知っているか?』

ガルバラン(25代目)『は…前々から魔物供から聞いた話ですが…こやつめが、近々にクーデターを手伝ってもらうって言う話を聞いたのでな…。』

ガーランド(25代目)『が…ガルバラン様…!?!』

リュウカ(幻想)『ふーん…そうか、ありがとな…さてガーランド…俺達は口を酸っぱくして言ったよなあ?絶対に裏切ったらいけないってな…それに確かに俺達はさっき…正直に言えば許してやらなくもない…そう言ったが…お前自身から自首する事が無かった…更に言えば…俺達は嘘は嫌いだ…後は…分かるな?』

ガーランド(25代目)『ひ…ひい…!!お許し下さいい…!!本の遊び心が有っ

て手伝っただけで…本気でやろうなんて思っていなかったです…!!』

リュウカ(幻想)『…ガルバラン!!』

ガルバラン(25代目)『は。』

リュウカ(幻想)『こいつは今日限りでクビだ…後は煮るやり焼くなりお前らの所で好きにしろ…代わりとなるガーランドは後に厳選して送る。』

ガルバラン(25代目)『は…分かりました…それとありがとうございます。』

リュウカ(幻想)『さて、今回は以上だ…また何か有れば再び収集を掛ける…以上！解散!!』

ガーランド(25代目)『お許し下さいい…!!…!!…!!』

ガルバラン(25代目)『ふん！愚か者め…帰ったら覚悟するのだな。』

ガーランド(25代目)『ひい…!!』

そんなこんなで何とか会議が終わった…リュウカ達…酷くお疲れの様だ…

リュウカ(幻想)「ふう…疲れました…。」

めぐみん「あれが…全ての闇そのものが集う会議ですか…やっぱりお師匠様は凄いですよ！私達何て…声が出ないくらいプレッシャーが掛かりましたからね…。」

リュウカ(幻想)「ああ、だからこそ俺達はその会議中は常に邪神化しているんだよ…示しをつける為にな…。」

カズマ「確かにな…。」

リュウカ(幻想)「さてと…次は…あ！思い出しました!!」

リュウカ(幻想)「おい、急に大声出してどうした？」

リュウカ(幻想)「…私達…すっかりと…あのダン戦の世界線…放ったらかしてませんか…？」

カズマ「ダン戦って…ダンボール戦機の事か？」

リュウカ(幻想)「そうです…私達は、確か…海棠邸襲撃作戦の前に別の世界線に用が有って…それで長い年月の間…ずっと放置状態でしたので…大丈夫なのかな？」

└

リュウカ(幻想)「はあ…仕方ない…取り敢えず念には念をだ…その俺達が別の世界線に飛ぶ前の時間帯に戻してからその世界線に向かうぞ。」

リョウカ（幻想）「分かりました。」

めぐみん「あの…私達も行っても良いですか？」

リョウカ（幻想）「ん？良いぞ？ただし…この世界線にはしばらく帰って来れないぞ？入念に準備してから行くぞ…まあこの世界線を俺達の空間に収納して連れて行くって言う作戦も有るがなあ…。」

めぐみん「それって大丈夫なのですか？」

リョウカ（幻想）「うーむ…まあ厳密に言えばほぼ合体だな…まあメインとなるのは俺達の方の世界だな…んでその中にお前らの世界が入って来るって感じだな。」

めぐみん「ふむ…いえ、辞めときますね…。」

リョウカ（幻想）「まあ、そうだろうな…俺達だってまだ試して無い事だし…やっても碌な事が無いだろうな…まあとりあえず、行くなら気を付けて欲しい事がある。」

ダクネス「なんだ？」

リョウカ（幻想）「基本的に、例外を除いた戦闘を含めて…一切の武器は持たない事…。」

めぐみん「な！ど…どうしてですか!？」

カズマ「あ、そう言う事か…確か現代時代の方では…銃刀法が有ったな。」

リュウカ(幻想)「そうだ…無論だが、この巨大な魔法の杖も銃刀法に入る…だからもしその世界線で下手に武器を持ち歩く所を警察に見付ければ…捕まるぞ？」

めぐみん「…？警察って何ですか？」

リュウカ(幻想)「あ…そうだな…お前らの所で言う…ほら裁判は分かるだろ？」

┐

めぐみん「ええ、それは分かります。」

リュウカ(幻想)「まあ要するに…現代版の衛兵って所だな…。」

めぐみん「む…そうですね…。」

リュウカ(幻想)「…：…：…：…それは普通の奴ならの話だ…。」

めぐみん「へ？と言いますと？」

リュウカ(幻想)「そうだ、俺達の方でも法の操作は出来る…まあ下手に騒ぎを起こさないなら…持っても大丈夫にしてやれるが…：…：…：…そこで絶対にむやみやたに殺害はするなよ？それだけは法の操作も手間が掛かる…良いな？」

めぐみん「あ…ありがとうございます…!!」

リュウカ(幻想)「言っておくが、その世界での戦闘では…そう言う戦闘は行わない…まあ取り敢えず一から説明するから良く聞け。」

めぐみん「分かりました。」

ダクネス「分かった。」

ウィズ「はい。」

ゆんゆん「うん。」

クリス「ええ。」

そして、あの世界での戦闘方法をやそれらに関する事を全てメンバー全員に教えた…

リュウカ(幻想)「分かったな？」

めぐみん「なるほど…その世界では【エルビーエックス】って言う傀儡人形同士を使って戦う訳で…魔力は使わずに電気って物で動く自動人形って訳ですか…まあ

お師匠様の所にもそう言うのは沢山見ましたし…大丈夫な筈です…。」

リュウカ(幻想)「まあ間違ってはいない…まあ…俺達の方は色々と異常なんだがな。」

めぐみん「どう言う事ですか？」

リュウカ(幻想)「おい、ダン戦世界のお前ら…やってみてくれ。」

リュウカ(ダン戦)「はい分かりました。」

ピキイン…!!

リュウカの指示を受けて、ダン戦世界のリュウカがちっちゃくなった…

リュウカ(ダン戦)『どうですか？』

めぐみん「お…お師匠様がちっさくなりました…!?」

カズマ「おい…まさかだと思うが…小さくなったお前らが直々に戦うのか？」

リュウカ(幻想)「そうだ…だから俺達の場合は異常なんだって言ったぞ。」

めぐみん「…そう言う事ですか…ん？まさかだけど、そのエルビーエックス同士の戦いなら…どんな攻撃方法も許される訳なのですね？」

リュウカ(幻想)「…ほう…めぐみん…流石だな、そうだ…今のリュウカみたく小さくなって入るのなら…大好きな爆裂魔法をブッパするのも有りだぞ？」

めぐみん「おお！凄いですね！エルビーエックスバトルは!!」

リュウカ(幻想)「がだ…俺達の場合のやり方はリスクが大きいぞ。」

めぐみん「え？…どう言う事ですか？」

リュウカ(幻想)「見て分かったか？俺達はどっからどう見ても生身だ…LBXと違い、破壊イコールは死だぞ？しかも基本的にLBXは、機械だ…魔法が通じる相手なのかどうかも怪しいし…そもそも化け物性能だから…多少の攻撃魔法だとビクともしない程の強度…何なら…と言えば…最も硬い奴だと、そうだな…この一番弱い超要塞砲台の攻撃も一応は耐える程の硬さだぞ？…：…無論だが、ミニエクスプロージョン程度でダメージは通らない…辛うじてエクスプロージョンクラスでようやくダメージが通るって所だな。」

めぐみん「む…そう言われるとムカッとしますね…。」

リュウカ（幻想）「ああ、俺達でもこれを弄ってみて…硬いなって思っただけでムカッとした時期があったからな…まあ慣れだ…慣れ。」

めぐみん「なるほど…。」

リュウカ（幻想）「さて、話は終わりだ…準備が出来たら俺達の所に来い…勿論だが、家族や友人を連れて来るのも有りだが、理由はちゃんと説明しろよ？」

ダクネス「分かった。」

そして翌日に…リュウカ達は準備を終えて…ダン戦の世界線に戻り…時間を戻して…海堂邸の襲撃準備を進めた…

【その5…完】

その6 リョウカの修行…そして蘇る伝説の超最強人間!

このすばの世界線にて…旅行を終えて…霊夢達が晴れて特殊部隊入りをしてから…更に1ヶ月経過…

リョウカ(幻想)「お姉ちゃん。」

リョウカ(幻想)「なんだ?」

リョウカ(幻想)「修行の相手を…お願い出来ますか?」

リョウカ(幻想)「…えーっと…話の理解が追いつかないが…お前…誰の修行相手をお願いする気だ?」

リョウカ(幻想)「それは、勿論私ですよ。」

リョウカ(幻想)「……………ちよい待ち!えーっと…一応理由を聞こう…何故だ?」

リョウカ(幻想)「はい…このままだと、私はいつまで経っても負んぶに抱っこに世話になり…更にはもっと迷惑が掛かる出来事だって起きる気がします…それに、私はみなさんを守りたい…だからもっと力を付けたいです…。」

リュウカ（幻想）「なるほどな…俺としては実の妹であるお前にはもう戦って欲しくないし…修行はせず…娘達と同様に平和に過ごして欲しかったんだがな……。」

リュウカ（幻想）「ごめんなさい…私だって充分に理解はしてます…ただ約束は守りますよ…絶対に無理はしない程度にはしますよ。」

リュウカ（幻想）「分かった…んじゃあ行くぞ。」

リュウカ（幻想）「うん。」

そしてリュウカとリュウカは、専用の空間にやって来た…因みに一応もしもの時に備えて家族全員（娘達は除く）と一部の特殊部隊を呼び寄せた…

リュウカ（幻想）「それで、修行をしたいって言うが…一体何の修行だ？」

リュウカ（幻想）「うん、私は未だに全ての形態を完全に扱えるって言う訳じゃないです…だから完璧に扱える様にしたいです…更に欲に言えば…覚醒形態や閻魔醒形態も完全に扱える様にして…100%の力を引き出せる様にしたいです。」

リュウカ（幻想）「なるほど……結構危険だな…それでもお前の事だからやりた

いんだろ?」

リョウカ(幻想)「うん。」

リョウカ(幻想)「分かった…んじゃあ少し待て、元に戻る。」

そしてリョウカはリョウカを元のステータスと元の能力に戻して…

リョウカ(幻想)「さて、元に戻した事だし…とりあえず戦闘方式で修行をするぞ…構えろ。」

リョウカ(幻想)「うん…!」

そのままリョウカとリョウカは、戦闘方式で力を引き出す事にした…

リョウカ(幻想)「とりあえず私達は、危ないって思ったら直ぐに止めに行きますね。」

リョウカ(幻想)「うん…それで良いですよ。」

リュウカ（幻想）「んじゃあ、リュウカ…今のお前の実力を俺に見せてみろ。」
リュウカ（幻想）「うん…行きますよ！お姉ちゃん！」

VS 【最高現人神・神森リュウカ「敵仕様・訓練仕様」】

戦闘方式…【トレーニングモード】

勝利条件…【リュウカの撃破又はタイムアップ】敗北条件【リュウカの撃破】

戦闘BGM…作品名【東方シリーズ】曲名【doll（自然癒）】

地形…【戦闘訓練専用空間】

【戦闘開始】

ピシユウン……！

リヨウカ（幻想）「はああ…!!」

リュウカ（幻想）「鈍いぞ？」

ベチン……！

リヨウカ（幻想）「あう……!! まだです……!! とりああ……!!」

ポ
オ
オ
ピ
イ
イ
…
!!
!!
!!

リュウカ（幻想）「はあ……返すよ……ほらよ！」

バキィン……!!

リョウカ（幻想）「な!? っく…!!」

ピシュウン…!!ズドオオオオオオン…!!

リョウカ（幻想）「よそ見してる場合か？ 家族同士との戦闘中によそ見は…危険だ
って分かってる筈だぞ? …ほらよ。」

ベチン…!

リョウカ（幻想）「あああ…!!」

キイイン…!!ズズウウウン…!!

リョウカ（幻想）「…っ…!!まだ…です…! まだ…終わってない…!!」

リョウカ（幻想）「はあ…どうやら思った以上に深刻だな…リョウカ…残念だ

が…今のお前には俺には勝てん…。」

リョウカ(幻想)「……………そんな…………。」

めぐみん「…………リョウカちゃん…………。」

カズマ「…どうやらそこまで弱体化してしまったらしいな…………。」

リョウカ(幻想)「……………」

リョウカ(幻想)「…………まあ取り敢えずお前の今の实力は分かった…まあ根本的に、お前はただ無茶が崇つてとにかく寝たきりが多い…だから今の状況に陥った…。」

リョウカ(幻想)「そうですか…。」

リョウカ(幻想)「とりあえず…リハビリは必須だろう…が、先ずは回復が先だ…少しジツとしとけ。」

リョウカ(幻想)「うん。」

リョウカは、能力を使ってリョウカを回復させた…

リョウカ(幻想)「さてと…リハビリに打ってつけの相手は…そうだ！おーい！

ジ・アース!!」

キイイイイイン…!!ズズウウウン…!!

めぐみん「な…何ですか!?あれ!？」

リュウカ(幻想)「そういやお前らは知らなかったな…コイツは俺達にとっての切り札と呼べる兵器の一体で…カズマに渡したあのアースレールガンも…元々はコイツの機体に搭載されてるアースレールキャノンを携行用に改造した物だ…最終決戦兵器として恥じない性能だぞ。」

アクア「へえ…そうなんですな…。」

ジ・アース(AI)『ご用件は何でしょうか?』

リュウカ(幻想)「ジ・アース、トレーニングモードを起動しろ…少しリュウカのリハビリの為に相手をしてくれんか?」

ジ・アース(AI)『了解…トレーニングモード起動…目標ターゲット…リュウカお嬢様…。』

ジ・アースはトレーニングモードを起動し…狙いをリョウカに絞った…

リョウカ(幻想)「んじゃありョウカ…今度はこのジ・アースが相手だ…コイツを倒してみろ。」

リョウカ(幻想)「はい!」

ジ・アース「オオオオオオオオオオオオ……!!!!!!」

VS 【神森一家の最終超兵器:メタルギア・ジ・ゴットアース・セラフ】
「トレーニングモード」

戦闘方式:【トレーニングモード】

勝利条件【ジ・アースの撃破】 敗北条件【リョウカの撃破】

戦闘BGM作品名【メタルギアソリッドシリーズ】曲名【メタルギアソリッド…ピー
スウォーカー…メインテーマ】

【戦闘開始】

ジ・アース(AI)『ミサイル全弾発射。』

バシユバシユバシユバシユバシユ…!!

リョウカ(幻想)「ゴットピット!!ミサイルを全て撃ち落として!!」

ピット(AI)『了解。』

シャキン…!!ザシユザシユザシユザシユザシユ…!!

ピキイイイイン…!!ズドオオオオオオオン…!!

ジ・アース(AI)『近接戦闘実行。』

ブォォン…!!

リョウカ(幻想)「……!! ふんぬう…!! はあああ…!!」

バキィン…!! ズズウウン…!!

リョウカ(幻想)「はあ…! はあ…!」

ジ・アース(AI)『脚部小破…戦闘の支障無し…戦闘続行…………。』

リョウカ(幻想)「どうした? そんなんじゃないだろ?」

リョウカ(幻想)「…………。(どうしたら…! どうすれば…! ……もっと…私に力が有れば…もっと…みなさんの役に立ちたい…けど…どうすれば…!)」

ザーツ…!

リョウカ（幻想）「……？」

ザーツ……！

『諦めるな！リョウカ！』

リョウカ（幻想）「……。 （…お姉ちゃん…？） 」

『リョウカ…自分を信じる…！そして…！俺達を…信じる！！』

ザーツ…！！

ドクン…！

リョウカ（幻想）「……！！」

ジ・アース「オオオオオオオオオオオオ……!!!!」

リョウカ(幻想)「……………。(なんだろう…この懐かしい感じで…凄く湧き立つ様な力と感覚…それに…何故か分からないけど…身体が軽い…!!…そうか…そう言う事ですか…ふふふ…やっぱ私は…私で…みなさんは…みなさんです…!!…そうです…私は…!!)」

シュウウウ……

リョウカ(幻想)「な…!!!!? リョウカ…!!!!?」

アヤカ(幻想)「どう言うつもりなの…!!?」

リョウカ(幻想)「目の前で【人間状態化】して…どう言うつもりだ…!!!!? 死ぬぞ…!!!!?」

リョウカ(幻想)「……………ええ…確かに今の私は人間状態です……………でもね……………」
ジ・アース「グオオオオオ……!!!!」

キイイイイイン……！！！！！！

リョウカ（幻想）「…私は…私…そして…みなさんは…みなさん…だから私は…みなさんを…自分を信じて…全てを乗り越えて見せますよ…！！こんな呪い程度で…！！」

ジ・アース（AI）『近接戦闘開始。』

ブオオン…！！ガチイイイ…！！！！！！

全員『……………！！！！！！！！！！』

ジ・アース「……………！！！！！！！！！！？」

リョウカ（幻想）「やられもしないし…！！止まりませんよ…！！行きますよ…！！そおおれええ…！！」

ブオオン…!! キイイイイイン…!! ズガアアアアン…!!

リョウカ(幻想)「なん…だと…!!!? 人間状態化の癖して…片手で…ジ・アースを勢いよく…しかも平気顔で、放り投げやがった…!!」

アヤカ(幻想)「一体…どうなってるの…!？」

ジ・アース(AI)『機体ダメージ…90%超過…危険…。』

リョウカ(幻想)「どうしたのですか? そっちが来ないなら…、」

ピシュウン…!!!!

リョウカ(幻想)「こっちから行きますよ?」

リョウカ(幻想)「…!!!! 何て速さだ…!! 人間…状態だよな…いや…人間状態だが…明らかに今までのリョウカと違う…!! 普通のリョウカなら…人間状態化した時に…超弱体化状態も付いてる筈だ…!! それが発動せず…それどころか強

化されまくってる…!!」

アヤカ(幻想)「……そうか…分かったよ…この異常な強化の理由が…。」

リュウカ(幻想)「何だ？」

アヤカ(幻想)「…リュウカちゃん…とうとう乗り越えちゃったよ…あの呪いを…。」

リュウカ(幻想)「呪いって…まさかあの最高神の呪いか!？」

アヤカ(幻想)「そうだよ…全くつくづくリュウカちゃんは凄いな…まあお陰でリュウカちゃんの影響で私達の呪いも無くなったけどね。」

リュウカ(幻想)「あ?…あ、本当だな…。」

アヤカ(幻想)「まあ無くなったとは言え…今のリュウカちゃんには敵わないよ…あのリュウカちゃんは、確かに最高神化した時に超弱体化して最弱化したけど…元々産まれた時…そして最高神化する前は間違いなく最強だった…まさか伝説が蘇ったのね…。」

ベチン…!!ズズウウウン…!!

ジ・アース(AI)『き…機体大破…トレーニングモードを…終了…します…。(ザーツ…! ブツ…!)』

そして、ジ・アースは…突然超強化されたリョウカに呆気なく倒された…

リョウカ(幻想)「……やっぱり…これが私の本来の力ですか…。」

リョウカ(幻想)「リョウカ…お前…。」

リョウカ(幻想)「お姉ちゃん…ありがとうございます…修行に付き合ってくれて…。」

リョウカ(幻想)「え? あ…おう…。」

リョウカ(幻想)「お姉ちゃん達のお陰で…やっとスッキリした感じがします、これで超弱体化状態にならないですよ…多分。」

リョウカ(幻想)「あ…そう…ん? なあ一応聞くが…今のお前は人間状態だよな?」

リョウカ(幻想)「そうですよ? …まあ…確かに私は人間ですけど…【全宇宙及

び全世界線において最強の人間ですね…。」

リョウカ(幻想)「…えーっと…ちよいまでよ…さっきの感じじゃあ…普通の最高神化状態より強えが…もしそれで最高神化したら…。」

リョウカ(幻想)「もっと強くなりますよ…ただ、どうなるかは分からないけどね…暴走の可能性だって有り得ますし…。」

リョウカ(幻想)「そうか…でだ…リョウカ、少し試したが…今の俺は味方仕様且つ最強の最高現人神仕様になっている…それで今のお前と戦ったらどうなか…試してみたい。」

リョウカ(幻想)「えーっと…お姉ちゃん…多分、勝負にならないと思いますよ？だってお姉ちゃんの方が強いと思いますし…。」

リョウカ(幻想)「まあ、物は試しだ…恐らくお前自身は気付いて無いが…今のお前なら、その状態でも互角以上に奮闘は出来る筈だ…。」

リョウカ(幻想)「そ…そうですか…それじゃあ…仕方ないですね…。」

めぐみん「頑張って下さい…リョウカちゃん。」

シンカ(幻想)「それじゃあ審判は私がやるわ。」

リョウカ(幻想)「はい。」

リョウカ(幻想)「おう。」

シンカ(幻想)「それでは…両者構え!」

リョウカ(幻想)「行きますよ…!お姉ちゃん!」

リョウカ(幻想)「おう!どっからでも来い!」

シンカ(幻想)「……練習試合…!!開始…!!」

そして…再び二人の戦いが始まった…:が:

数秒後:

チーン:

リョウカが、無様な姿で…リョウカに敗北した…:

リヨウカ（幻想）「……本当に勝っちゃいました…。」

アヤカ（幻想）「どこまで貴女は強いのかねえ…全く底が見えないわ…。」

カズマ「おいおい、何て強さだよ！ちよつと小突いただけで…リユウカを撃破しやがった…！しかも人間状態で…更には平気で…余裕な顔して…。」

リヨウカ（幻想）「余裕じゃあないと…思いますよ…多分…うん…そうあって欲しいです…あ！それよりも！お姉ちゃん…！！大丈夫ですか…！…？」

リユウカ（幻想）「……っ…！！痛ってええ…！！1発喰らっただけでこの様かよ…リヨウカ…お前強くなり過ぎじゃねえか？」

リヨウカ（幻想）「えーつと…さっきみなさんにもそう言われましたけど…。」

リユウカ（幻想）「はあ…よいしょつと………パーフェクトリペア。」

ピキィイン…！

リユウカは、能力で自身のダメージを完全に回復させた…

リュウカ(幻想)「やれやれ…で…どうやったらそうなった?」

リョウカ(幻想)「分からないです…ただ、あの時…不意に頭の中にお姉ちゃんの声が聞こえて来て…そこで何か吹っ切れた…って感じでした…。」

リュウカ(幻想)「……??俺は何もしてないのに…リョウカの中で俺の声が聞こえて…んでなんか知らんが吹っ切れて強くなった…って言うよりも元に戻った…って事か?」

リョウカ(幻想)「そうですね…でもここまで強くなるのは…どうしてなんだろ…。」

リュウカ(幻想)「…ちょっと待ってろ…今のお前の状態を調べる。」

リョウカ(幻想)「うん。」

数分後…

リュウカ(幻想)「……なるほどな…そりゃあ強くなる訳だ…。」

リョウカ(幻想)「え?何か分かったのですか?」

めぐみん「教えて下さい！」

霊夢「私も一応は知りたいわ。」

リュウカ(幻想)「そんじゃあ言う…まあ今のお前の能力は複数有るが…代表的な能力は…【全てにおいて…更にありとあらゆる事に絶対の最強になる能力】と【ありとあらゆる能力を発現及び作成する能力】【自身の能力とステータス进行操作及び設定する能力】の以上が代表能力だ…んで最も脅威なのが…全てにおいて…更にありとあらゆる事に絶対の最強になる能力…これがヤバイ…具体的な詳細は分からんが…多分これがリュウカの本当の能力だと思う…んでこの能力で…俺は一撃でやられた…そう人間状態でな…。」

カズマ「おいおい…それってどこぞの一撃のヒーローっぽい奴じゃねえか？」

リュウカ(幻想)「まあ間違いじゃないが…もっとおぞましいのは、全てにおいてとありとあらゆる事で最強だ…つまりは何をやらせても勝てるって事だ…例えるなら…今のリュウカの人間状態は…【全宇宙及び異世界最強超生物】…って名乗っても問題無いんじゃないのか？…ってレベルだな…まあ人間だが…。」

リュウカ(幻想)「ねえ、お姉ちゃん…。」

リュウカ(幻想)「何だ？」

リョウカ(幻想)「確かに私の事は分かりましたけど…日常生活はどうしたらいいのですか…？もし私が下手に何かに触れたら…どうなるのか分からないです…。」
全員『……あ。』

そう…確かに異常に強くなったのは分かったし…能力も理由も分かったが…今度は根本的な問題…日常生活が待っていた…。」

リュウカ(幻想)「えーつと…じゃあ…リョウカ…この皿を普通に持ってみろ。」

リョウカ(幻想)「え？あ…うん…。」

リュウカは、リョウカにその皿を渡してみた…

リョウカ(幻想)「……ふう…どうやら大丈夫そう…。」

ガッシャアァン…!!

リヨウカ(幻想)「……………」

リユウカ(幻想)「……………」

リヨウカに渡した皿は…一拍置いて木っ端微塵に碎け散った…

リヨウカ(幻想)「…ぐす…」

リユウカ(幻想)「…へ？」

リヨウカ(幻想)「ああああああああ…!!!!」
に立たないんだ…!!あああああ…!!!!」
やっぱり私は…!!私は…!!役に

リユウカ(幻想)「お…落ち着けて…!!たかが皿一枚碎け散っただけで泣く事
ないだろ…!？」

リヨウカ(幻想)「うわああああん…!!!!」

めぐみん「えーつと…リヨウカちゃん?ほら、美味しい飴ですよ。」

リョウカ(幻想)「ああああああ……!!!!」

リョウカ(幻想)「馬鹿もん! 飴ちゃん程度でどうにかなるんだったら…昔っからどうにでもなるわい!! リョウカの場合は…根本的な問題をどうにかすれば良い…!!」

紫「では…どうすれば…!?」

リョウカ(幻想)「…おい、リョウカ…だったら…解決になるかどうか分からんが…俺の能力で…その状態のお前のステータスを抑えてみよう…んで、戦闘形態時にはそうなるが…普通の人間状態時には見た目相応のステータスにしてやる…それならどうだ? ……このままだと大事な俺達の娘に触れる事も出来んだろうし…。」

リョウカ(幻想)「…ぐす…ほんと…?」

リョウカ(幻想)「安心しろ…俺が今までにしくじった事有るか?」

リョウカ(幻想)「うん……お姉ちゃん……お願いです……助けて下さい…。」

リョウカ(幻想)「よっしゃ! 任せろ!」

そして…何やかんや有って…どうにかリョウカのステータスを分ける事が出来

た…具体的に…完全な人間状態時には、本当に見た目相応のステータスに抑えられる…そして…戦闘時に…非戦闘形態と戦闘形態時と…段階的にステータスが解放されて行く…非戦闘形態時には、今までの最高神仕様時の戦闘形態と同じステータスになり…戦闘形態時には先程の最強生物になる………つと言った感じだ…

リュウカ(幻想)「ふう…全く苦勞するな…家族総員でようやく設定が出来たぜ…。」

リョクヨウ(幻想)「流石に…疲れました…。」

アヤカ(幻想)「やれやれ…ここまでとはね…。」

リョウカ(幻想)「みなさん…本当にごめんなさい…私なんかの…役に立たない私の為に…。」

リュウカ(幻想)「いや…気にするな…んじゃあ、今度は大丈夫だと思うが…ほらまた皿だ…持ってみろ。」

リョウカ(幻想)「うん。」

リュウカは、再度リョウカに皿を渡した…

リョウカ(幻想)「……どうやら大丈夫ですね…はい、返しますね。」

リョウカ(幻想)「おう…んじやあ次だ…一応形態変化の動作確認だ…戦闘が起きた…んじやあ手始めに非戦闘形態になってみる。」

リョウカ(幻想)「うん！」

システムAI『戦闘開始…第一段階に移行…警戒態勢に移行します。』

キュイイン…!!ゴオオオ…!!シュウウウ…

リョウカ(幻想)「……大丈夫ですね。」

リョウカ(幻想)「よし！次はあのさっきの形態になってみる。」

リョウカ(幻想)「はい！…リミッター解除！」

システムAI『リミッター解除…戦闘第二形態に移行…』

ゴオオオオオオオ…!!
シュウウウ…!!

リュウカ（幻想）「よし、問題無さそうだな…ふう…こういう時は絶対に俺達が居ないとなんかが絶対に起きるな…。」

リュウカ（幻想）「すみません…あ…。」

リュウカ（幻想）「どうした？」

リュウカ（幻想）「少し面白い技を思い付きました。」

リュウカ（幻想）「はあ…今度は一体どんなだ？また無茶しないといけない技や形態だったら即却下だからな？」

リュウカ（幻想）「大丈夫ですよ、今回の技は至ってシンプル且つ…やろうと思えばお姉ちゃん達でも出せる簡単な技ですよ。」

リュウカ（幻想）「…一応聞くが…どんな技だ？」

リュウカ（幻想）「はい、複数有りますけど…まあ一つは新規の方の技で…他は元々使える技の強化版と派生技ですね。」

リュウカ（幻想）「じゃあ、先ずは新規の方だ…どんな？」

リュウカ（幻想）「はい、新規の方はバニルさんの技と鈴仙さんの技と初号機の技

を採用しました……その名は…【○○式目神○○光線】です。」

リョウカ(幻想)「ふーん…要約すれば目からビームを撃つって感じか?」

リョウカ(幻想)「そうです…それで○○式の所には自身の名前を…○○光線の所には何かの効果及び属性や状態異常の安略名が入ります…例えるなら…お姉ちゃんのを。」

リョウカ(幻想)「お…おう。」

カチ…! ピシュウン…!!

リョウカは、能力で球体状の的を出した…

めぐみん「リョウカちゃん…一体どんな光線を撃つ気ですかね…。」

霊夢「分からないわ…まあとんでもない物だろうけど…。」

リョウカ(幻想)「行きますよ! ……【リョウカ式!! 目神破壊光線!!】」

キユイイイイイン…!! ドツキユウウウン…!!

キイイイイイン…!!!! ズドオオオオオオン…!!

リュウカ(幻想)「おわ…!! なんつう威力の技出すんだよ…!!」

リョウカ(幻想)「あ…すみません…それで先程は例えでの技ですけど…とりあえずこの技の決定は…目から光線を放つ関係上…視線を向けた先にしか攻撃を飛ばせないです…まあ視線を動かせばその方向に攻撃を飛ばせますけど…ただ、間違っても自身に向けて視線を向けたら自身も喰らいますからそこは気を付けて下さい。」

リュウカ(幻想)「分かった…。」

リョウカ(幻想)「後、攻撃時間は目を開けている間です…が一応安全性を考慮して…照射時間は10秒間で…それが過ぎれば自動的に光線が途切れます…。」

リュウカ(幻想)「なるほど…。」

リョウカ(幻想)「後、最大級の欠点として…確かにそのまま光線は放つ事は出来ますけど…その場合は先程の攻撃例…まあ先程のは無属性攻撃と最後の爆発の大爆

発の火属性です…それです…何が言いたいのかと言うと…その光線を何かしら効果を付けたい場合にはその技名を言わないとつかない事になっています…要するに詠唱が必要です。」

リュウカ(幻想)「なるほどな…で、何も言わない場合で撃つ時ってどうする?」

リュウカ(幻想)「はい、詠唱有りの方は負担が少なくプロセスが少なくて便利ですけど…緊急時で口が使えない…又は喋れない時の場合は…先ず、目にエネルギーを集中させる必要が有って…それで充分に溜まったら…それを光線状に放つイメージを持って一気に目を開けてエネルギーを解放します…以上が手順です…ただ、この緊急時の場合で撃つ場合にはもう一つの欠点として…通常時よりも更に5〜10倍以上のエネルギー消費をしないといけないです。」

リュウカ(幻想)「なるほどな…まあ取り敢えずは理解した…實用レベルだが…視線を動かすって事は…つまりは目が必要って事だろ?」

リュウカ(幻想)「そうですね、大前提として…絶対に目が無いと話になりません。」

リュウカ(幻想)「そうか…んじゃあ目からビームの件は大丈夫だ…次は?」

リョウカ(幻想)「はい、次はみなさんも使える…指鉄砲って言う技ですけど…。」

リョウカ(幻想)「あゝ…これか?」

リョウカ(幻想)「はい、これ色々なバリエーションを増やしてみました…その関係上…指鉄砲っと言う名前から…【ハンド・ガン】って言う名前に変わります。」

リョウカ(幻想)「ハンド・ガン? ハンドガンじゃなくハンド・ガンだな?」

リョウカ(幻想)「はい、ハンドガンって言うのと…こっちのほうになりますから識別しやすい様に…ハンド・ガン…って言う事にしました。」

リョウカ(幻想)「なるほど…で、色々バリエーションを増やしたって言ったが? なんだ?」

リョウカ(幻想)「はい、先ずは至って通常タイプの単発タイプ…まあ拳銃形態…それだけじゃあ物足りないので…【マシンガン形態・スナイパー形態・エネルギーフィンガーミサイル形態・ハンドレールガン形態・ハンドガドリリング形態・パルスガン形態・パルスマシンガン形態】の以上が…【片手で放てるバリエーションです。】」

リョウカ(幻想)「ほうほう…ん? 最後片手で放てるって言ったが…?」

リョウカ(幻想)「はい、先程のは片手でのみの場合ですが…両手と合わせて放つ場合は…【ハンド・キャノン】つと言う名前で統一します…それで技の種類は…【オートキャノン形態・スナイパーキャノン形態・レールキャノン形態・ハンドキャノン形態・エネルギーフィンガーマシヤイル形態「フルバースト」・パルスキャノン形態・パルスガドリリングキャノン形態】の以上が派生内容です…。」

リョウカ(幻想)「なるほどな…で、片手タイプと両手タイプのそれぞれの特徴は？」

リョウカ(幻想)「はい、片手タイプの利便性は…それぞれ片手で放つ関係上…もう片方の手は何かを持ったり他の技を放てる…って言った事が出来たり…防御能力も片手で補えます…ただ欠点としては、片手で放つ関係上…その片手が塞がってしまいますし…そもそも片手で放つ攻撃の為か威力は人それぞれですけど、性能そのものは半分程度かそれ以上程度です。」

カズマ「だよな…。」

リョウカ(幻想)「それで次は両手タイプの利便性は…片手タイプよりも最も強力な攻撃を放てれる事…の以上ですね…欠点は…片手タイプよりも酷くて…両手を

使う関係上…何も持てなくなりますし…防御能力も他の何かで補わなければ…自身の防御能力は壊滅的に低くなりますし…強力な攻撃が撃てる…イコールは…最もエネルギー消費量が膨大…更には、味方に誤射の可能性が高くなります……とりあえずは両手タイプを使うのは基本的にトドメに使うか一撃必殺を心掛けて使わないと殆ど使い物にならない技になる…ロマンの溢れる技ですね。」

めぐみん「へえ…そうなんですか…。」

リュウカ(幻想)「なるほど…。」

リュウカ(幻想)「じゃあ、少し待って下さいね…みなさんにも使える様にしますから。」

リュウカ(幻想)「分かった…。」

更に数分後…リュウカの能力でリュウカ達は新しい技が使える様になった…そしてリュウカ達もリュウカと同様にあの最強人間化状態になれる様になった…(無論、それぞれの形態区別も取得した…)

【
そ
の
6
完
】

その7 神森一家の戦力超増加スペシャル③そして…復讐に蘇る邪神…

リョウカ達一行はHUNTER×HUNTERの世界線からこのすばの世界線に帰って来た…そこで更に1週間したある日…また戦力増加に関する会議を開く事にした…

リュウカ(幻想)「お前ら？ 集まったな…そんなじゃあれより…第3回神森一家の戦力超増加スペシャル会議を開催する！」

マザーリョウカ(幻想)「のお、その戦力増加の会議ってつい最近したばかりではないのか？」

リュウカ(モンハン)「ああ、確かにそうだな…。」

リュウカ(幻想)「あのさあ…確かにその気持ちは分かるが…俺達は今最も危機的な状況下に置かれているんだぞ!!俺達は…これだけ戦力を持ちながらも…あの日

本国召喚と言う世界線を数ヶ月未満でリタイアせざるを得ない状況下まで追い込まれた事を忘れたか!？」

全員『…………。』

リュウカ(幻想)「んでだ、今の俺達の平均の総合戦力はこれだ。」

平均総合戦力(全軍及びペット及び全兵器も含む)…【計測不能×∞】

リュウカ(幻想)「…これだけ有るにも関わらず敗退した…あっさりとな…。」

リュウカ(ハンター)「いや…あっさりと言わんだろう？一応国一つ制圧出来たんだしさ？」

リュウカ(幻想)「はあ…分からんか？あの世界線は明らかに異常だ…何故か不明だが明らかに一番最初に戦う相手にしちゃあ強過ぎる相手…そう相手の装備と兵器…しかも鋼鉄の咆哮からの世界線で存在する筈の超兵器まで持っていやがった…それで、その超兵器は何んとか勝てた位の實力だった…ある意味で俺達はそれで撤退を余儀なくされたんだぞ…。」

紫「確かにそうですね…ずっと見ていましたから…あのままお師匠様の能力を多用し続けたら…いずれはやられてしまいます…」

ウィズ「そうですね…私も賛成ですわ。」

リュウカ(忍者)「そうだな…で？具体的にどうする？」

リュウカ(幻想)「そうだな…俺的には平均総合戦力のノルマを…【計測不能×er r o r × ∞ × 神】まで上昇させなければあそこにはリベンジに行けね…言っとくがこれでも最低ラインだ…最大でも今さっき言った奴の更に100倍やら…1000倍やら…1万倍やら…限りなく増やさんとやって行けね…」

カズマ「おいおい…戦力のインフレが可笑しいだろ？色々とぶっ飛び過ぎてね…」

零月「何時もの事よ…気にしたら負けよ。」

斬駆「そうそう、コイツらに常識通用しねえのは何時もの事だろ？」

カズマ「確かにそうだけど…それってエゲツなく巨大だな…どれくらい掛かるんだ？」

リュウカ(幻想)「そうだな、まあ能力使えば一瞬で済む話だが…それプラス修行

しないと意味はない……まあせいぜい物凄く頑張って1週間から1カ月は必要だ……」

カズマ「ふん……そっか……」

リュウカ(幻想)「んで、その最低ラインを達成してる奴って言ったら居るには居るが……せいぜい今の所……俺とリュウカだけだ……無論これだけで突入しても振り返りに遭うのは目に見えてる……」

アクア「え!! 振り返りに遭うのですか!!」

リュウカ(幻想)「そうだ、幾ら俺とリュウカとは言え……あそこまで異常に強かったら明らかにヤバイ……二人がかりでやってもせいぜい時間の問題だろう……やられるのにな……まあその世界線消滅させたら? って言えばそれは一瞬で済むし……楽になるが……依頼は失敗も当然……そんな事する位なら死んだ方がマシなレベルだ……」

アクア「そ……そうですね……」

リュウカ(幻想)「さてと……次に課題となるのは……全兵器と武器を対宇宙戦闘に備えての大改造をしなければいけなくなる……謂わば近未来化改造だ……」

リュウカ(幻想)「近未来化改造ね……どんな感じかな?」

リュウカ(幻想)「まあ簡単に言えば……全兵器をあの大和が霧化形態発動して……ん

で最終決戦形態発動した感じに改造する…無論武装もそうだ…挙句に…全超兵器もそうしないといけない…これも結構大変だぞ？あ、因みにだが…拠点の全砲台と全迎撃設備と全防衛設備も近未来化は必要だ…」

アヤカ(幻想)「わゝお…骨が折れそうな内容だね…。」

リュウカ(忍者)「ん？そもそも何で近未来化改造しないといけないねえんだ？」

リュウカ(幻想)「俺は気付いてしまったんだよ…最大の欠点が…俺達と全軍共通で…対宇宙戦闘での攻撃能力と防御能力…それに移動能力が完全に欠落している事にな…まあ攻撃能力は有るには有るが…基本的に切り札級の攻撃使わないと攻撃が届かないのが実情だ…んで、移動能力は…神森艦隊の本艦隊のみ…俺達は能力でどうにかならん事も無いが…他の奴らはそもそも宇宙空間での移動能力どころか…戦闘も不可能…ある意味で対宇宙空間での戦闘能力は壊滅的って所だ…。」

リュウカ(忍者)「なるほどな…。」

リュウカ(幻想)「だから改造は必要だ…後々に対宇宙空間での戦闘をメインとした世界線に行かないといけないし…。」

アヤカ(幻想)「分かったよ。」

リュウカ（幻想）「後、それに伴いだ…例の装甲列車艦隊も強化する…特にトレーラー形態時…まあ…超要塞戦車形態とも言うが…その形態その物を強化する…移動能力でな…。」

アンカ（幻想）「え？あの装甲列車艦隊…そもそも移動能力は抜群だと思うけど？」

リュウカ（幻想）「ああ…だが、トレーラー形態時…移動の要となるタイヤ及びキャタピラだ、それを強化したい…まあど直球に言えば…耐久性と…数の増強だな…。」

アंकロ（幻想）「因みに…増強はタイヤとキャタピラ…どっちを優先的に増やすんだい？」

リュウカ（幻想）「ああ、最優先で…キャタピラだな…んで二の次がタイヤって感じで…全体的に…キャタピラが6で…タイヤが4…つと言った感じの割合で分ける…タイヤはキャタピラの移動性能を補助及び緊急時の走行能力の時に必要だ…。」

にとり「なあ、盟友…そもそも何でこれと宇宙空間戦闘…これらに何の関係があるんだい？」

リュウカ(幻想)「あのさあ…まだ気付かんか? 宇宙に行く…つまりはどっかの惑星に辿り着く…んで、その移動能力で基本的に装甲列車艦隊が有利だ…が、重量有れば列車形態でも十分な移動能力は得れるが…無重力だとそうは行かん…移動速度が激減し…更には線路そのものが無重力の影響で浮いてしまえば脱線して…大幅な隙を晒す羽目になる…んで、トレーラー形態なら線路は要らんし…ある程度の速度は確保出来る…まあその代わりだが…接地面が広くなり…更に敵にとって的を増やす事になりますし…列車の車輪と違って、耐久性に難があり過ぎる…だからこそこの改造を提案した…分かったか?」

にとり「おお! なるほど!! 流石盟友だい!」

リュウカ(幻想)「さて…まあ最重要な事は伝えた…んじゃあこっからは何時もの提案を聞こうではないか…。」

そしてそんなこんなで、色々と案が出て来て…数時間後にその会議は終わり…【分身体のリョウカを含むリョウカ達全員を除き…】早速実行に移した…では…その頃リョウカ達はどうしてたかと言うと…

リヨウカ(幻想)「うゝん…違いますね…。」

リヨウカ(ハンター)「……………どうですか？」

リヨウカ(幻想)「うん…あまり上手く行かないですね…修行…。」

リヨウカ(忍者)「あの……どうしましたか？何か進展はありましたか？」

リヨウカ(モンハン)「ううん…何も無いです…それどころか……少しずつ弱って来てますね…。」

リヨウカ(忍者)「大丈夫なですか？無理はしない方が…。」

リヨウカ(幻想)「ううん、大丈夫ですよ……これくらいね…。」

リヨウカ(忍者)「…ん？ねえ、少し待って下さい…。」

リヨウカ(幻想)「ん？どうしたの？」

リヨウカ(忍者)「…あの……少し顔が赤いですけど……本当に大丈夫？」

リヨウカ(幻想)「だ…大丈夫ですって……私はこの通り元気ですよ？」

リヨウカ(忍者)「……………そう……ですか…。」

リヨウカ(幻想)「さてと……続きでも…………。」

ドクン…！

リョウカ（幻想）「……………っ…!?」

リョウカ（モンハン）「……………!!どうしたのですか…!?」

ドクン…！

戦闘BGM：作品名【エヴァンゲリオンシリーズ】曲名【the beast】

リョウカ（幻想）「……………あ…ああ…!!」

リョウカ（忍者）「大丈夫ですか…!!?　しっかりして…!!」

システムAI『（ザーツ）エネ…ルギー（ザーツ）に…深刻な（ザーツ）障害が発

生…（ザーツ）しました…。（ザーツ）』

キュイイイイイン……！！！！

リョウカ（幻想）「あ……ああ……！！」

システムAI『（ザーツ）強制……ハッキングを……確認……（ザーツ）強制……リミッター……解除……（ザーツ）不明なユニット……（ザーツ）が……接続……（ザーツ）されました……。』（ザーツ）』

ゴオオオオオオオ……！！！！！！

全員『……！！！！？』

リョウカ（幻想）「あ……ああ……！！……み……な……さ……ん……今……すぐ……逃げ……て……！！私から……早く……うぐ……ああ……！！」

リョウカ（忍者）「リョウカさん……！！！！！！」

システムAI『（ザーツ）システムに……深刻な……（ザーツ）障害が発生……（ザーツ）エネルギー……臨界突破……（ザーツ）……最終安全装置……強制解除……（ザーツ）自爆モード……

起動……。『（ザーツ）』

全員『……!!!!!!?』

修行をしていたりヨウカ達一行は…突然本体のリョウカが暴走しかけて…エネルギーが臨界点を突破し…今正に自爆モードが起動してしまった……

システムAI「(ザーツ)自爆まで……残り1分……」

ジリジリ…!! ピシャアアン…!!!
ピシャアアン…!!!

リヨウカ（ハンター）「リヨウカさん……！！！！」 1

リョウカ（モンハン）「お願い……止まって……！！！！」

リヨウカ（忍者）「……お願い……だから……止まって……!! 助けて……お姉ちゃん……」

⋮
⋮
⋮
⋮
⋮
⋮

「……やらせるかよ……！！！！！！手伝えお前ら！！」

? 『了解…!!』

リョウカ(忍者) 「……!! みなさん…!!」

どうやら騒ぎを聞きつけて…リョウカ達が作業を中止してすっ飛んで来た様だ…

リョウカ(幻想) 「…すまなかったな…リョウカだけ残したのは愚かだった…! 今止めてやる…!! 霊夢!! 紫!! 結界!!」

霊夢 「ええ! はああ…!!」

紫 「分かったわ!!」

ピキィイン…!!

システムAI 『(ザーツ) 自爆まで…残り20…秒…。(ザーツ)』

リョウカ(幻想) 「お前ら下がれ!! 行くぞお前ら!! 合わせろ!!」

リョウカ(ハンター) 「おう!」

リュウカ（モンハン）「任せろ！」

全リュウカ『……【ゴットドレインタッチ……！！】』

バシイ…!! キュイイイイイン……！！！！

この場に居る全リュウカが自爆寸前のリュウカにドレインタッチを酷使して…

システムAI『（ザーツ）自爆中止…自爆中止……エネルギー不足の為…（ザーツ）全システムを……停止…（ザーツ）します……。』（ザーツ……ブツ…）』

ドサ…

間一髪の所でリュウカの自爆を阻止に成功した…が大部分のエネルギーを喪失した事により、リュウカは気を失ってしまった…

リュウカ(幻想)「よっと…ふう…危なかった…危うく自爆される所だった…。」

リュウカ(モンハン)「…で？今回は何故暴走しでした？」

リュウカ(忍者)「あの…それが…少しだけ様子がおかしかったです…。」

リュウカ(幻想)「ん？どう言う事だ？」

リュウカ(忍者)「うん…何時ものなら修行してれば段々と動きも全体的に良くなって来ているのですけど…今回の場合…逆に弱くなって来てる感じで…更に多少…無茶してる感じがしてましたし…それに…確認した限りじゃあ…その時少しだけ顔が赤かったです…。」

リュウカ(幻想)「ん…？…確かに赤い……って！熱いな!!すげえ高熱出してやがる…!」

リュウカ(忍者)「なるほどな、そりゃあ暴走しかける訳か…。」

リュウカ(幻想)「冷静に判断してる場合か！あゝクソ…!!また更にリュウカが無茶するだろうし…こうするか…!【強制能力封印!】」

ピキィイン…!!

リュウカ（幻想）「さてと、これで能力は使えない…無論これで不老不死除けば完璧に人間だな…無論魂の分離も出来ん…んじゃあさっさと部屋に運んで寝かせてやらんとな…お前ら、リュウカを看病している。」

全リュウカ（本体除く）『……うん。』

そしてリュウカ達は、リュウカを部屋に運んで…寝かせてあげて…リュウカ達は作業に戻って行った…

1週間後…リュウカ達は作業を終えた…尚一方リュウカの寝ている部屋…

ザーツ…

システムAI『システム…起動…ハッキング完了…全能力…解放…（ザーツ）…警告…エネルギー量不足…。（ザーツ）』

リュウカ（忍者）「何…？」

リョウカ（ハンター）「一体…何が？」

リュウカ（幻想）「おーい？どうした？」

リュウカ（ハンター）「何か有ったのか？」

システムAI『（ザーツ）システムに…深刻な障害が…（ザーツ）発生…しました…（ザーツ）…強制内部排除…システム…起動…。（ザーツ）』

リュウカ（幻想）「何…!?」

アंकロー（幻想）「あらら…！ゴットピットが…自立稼働している…！一体何を
する気だい…？」

システムAI『（ザーツ）…内部に…未確認敵性反応確認……ターゲット確認…排除
開始…。（ザーツ）』

ピキイン…!!

ゴットピット「キシヤアアアアア…!!」

全員『……………!!』

シュル…!!ガチ…!!

ピキイイン…!!ピシュウン…!!

そして…自立稼働したゴットピットが未だに眠っているリョウカを拘束し…そのゴットピットがリョウカの中に入って行った…

その直ぐ後…

リョウカ(幻想)「……………!!!!? ぐ…ああ…!?!」

リョウカ(幻想)「リョウカ…!!!!?…おい!!ゴットピット…!!どう言うつもりだ…!!!!?」

ゴットピット(AI)『(ザーツ)お許し…下さい…お嬢様…お嬢様を…救う為に…(ザーツ)ご無礼を…お許し…(ザーツ)下さい…』

リョウカ(幻想)「お前…。」

ゴットピット(AI)『(ザーツ…)後は…(ザーツ)頼みました……(ザーツ…)みな…さん…(ザーツ)どうか…お嬢様を…(ザーツ…)救って…下さい……(ザーツ…)来ます……御武運……を……。』(ザーツ…)ブツ…』

シュル…ゴト…

リヨウカ(幻想)「ぐ…あああ…!!!!」

ピキイイン…!! バシユウウ…!!

? 『ヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤ…!!!! アーツハツハツハツハ…!!!!』

そして…リヨウカの身体から禍々しい真つ黒な物体が出て来て…

ガッシャアアン…!!!! キイイイイイン…!!!!

…その黒い物体は…不気味な笑い声をあげながら…窓を突き破り…外に出て行った…

リュウカ(幻想)「あいつが…リョウカを…!!!」

アヤカ(幻想)「へえ…アレがりョウカに今まで取り憑いてた…呪いの塊ね…やれやれ…久々に切れても良いよね? 殺しても問題無いよね?」

リュウカ(幻想)「……………殺す…!!!」

キュイイイイイン……………!! ゴオオオオオオオ……………!! キイイイイイ

ン……………!!

リュウカはブチ切れて黒い物体の後を追った…

アंकロ(幻想)「やれやれ…!! 全く困るなあ…!!」

アヤカ(幻想)「待って…!!」

そして…後追いで分身リョウカ達が先頭に…リョウカ達も黒い物体の後を追った…

ウオオオオオオ…!!ウオオオオオオ…!!

『敵邪神を確認! 敵邪神を確認! 全軍! 戦闘配備! 繰り返す! 全軍戦闘配備!!』

ウオオオオオオ…!!ウオオオオオオ…!!

案の定だが…騒ぎを聞きつけて…拠点も即座に戦闘配備に入り…続々と全軍が出撃していった…

リュウカ(幻想)「待てエエエエエエ…!!…!!…!!ぶっ殺してやるうううう…!!…!!」

？『アッハッハッハッハ!!ヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤ……!!カワイソウ…カワイソウ…』

リュウカ(幻想)「野郎……!!喰らいやがれええええ……!!」

キュイイイイイイン……!!ポオオピイイ……!!

ズドオオオオオン……!!

？『ヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤ……!!カワイソウ…カワイソウ…』

リュウカ(忍者)「お姉ちゃん……!!」

リュウカ(幻想)「……!!お前ら…。」

リュウカ(モンハン)「……!!? そんな…馬鹿な…!!何で…!!」

リュウカ(幻想)「おい…奴は一体何だ!？」

リュウカ(モンハン)「あの感じ…間違いないです…!!私達の世界線で戦ったあの邪神と同じ感じです…!!いえ…それだけじゃないです…あの…幾度と無く私達を襲って来た…西行桜も混ざってます…!!」

リュウカ(幻想)「何だと……!!? 西行桜なら分かるが……あの……【縁結山神……エンノヤマガミ】も混ざってるって言いたいのか!!」

リョウカ(モンハン)「うん……そうとしか言えないです……それに……エンノヤマガミなら、私達を……うん私を呪うのも容易い程の力です!」

ピキイイン……!!……!! ジリジリジリジリ……!! ピシャアアン……!! ピシャアアン……!!
 ギチギチ……!! ギチギチ……!! ピキイイン……!!

そして……その黒い物体は……禍々しく眩い黒い光を放ち……その正体が現れた……その姿は……あのモンハンの世界で戦ったあのエンノヤマガミに……西行桜のコアがエンノヤマガミの本当のコアに収まっている……

醜神『オオオオオオオオオオオ……!!……!!……!!……!!……!!』

アंकロ(幻想)「やれやれ……結局そうなりますか……!! 僕を裏切ると……どうなるか
 思い知らせてあげるよ!! 今度こそ跡形も無く消滅させてあげるよ!! 高々……合体や

融合したか知らないけど…そんな程度で僕達に敵うと思わない事ね!! 雑魚が…!!」
 醜神『ヒーッヒッヒッヒ…!!! アヒヤヒヤヒヤ…!! カワイソウ…カワイソ
 ウ…。』

めぐみん「リョウカちゃん…仇は取ります…!!」

カズマ「行くぞ!!」

紫「お師匠様を傷付けた罪は重いわよ…!! タダでは済まさないわ…!!」

そして…全員（本体リョウカ及びその娘達や岬達は除く）と全軍は…怨宿である…
 縁結山神…エンノヤマガミ…いや…縁結桜死神…エンサイギョウガミ…との戦いが
 始まった…

VS 【最高邪神…縁結桜死神…エンサイギョウガミ（元エンノヤマガミ）「リベンジ仕
 様・超強化個体・歴戦王個体・完全邪神化形態・最終形態」】

戦闘方式【超要塞防衛戦及び大討伐戦】

勝利条件【エンサイギョウガミの撃破】敗北条件【味方の内一体の撃破又は拠点の陥落】

戦闘BGM:作品名【ダンボール戦機シリーズ】曲名【決戦、変革の境界にて】

地形:【神森大連盟国:拠点内全域】

【制空権確保】

【戦闘開始】

醜神『…ホロビヨ!』

キユイイイイイイン……!!
ポオオピイイ……!!

リュウカ(幻想)「ふん！そんな柔な攻撃…返してやるよ!! ほらよ!!」

バキイン…!!ズドオオオオオオン…!!

醜神『ギイヤアアアアアアアアア…!!?!?!?』

リュウカ(幻想)「おらよ!! 追撃にもう一丁!! 喰らいやがれ!!」

ポオオピイイ…!!ポオオピイイ…!!

ズドオオオオオオン…!!

醜神『グオオオオ…!!?!?!?グウウウウ…!!何モカモ…!!ホロビルガ良イ…!!?!?!』

キュイイイイイイン…!!?!?! キュイイイイイイイン…!!

リュウカ(幻想)「不味いな…!! 流石にアレは防げれない…!!」

アंकクロ(幻想)「あらら…! ちょっと不味かったかな…!?!?」

醜神『ギギギギ…!?!?! 何モカモ…消エテ…無クナッテシマエエエエエ
』

…!?!?!?!

キュイイイイイン…!?!?!?! ピギヤアアアアアアア…!?!?!?! ドツキュウ

ウウウン…!?!?!?!?!

リュウカ(幻想)「やべ…!! 避けれねえ…!!」

めぐみん「…ごめんなさい…リョウカちゃん…仇取れなくて…ごめんね…」

? 「まだです…!?!?!?! みなさんを守るのは…私の役目…!?!?! 返してあげ

ますよ…!?!?!?! 【リベンジ…フルカウンター…!?!?!?!】

ピシュウン…!! ガツキイン…!?!?!?!

醜神「ナ……！！！！？」

キイイイイン……！！！！
ズドオオオオオオン……！！！！

醜神『ギヤアアアアアアア……!!!!?』

全員「……！！？」

「待たせましたね…みなさん…そしてごめんなさい…またみなさんに迷惑かけちゃいました…」

リュウカ（幻想）「……は……全くお前は……つくづく面倒な妹だぜ……本当に……。」

めぐみん「…リョウカ…ちゃん…!!？」

リョウカ（幻想）「うん…ただいまです…！さてみなさん！！ここから反撃の時です！！一気に決着を付けますよ！！」

全員『了解!!』

【最終ラウンド】

勝利条件及び敗北条件変更【味方の内一体の撃破又はリョウカの撃破】アナザー
目標【ファイナルアタック（トドメの一撃）で討伐】

戦闘方式変更【大討伐戦「ファイナルアタック有り（トドメの一撃有り）」（※ト
ドメの一撃とは…元ネタは、あのドラクエのバトルロードを参考…因みに、トドメ
の一撃又はファイナルアタックは…この作品で言う…最終攻撃に当たる…（例とし
て…ラストスペル等が挙げられる）…】

戦闘BGM：作品名【このすば】曲名【tomorrow（フルver）】

【FINAL ROUND】

【戦闘開始】

システムAI『ファイナルオーブ…エネルギー最大まで…残り99%。』

リョウカ(幻想)「…行きますよ!!先制攻撃…!!【神恋符「ゴットマスタースパーク!!」】」

キュイイイイイン…!!ズツキュウウン…!…!

ガキイイン…!!ビキビキ…!!ガツシャアアン…!!

醜神『ギイアアアアアアアア…!…!?!?』

システムAI『ファイナルオーブ…エネルギー量…30%。敵ファイナルオーブ…エネルギー量…30%。』

リョウカ(幻想)「ふうん…!どうやら奴も最後の切り札有るみたいだな…!!」
リョウカ(幻想)「鏢迫り合いの可能性も出て来ましたね…!出来れば一気にケリを付けます…!!」

リョウカ(幻想)「おう!行くぜ!!……喰らえ!!【天神符【ホーリーグロリアス・レイ…!!】】」

ピキイイン…!! シャキン…!!

ジリジリ…!! ピキイイイイン…!! キュイイイイイイン…!! ドツキュウウウ

ン…!!!

ザッ シュウウウ…!!!

醜神『ギイヤアアアアアアア…!!!』

システムAI『ファイナルオーブ…エネルギー量…50%…敵ファイナルオーブ…50%…』

めぐみん「喰らえ!! 紅魔族唯一の…そして…!! 爆裂神の誇る最強の攻撃魔法!!

【ファイナルマスター…!! ゴットファイナルノヴァ…!!】

キュイイイイイン…!!! ピキイイイイン…!!! ポオオピイイ…!!!

ガキイイン…!!! ビキビキ…!! ガッシャアアン…!!

ズドオオオオオオン…!!!

醜神『グオアアアアア…!!?!?!?』

システムAI『ファイナルオーブ…エネルギー量…90%…敵ファイナルオーブ…90%…』

リュウカ(幻想)「……お願い…もう一度だけ…貴方の力を貸して…!!【コトワリさま…!!】」

ピキイイイン…!!ジリジリジリジリ…!!ピシャアアン…!!ピシャアアン…!!
ピシュウン…!!

リュウカ(幻想)「…来たか…!!コトワリさま…!!」
アクア「あれは…縁断神の…コトワリさま…!?!」

紫「…お師匠様の思いに答えてここに来たのね…!」

コトワリさま『グオアアアアア…!!?!?!?』

チャージ完了…。」

リュウカ(幻想)「そうか…ならば決着を付けてやるぞ!!」

リュウカ(幻想)「うん！行きますよ!!」

ファイナルアタック用BGM作品名【ジャングルの王者ターちゃん(以後【ターちゃん】…と略す。)】曲名【mama I Love You(フルver)】

醜神『グギギギギ…!!!! オオオノオオレエエエ…!!!! コノ虫ケラ供ガ…!!!! 何モカモ…消エテ無クナツテシマエエエエ…!!!!』

キュイイイイイイン…!!!!

リュウカ(幻想)「……これが…私達の…みなさんの…力です…!! 私達は…絶対に負けない…!! リミッター解除…!! フルパワーです…!!」

キュイイイイイン……！！　ゴオオオオオオオ……！！！！

リョウカ(幻想)「みなさん……!! 私に力を……!!」

リョウカの呼び声に應えて……全員が……全軍が……リョウカにその力を与えて行き……

キュイイイイイン……！！

リョウカ(幻想)「みなさん……ありがとうございます……!!」

醜神『グギギギ……！！　今度こそ……消エテ……無クナツテシマエエエエエ

……！！！！』

キュイイイイイン……！！！！　ドツキュウウウン……！！！！

リョウカ（幻想）「…連携合体ラストスペル……！！！！」
 ERO「……！！！！」はあああああ……！！！！！！」

説明しよう！神森符【東方最高神「零ZERO」】とは…簡単に言えば…【神正道】「親愛なるファイナルマスターゴットスパーク」系の超強化版且つ最上位の新規の切り札である！発動出来るのは本体のリョウカだけで…発動条件は…リョウカが全員及び全軍の力を貰う事やその全員と全軍との絆と信頼が最大で…リョウカ自身が全員と全軍を完全に信頼し…深い絆に結ばれる事…そしてその全員と全軍の想いが発動者であるリョウカと完全一致し…心が繋がり一つとなって初めて発動出来る…神森大連盟国及びに…神森大連盟軍と…神森一家全員の…最強の連携合体ラストスペルである!!(尚名前の由来はご存知の通りのこの本小説のタイトル名を使っている…)

キ
ユ
イ
イ
イ
イ
イ
ン
……！！！！
ジ
リ
ジ
リ
ジ
リ
ジ
リ
……！！！！
ピ
ギ
ヤ
ア
ア
ア
ア
ア
ア
……！！！！
ド
ッ
キ
ユ
ウ
ウ
ウ
ン
……！！！！

ゴオオオオオオオ…!!ズズウウウン…!!ピシャアアン…!!ピシャアアン…!!

醜神『グギギギギ…!!…!!』

リヨウカ(幻想)「はああああ…!!…!!」

全員『いっけええええええ…!!…!!』

リヨウカ(幻想)「私達は…負けない…負けて…たまるものですかあああああ
…!!…!!」

ジリジリ…!!…!! ピキイイン…!!バアアアアン…!!…!!

醜神『ナ…!!…!!? 何…!!…!!? グギギギギ…!!…!!』

ピキイイン…!!…!! ガキイイン…!!ビキビキビキビキ…!!…!! ガッシャアア
ン…!!…!!

醜神『何故ダ…!!何故…何故…何故…!!我ハ…究極ノ存在の邪神ノ筈ナ
ノニ…!!何故…我ハ…コンナ小娘供ニ…負ケルノダアアアアア…!!
ギイヤアアアアアアアア…!!』

キイイイイン…!!ピキイン…!!ズドオオオオオン…!!

そして…リヨウカの…いや全員と全軍の連携合体ラストスペルにより…最高邪
神…縁結桜死神…エンサイギョウガミは…完全に跡形も無く消滅した…

シユウウウ…

リヨウカ(幻想)「…私達の勝ちですよ…そして…安らかにどうか眠って…縁結山
神…エンノヤマガミ…っ…ふう…」

ボフ…

リュウカ（幻想）「おっと…大丈夫か？」

リョウカ（幻想）「あゝ…すみません…。」

リュウカ（幻想）「…やれやれ…んでリョウカ…あの最後に放ったスペル…。」

リョウカ（幻想）「アレですか？ あれは…あれ？ 何で使えたのかな…よく分からないです…ただ、分かるのは…みなさんが居たから倒せたのです…私一人じゃあ倒せなかったと思います。」

リュウカ（幻想）「そうか…さてと…お前ら!!あの邪神は討伐された!!帰るぞ!!」
リョクヨウ（幻想）「はい!帰りましょう!」

そして、縁結桜死神との戦いを終えたリョウカ達は、家に帰投して行った…

【対縁結桜死神:最終決戦:報告】

・今回の報告は、例の縁結桜死神との戦いの報告である…今回の発端は…リョウ

カに取り憑いていた呪いの除去において蘇った邪神です…尚何故か不明ですが…あのマザーコア戦と同様に突然変異で最高邪神化していた模様で…縁結山神と西行桜と融合し…例の縁結桜死神が誕生したと思われます…そして、全軍の死力を尽くして何とか犠牲者を出さずに討伐に成功しました…

【被害報告】

・神森大連盟国…全防衛装置及び全防衛用要塞砲…大破…更に拠点に攻撃の余波により大部分に大損害発生…尚奇跡的に死傷者無し及び重傷者無しに収まった…
 【最終拠点耐久力…30%】「大破」…因みに現在修理及び復旧作業中…

・味方…被害無し

以上…報告でした…

…縁結桜死神との決戦から更に2ヵ月辺りが経過して…ようやく神森大連盟国は完全に復旧及び完全復活…更に色々とりニユール（と言う名の大魔改造）を済ませた…

リョウカ（幻想）「ふう…何とか治りましたね…。」

リュウカ（幻想）「やれやれ…今回は大損害だったな…。」

カズマ「そうだな…今までに無い被害だったけど…。」

リョウカ（ハンター）「うん…奇跡的に誰も犠牲者が出なくて良かったです…本当に…。」

リュウカ（幻想）「んで聞くが…リョウカ…あんだけの力使ってよく普通に1日で復活出来たな…一体どうした？」

リョウカ（幻想）「さあ？分らないです…ただ、倒した時に更に身体が軽く感じて…もっと力が溢れる感じもして…それと頭の中にどっと色々な情報が流れて来ましたから大変でした…。」

リュウカ（幻想）「そ…そうか…。」

リュウカ（忍者）「やれやれ…まあそれよりも…また改造しないと不味いだろ？」
リュウカ（幻想）「そうですね…またあの悲惨になる前に早く改造しないとね。」
リュウカ（幻想）「だな…んじゃあお前ら!!やるぞ!!」

全員『おおおおお……!!!!』

そしてリュウカ達は…何時もと同じ日常が始まった…まあ改造も有るが…リュウカ達の旅はまだ続く…

【その7…完】

その８ リョウカと蘇る不沈戦艦大和…

例の演習異変から…何ヵ月も経過し…今じゃあ平和そのものになっている艦これの世界線…

…尚リョウカは、皆が眠りについた時間帯に…とある場所にてある物を作っていた…だがその正体は後に判明するだろう…

そんなある日の事…夜中にて…

リュウカ(幻想)「…ん…ふあ…クソ…トイレ…ん？リョウカ？」

リュウカは、その日トイレに行きたくて目が覚めた…がその時リョウカが居ない事に気付いた…

リュウカ(幻想)「……？リョウカもトイレなのか？……まあ取り敢えず…トイレ

レ……トイレ……」

取り敢えずリュウカは、トイレに向かい……用を足した……がそれでもトイレにはリュウカは居なかった……

リュウカ(幻想)「おかしいな……トイレにも居ない……じゃあ何処に行った？あんな身体じゃあ無茶が出来ない筈……はあ……仕方ない、みんな起こすか……」

……数十分後……

アヤカ(幻想)「ふうん……リュウカが居ないねえ……」

リョクヨウ(幻想)「無茶は出来ない筈なのに……何処？」

アクア「リュウカちゃんの事だから……何処かでこっそりと何かやってたり……なんちゃって……」

リュウカ(幻想)「はあ……ん？おい、アクア。」

アクア「はい？何でしょうか？」

リュウカ（幻想）「最後ら辺…何て言った？」

アクア「え？えーっと…『何処かで…こっそりと何かやってたり…なんちゃって…』…って言いましたけど…。」

リュウカ（幻想）「なんちゃって余計だが…良いヒントありがとな…。」

アクア「ど…どうも…。」

カズマ「こっそりねえ…何処かでこっそりと出来る所か…。」

リュウカ（幻想）「…やれやれ…まあこんな事も有ろうかと思って、レーダー機能を追加して良かったって思ったわ…。」

全員『……。（初めから使えよ…。）』

リュウカ（幻想）「…おいコラ、今…【初めから使えよ】…って思っただろう？…おい、何故そっぽ向く…?!? つか、レーダー機能が有った事に気付いたのは今だからな…!？」

まあ取り敢えず…更に数十分後…取り敢えずリュウカ達は、レーダーを頼りに…

本体のリョウカを探していた…それでたどり着いたのは例の隠しドック…だが…

リュウカ(幻想)「…？誰も居ないし…何も無いな…。」

アंकロ(幻想)「うゝん…可笑しいね…リーダーじゃあ、確かにここだけ…姿も何も無いのは変だね。」

リュウカ(幻想)「やれやれ…面倒だな…ん？少し静かにしろ…。」

リュウカは、その場で地面に向けて耳を付けてみると…

リュウカ(幻想)「…。(何だ…微かに…何かの作業のする音が聞こえるな…。)」

アヤカ(幻想)「どうしたんだい？」

リュウカ(幻想)「ああ…どうやら…この下に本当に微かだが、なんかの作業音が聞こえる…。」

アヤカ(幻想)「どれどれ…確かに…微かだね…でも聞こえるね。」

リュウカ(幻想)「つとなれば…まさかだが…更に隠し通路的なのが隠されてる

かもな…探してみるぞ。」

更に数分後…

リュウカ(幻想)「…!!おーい!お前ら!来てみろ!」

ダクネス「何かあるのか?」

カズマ「隠し通路でも有ったのか?」

リュウカ(幻想)「ああ…どうやらこれ…壁に見えて、実際には超巨大な扉になっているようだ…んで…この壁に付いてる装置…これを実作すると…。」

リュウカは、その隠し通路の扉の開ける為の装置を実作すると…

ゴゴゴゴゴ…!!ズズウウウン…!!

轟音を立てて…その超巨大な隠し扉が開いた…

岬「凄いよ！これ！」

リュウカ（幻想）「さて……どうやらこの先は……デカイエレベーターだな……乗るぞ。」

リュウカ達は、その先にあるエレベーターに乗り……下へ降りて行った……

更に更に……数分後……

ウイイイン……！ガシャン……！

リュウカ（幻想）「……どうやら着いたみたいだな……さてさて、この先で何やってるんだか……見てみるぞ。」

アヤカ（幻想）「そうだね……取り敢えずは何をしてるのか知りたいしね……。」

めぐみん「でも、無茶をして……更には私達にまで秘密にしないといけない……その理由も聴きたいですね。」

リュウカ(幻想)「そうだな…まあ勝手に何作ってるのやら…んじゃあ行くぞ。」

そしてリュウカ達は…リョウカの居るであろう最深部に到着すると…

全員『……………!!!!』

そこにあるのは…数々の兵器…更には艦隊も勢揃いしていた…トドメには、超兵器もそこに大量に鎮座していた…だが、驚くべき所は…その全ての兵器は…何と全部…【一切手加える前の状態…つまりは、完全なノーマル状態…】の姿がそこに全て堂々と鎮座しているのだ…

リュウカ(幻想)「す…すげえ…これ全部、何も改造を加える前の姿じゃねえか…!!」

まして「これは…! 史実の空母の信濃や加賀や赤城まで…!」

リョクヨウ(幻想)「…リョウカちゃん…これを全部…。」

カズマ「……どうやら十中八九……これ全部リョウカ自身の手で作ったのだろうな……これだけの量を……」

リュウカ（幻想）「……リョウカ……って、それよりリョウカは何処だ？」

リュウカ達は、更に奥に進むと……

全員『……!!』

更に奥に進むと……今度は何と……建造中なのは分かるが……姿形だけで、その姿ははっきりと理解し……分かった……

リュウカ（幻想）「……【戦艦……大和……!】」

幸子「戦艦大和……それって……あの異変で完全に轟沈して……それでサルベージした後に、戦艦大和を私達の手で改造したんじゃないですか……?」

リュウカ（幻想）「ああ……確かにそうだ……だが何で……?……ん?」

めぐみん「どうしたのですか？」

リョウカ（幻想）「…あそこ…艦橋付近に一瞬だけ誰か居たな…まさか…いや…
確実にリョウカしか居ない…！」

岬「どうするの？」

リョウカ（幻想）「…取り敢えず、少し様子を見るぞ…危なくなったら出る…。
シンカ（幻想）「そうだね…今邪魔したらどうかと思うしね…危なくなったら助け
よう。」

リョウカ達は、一旦戦艦大和から少し離れて…様子を見る事にした…

サイドチェンジ…リョウカ

一方肝心のリョウカだが…相変わらず作業の真っ最中だ…しかもたったの一人且
つまだ治り切っていない身体を酷使して作業を続けていた…

ガン……！ガン……！ジジジジジ……！！

リョウカ（幻想）「よいしょと……！はあ……はあ……えーつと……これは……こっちですね……よいしょと……！」

ガン……！ガン……！ジジジジジ……！

リョウカ（幻想）「はあ……はあ……つ……！不味いですね……少しふらつきます……いえ、駄目です……！こんな所で倒れていたら間に合わないです……！急がないと……！」

リョウカは、無理してまで急いでその戦艦大和を必死で建造していた……だが、何度と言うが……もうリョウカは……本来ならもっと寝てないといけない身だ……そんな身体で……例えば如何なる理由だろうが……結局はリョウカは人間だ……当然……

リョウカ（幻想）「……っ……！！？　げほ……！げほ……！」

案の定…限界が来てその場で吐血してしまった…更には…

リョウカ（幻想）「……っ……だ……め……力が……出ない……！げほ……！げほ……！……！？ご
ほ……！げぼ……！」

ヒュウウウ…

（リョウカ（幻想）「…限界か…!!行くぞ…!」）

（アヤカ（幻想）「ええ…やれやれ、全く困った子だね…!」）

その場で…更に大量吐血…更には力も抜けて行き…手に持っていた工具も落としてしまった挙句…力尽き…墜落して行ったが…

ボフィン…!

リュウカ(幻想)「…つと…！危ねえ…！…つて…！やべ…！」

ガチ…！

リュウカ(幻想)「危ない危ない…誰かにぶち当たるか…工具が壊れる…。」

リュウカ(幻想)「げほ…！げほ…！………何で……此処が…？」

リュウカ(幻想)「ば…か…俺達に秘密にしようとなんて…水臭いぞ？んなもん…隠し通路ってのはいずれはバレる物なんだぜ？」

リュウカ(幻想)「………そう………ですよね…。」

リュウカ(幻想)「はあ…取り敢えずは、もう喋るな…そのままだと死ぬ…。」

リュウカ(幻想)「…でも……まだ私には…やる事はいっぱい…げほ…！げほ…！それに…時間も……もう無い…です。」

リュウカ(幻想)「…あのなりヨウカ…幾ら何でもこれ以上は辞めてくれ…お前が作ろうとしてるのは…ただの通常の戦艦大和だろ？しかもかなり切羽詰まっ

て…急いでる感じだろう？」

リョウカ(幻想)「……………うん…。」

リユウカ(幻想)「…一応だけ最後の確認だ…理由は教えてくれんか？それと…その締め切りまでの時間を…。」

リョウカ(幻想)「……………私は……………ヤマトさんにまともにプレゼントや何かしらの記念日を挙げた事は無いです……………げほ……………！げほ……………だから…私は……………自分の手で…この戦艦大和を作って……………ヤマトさんに…見せて…実際に乗ってもらって…一緒に遊覧しよう…それで喜ぶかな…？って思っ……………私が…初めてヤマトさんと出会って…正式な仲間になった日に…その日をヤマトさんの誕生日にしたのです……………だから……………もう時間が無いのです……………休んでいる場合じゃあ……………っ……………ああ……………！」

リユウカ(幻想)「…リョウカ……………お前の気持ちは良く分かった…だがな、それでお前が無理し過ぎて倒れて死んでしまえば…ヤマトだって喜ばんだろう？」

リョウカ(幻想)「……………ごめん…なさい…。」

リユウカ(幻想)「で……………？そのヤマトの誕生日はいつだ？」

リョウカ(幻想)「……………【8月8日…その日がヤマトさんの誕生日です…。】」

リュウカ(幻想)「8月8日だな…えーっと…今は…【8月2日】…ってやばいな…！後6日しかない…！」

リュウカ(幻想)「…だから時間が無い…って言いました…でも…大丈夫です…もう…大部分は…出来てます…後は…主砲を…完成させて…載せれば完成…です。」
リュウカ(幻想)「…取り敢えずは詳しい事は明日の…そうだな…お前の体調が安定した時に詳しく教えてくれ…とにかく今は撤退だ…。」

リュウカ(幻想)「……………うん…………。」

そしてリュウカは、リュウカに抱かれながらそのままリュウカ達と共にその格納庫を去った…

翌日の昼辺り…リュウカとリュウカの部屋にて…全員が集まった…流石にリュウカは、ベットに居る状態だが…

リュウカ(幻想)「んでリュウカ…身体は少しは楽になったか？」

リョウカ(幻想)「うん。」

リョウカ(幻想)「…んじゃあ聞くが…何故俺達に隠した？それに…あの隠しドックと良い…あの最深部の格納庫及び整備場は一体何だ？」

リョウカ(幻想)「隠した事は本当にごめんなさい…でも…これだけは絶対に譲れないのです…だって…オリジナルが存在しなければ…ヤマトさんは喜ばない…では無くて…不老不死としての力を失います…。」

リョウカ(幻想)「……？どう言う事だ？」

リョウカ(幻想)「みなさんも何度か大和が轟沈して…すぐに復活する所を見ましたよね？」

リョウカ(幻想)「ああ…まあ時には撃沈して…サルベージして直す事も有るがな…それで、何故何だ？」

リョウカ(幻想)「はい、私が作ろうとしてるのは正にヤマトさんのコアそのものです…まああの時言った事も本当の事ですけど…コアって言うよりも…メインコア及びサブメインコアって事です…これが無ければ…大和が轟沈した時…今度こそヤマトさんは死んでしまいます…。」

リュウカ(幻想)「何……？」

岬「ど……どう言う事なの？」

リュウカ(幻想)「……性質的にはヤマトさんは霧の艦隊と同じで……船体が壊れると死んでしまうし……逆もあります……それで、このオリジナルが存在する限りは何度でもそのどちらかがやられたとしても……復活が出来るって言う事です……まあ今のヤマトさんや他の子達はある程度は私達の能力で艦船がやられたとしても、生きる事が出来ますし……艦船を蘇らせる事が出来ます……ただし……その両方ともやられた場合は、オリジナルが存在しない限りは復活は不可能です。」

リュウカ(幻想)「なるほど……」

リュウカ(幻想)「……ただ……私にとっては……ヤマトさんに喜んでもらいたい……そして……私達の家族として……幸せになって欲しいな……って思っているのです……」

リュウカ(幻想)「そうか……で……あの秘密ドックやあの最深部の秘密の格納庫及び整備施設は？」

リュウカ(幻想)「……実はね……私がまだ一人旅の時に、あの秘密ドックや格納庫は……実は……【元々メインで使っていた場所で……】私はもしかしたらそこに攻撃を受

ける可能性が出て来て……その二つを地下に埋めて……それを完全な秘匿にし……その上に身代わりとして……現在使っている格納庫やドック……その整備施設を造設してます……そして現在じゃあ、あの異変までは完全秘匿を保っていて……私が時折は来て、そこでずっと作業を続けていました。」

リユウカ(幻想)「……そうなのか……」

アヤカ(幻想)「……なるほどねえ……あの今でも建ってるあの建物もあんな履歴が有ったなんてね……まさか囧として堂々と作った訳ね……」

リヨウカ(幻想)「……本当は嫌だけどね……偽装しないといけないなんてね……まあ昔の私なら多分嫌でもそうしないといけないと思うね……」

アヤカ(幻想)「そうなんだ……」

リヨウカ(幻想)「……さてと……作業しないと……」

リユウカ(幻想)「はあ……あのさあ……リヨウカ、無理はするなって言っただろ？だからもっと寝ていないと……って言いたい……ただの戦艦大和を作るとなると……お前自身の知恵も必要になるし……力もいる……だから、もう少しの辛抱だ……手伝ってくれんか？」

リヨウカ(幻想)「…!! うん！」

リヨウカ達は、あの戦艦大和を完成させるべく…最も信頼出来る兵士を全て集めて、再びあの秘密格納庫へ向かった…

リユウカ(幻想)「えゝ…ごほん…諸君！これより急ピッチ作業で…あそこに堂々と鎮座している完成間近の戦艦大和を完成させる！今回の現場監督として…無理してまで来てくれたリヨウカが全ての指揮を取る！お前らの働きを期待しているぞ…無論俺達も作業に参加する…共にあの伝説の不沈戦艦大和を蘇らせようではないか…やるぞ！お前ら！」

全員『おおおおお…!!』

【8月3日:戦艦大和建造計画:大規模作業開始】

ガン…!!ガン…!!ジジジジジ…!!

兵士 1 『おーい！手伝ってくれ！』

兵士 2 『あいよ！今行く！』

兵士 3 & 4 『えっさ…！ほいさ…！』

ガガガガガガガ…!!ガン…!!ガン…!!

リョウカ(幻想) 「えーっと…次は…あそこですね…。」

リョウカ(幻想) 「よし！分かった！任せろ！」

ウイイイン…!!ガシャン…!!ジジジジジジ…!!

リョウカ達が作業を再開してから…

【2日後…8月5日…】

リョウカ(幻想)「……完成…です…!!」

リュウカ(幻想)「いよっしゃあゝ!! やっと出来たぞ…!!」

アヤカ(幻想)「ええ、まさか普通の戦艦大和を建造するのは…これほどまでに大変だっと思わなかったわ…。」

…そう…あの不沈戦艦の…大和が…ようやく此処に復活したのだ…

兵士全員『おおおおお…!!』

リュウカ(幻想)「んで、完成したは良いが…この格納庫から…どうやって外に出すんだ?」

リョウカ(幻想)「ええ、あそこの制御室に…この格納庫及びドックの…全ての兵器や艦を秘密ドック及び格納庫…又は地上の格納庫及びドックに輸送する為の操作が出来ます。」

リュウカ(幻想)「おお! そうか! んじゃ早速!」

リョウカ（幻想）「あ、待って下さい…話は最後まで聞いてね。」

リョウカ（幻想）「わ…悪い…。」

リョウカ（幻想）「実はね、確かに輸送は出来るし…搬出は出来ます…ただ、秘密保持の為…一度でも出せば此処と秘密ドック及び格納庫に戻す為には…私達の力で転送する他無いです。」

リョウカ（幻想）「なるほど…一方通行って訳か…。」

リョウカ（幻想）「ごめんね…また近いうちにどちらとも改造して戻せる様にしておきますからね。」

リョウカ（幻想）「分かった…まあ取り敢えず、この大和をあのドックに運ぶぞ。」

リョウカ達は、その完成した戦艦大和を上階のドックに輸送して…更にヤマトの誕生日の準備をした…

【3日後…8月8日…予定日】

リヨウカ(幻想)「ヤマトさーん！」

ヤマト「はい？何でしょうか？」

リヨウカ(幻想)「ちょっと来てくれませんか？見せたい物が有ります。」

ヤマト「は……はあ……。」

リヨウカは、ヤマトを連れて港にやって来た……そこには……

ヤマト「……え？こ……これは……！」

リヨウカ(幻想)「……えへ……どうですか？」

ヤマト「……戦艦……大和……！お嬢様……これは一体……？」

リヨウカ(幻想)「……こう言う事だぜ！ヤマト！」

リヨウカ(幻想)「ヤマトさん！私とヤマトさんと出会って……正式な仲間になって……私は今までに何回も祝っては来ましたが……まだ大規模に祝う事が出来なかつたです……だから今日こそは……ヤマトさん……貴女に喜んでもらいたくて……みなさんと一緒に、この戦艦を私達の手で蘇らせました……勿論ちゃんと動きますよ。」

ヤマト「お…お嬢様…！…あ…ありがとうございます…！私は…今日来て…改めて私は…幸せだ…って感じました…！…本当に…ありがとうございます…！お嬢様…！」

ムサシ「おめでとう！お姉様！」

キイ「おめでとう！お姉ちゃん！」

シナノ「おめでとうございます！お姉さん！」

ハレカゼ「おめでとう！ヤマトさん！」

ヤマト「みなさんまで…ありがとうございます…！」

リョウカ（幻想）「…ヤマトさん…改めて言いますね…今日と言う日まで…本当に生きていてくれて…本当にありがとうございます…！そして…神森大連盟艦隊の総旗艦の大和として…そして…その艦隊の私の右腕として…本当に今までよく勤めてくれて…ありがとうございます…！ヤマトさん…！だから、私達からのささやかなながらも…この戦艦大和を作…貴女にプレゼントします！」

ヤマト「……!!はい……！ありがとうございます……！」

リョウカ（幻想）「えへへ…それじゃあヤマトさん…一緒に大和に乗って、この島

周りを回ってみませんか？」

ヤマト「はい！喜んで……！」

リョウカ（幻想）「分かりました、それじゃあ……乗って下さい！ヤマトさん！それにみなさんも……！」

リョウカ達は、その戦艦大和に乗り……

リョウカ（幻想）「出航用意!! 錨を上げー!!」

ゴゴゴゴゴ……!

リョウカ（幻想）「微速前進!……戦艦大和……! 出航!!」

ボオオオオオオ……!! ザザアアン……!

そしてリョウカ達は…日本の誇る最強の戦艦大和を出航させた…無論だが、流石にただの戦艦大和だけを出すのは不味いのか…護衛艦隊として、神森艦隊を総出航させた…更には航空機まで出撃している…

戦艦大和のテーマBGM…作品名【男たちの大和】曲名【男たちの大和…メインテーマ】

ヤマト「…この感じ…久々ですね…私が大和として動いていた時代を思い出しますね…。」

リョウカ（幻想）「そうですね…でもヤマトさん…今はもうあんなに殺伐とした世界や時代にはさせないです…私達が…みなさんと一緒に…本当の平和を勝ち取るのですよ…今度こそね…。」

ヤマト「…はい！お嬢様！」

リョウカ（幻想）「さてと…ヤマトさん、この大和の代名詞の…46cm主砲…撃ってみますか？」

ヤマト「…良いのですか？」

リュウカ（幻想）「ああ、良いぜ？だって今日はヤマトの日だからな。」

ヤマト「…はい！それじゃあお言葉に甘えて…やらせて頂きます！」

リュウカ（幻想）「分かりました……全艦！対水上戦用意…!!」

ビィィィ…!!ビィィィ…!!

リュウカ（幻想）「…全主砲！発射用意!!」

リュウカ（幻想）「目標…標的艦!!」

ビィィィ…!!ビィィィ…!!

ゴゴゴゴ…!!ガコン…!!

リュウカ達の用意したただの目標艦に全主砲が向き…

リョウカ(幻想)「さ！ヤマトさん！発射号令を！」

ヤマト「はい！…全主砲…【薙ぎ払え!!】」

ドオオオオン…！！！！ ドオオオオオン…！！！！

…戦艦大和から天を轟かせる巨砲の咆哮が放たれ…真っ直ぐと砲弾は標的艦に向かい…

ズドオオオン…！！

ゴゴゴゴゴ…！！ザッパアアン…！！

…見事に全弾命中し…標的艦はあっさりと轟沈した…

兵士隊長１「目標！撃沈です！」

ヤマト「…最高です…！やっぱりこれです！これこそ…私で居られるのです…

！」

リョウカ（幻想）「喜んでいただいて嬉しいです、ヤマトさん。」

ヤマト「はい！」

リョウカ（幻想）「さてと…それじゃあ、このまま遊覧航行を続けますよ！」

総員『了解！』

そして数時間後…リョウカ達は、遊覧航行を終えて…無事に母港に帰港した…

リョウカ（幻想）「さてと、帰りましたよヤマトさん…今日はどうでしたか？」

ヤマト「はい…今日はとても最高の1日でした…！本当に…本当に…こんな私の為に…ありがとうございます…！！お嬢様…！」

リョウカ（幻想）「……うん！さてと、ヤマトさん！今日は盛大にしましょう！」

ヤマト「はい！」

その後…リョウカ達はヤマトの記念日を祝った大パーティーを開き…それはそれ

は…大いに盛り上がり…ヤマトにとって最高の 1 日となった…ヤマトも…今も最高に幸せで…リョウカ達の為に…今でも総旗艦を続けている…この素晴らしい総旗艦に…素晴らしき仲間達を…そして…この超戦艦に…素晴らしき存在の在り方を…そして…ヤマトに…この素晴らしい世界に祝福を…

【その 8…完】

その9 この精神的不安定なリョウカに完全復活を!

リョウカ達は、モンハンの世界線から安定と信頼のこのすばの世界線に戻って来た……まあ神森空間の中だが……

とある日の事……

リュウカ(幻想)「……ん……」。

アヤカ(幻想)「どうしたんだい?」

リュウカ(幻想)「ん? ああ、最近……って言うよりあのモンハンの世界線での生物兵器の異変以来……何と言うか……更にリョウカが無理してる気がするし……積極的な感じがしない……って言うか……元気が無い……って感じて言うか……その……リョウカらしくないって感じがするんだよな……」。

アヤカ(幻想)「……やっぱ……あの異変が相当答えたんでしょね……精神的に……多分、自身が行動を起こすから……私達を傷付けちゃうって感じて……更には、幾

度となく暴走を繰り返して……あの異変で完全に……リヨウカちゃんは……精神的にかなり傷付いたと思うよ……自身の所為で……私達を殺そうとしたし……傷付けようとしたし……世界を滅ぼそうとしたしね……優しいリヨウカちゃんの事だから……ねえ……」

リヨウカ(幻想)「……そうなのか……だが……俺達的には……もうリヨウカに動いて欲しくないから……これもある意味で良いって感じだけど……それだと……俺達が認めれん……確かに動いて欲しくないのは事実だが……リヨウカらしくないのは……もっと嫌だ……リヨウカに明るく……もっと元氣の良い……活氣とした……元のリヨウカらしく戻って欲しいなって思う……」

アヤカ(幻想)「そうだね……まあ取り敢えず、みんなにも相談はしてみるよ。」

リヨウカ(幻想)「すまん……」

1時間後……

そして……肝心のリヨウカはと言うと……

リヨウカ(幻想)「……………」

現在…リョウカは、例のオリジナルの大和が格納されている所の格納庫に居た…で、その大和の艦首の所に静かに座っていた…が表情は明らかに暗く…落ち込んでいる様だ…そんな時…

ヤマト「お嬢様? こんな所で何をしているのですか?」

リョウカ(幻想)「ん? …ヤマトさんですか? ……ちよつとね…。」

ヤマト「…お嬢様…大変聞き辛いのですが…最近…お嬢様…見るからに落ち込んでいらつしゃいますが? …何かありましたか?」

リョウカ(幻想)「え? そう…見えますか?」

ヤマト「ええ…それにかなり辛そうな感じもします…相談には乗りますよ?」
リョウカ(幻想)「そうですか? ……じゃあ…ヤマトさん…ヤマトさんから見て…私ってどう言う存在ですか?」

ヤマト「え? お嬢様は、お嬢様ですが?」

リョウカ(幻想)「あ…言い方が悪かったですね…じゃあ…あの異変以来の

私を見て……どう思いますか？」

ヤマト「…………お嬢様……大変ながら失礼で無礼だっと思っています……だけどはつきりと言うと……お嬢様らしくないですね……前みたいに、積極的に動かなくなりました……って言うよりも……私達の事を気にし過ぎて……傷付けたくないって思っているのでしょうか……判断能力もかなり下がって来てますし……ここ最近での家事等の仕事量が増えて……それを全部お嬢様自身の手でやって……かなり無理してますね……まあその他色々と有りますが……なんとと言うと……その……やっぱり……お嬢様らしくなくて……私達も辛いて思います……。」

リョウカ(幻想)「…………そう……ですよね……やっぱりみなさんもそう思っちゃいます……よね……。」

ヤマト「……お嬢様……。」

リョウカ(幻想)「…………ヤマトさん……私は……どうしたらいいの……私には……私……には……もう自分らしさは……何なのか……それが……分からないの……！ 一体……どうすれば……！ どうしたら……っ……うう……！ あああああああ……！……！」

ヤマト「…………お嬢様……。」

(リョウカ(幻想)「……………」)

リョウカは、ヤマトに自身の変化の事を告白し思いっきり泣き…ヤマトに抱き付いた…ヤマトはそんなリョウカに優しく抱いてあげて慰めてあげる事しか出来なかった…そして影から、その一部始終を見ていたリョウカも…ただ見守る事しか出来なかった…

……数日後……

リョウカ達は完全に精神的に弱り切っていたリョウカの復活の為の会議を開く事にした…

リョウカ(幻想)「さて、今回集まってもらったのは…俺の所のリョウカが完全に精神的に弱り切ってしまった…このままだと…今度暴走した時…もうリョウカは元には戻れなくなるし…自身と言う存在を否定する様になってしまう…そうなっ

しまえば…最悪自殺の可能性も出て来る……んで今回集まってもらったのは…リョウカの完全復活の為の会議だ…。」

カズマ「ああ…確かに最近のリョウカは、明らかにリョウカらしくないし…なんかとても辛い感じで…物凄く暗い顔してたな…。」

リョクヨウ（幻想）「……それに…夜中に…たまに起きて聞いたのだけれど…泣いてる様な声も聞こえたよ…。」

リユウカ（幻想）「ふ…む…相当追い詰められてるな………リョウカ……。」

ヤマト「……お嬢様…。」

リユウカ（幻想）「どうした？」

ヤマト「……お嬢様の件…私達に良い考えがあります…ただ、賭けにもなりますし…お嬢様自身やお嬢様達…みなさんのお力が必要です…。」

リユウカ（幻想）「……分かった、お前の案を聞こう。」

ヤマト「はい…その前に確認ですが…お嬢様は、【歌を歌う事は好きですか？】」
リョウカ（このすば）「え？うん、好きですよ？まあ…本当に休暇の時…まあ何も無い時に…ゆっくりとした時間に歌う事が多いですね…。」

リュウカ(幻想)「ああ、確かにたまに歌声を聴く事が有るな…。」

ヤマト「なるほど…それなら行けるかもしれない…。」

リュウカ(幻想)「…一体何を考えてる?」

ヤマト「はい、お嬢様が歌う事が好きなのが分かりました…それです…更に追加注文になります…【神森大連盟軍の全軍と神森大連盟艦隊全艦…それを使います。】」

全員『……!!』

ヤマトは何故かともんでもないご注文をして来た…それが全軍を寄越して欲しい…との事だ…

リュウカ(幻想)「…ヤマト、確かにお前の案に乗るって言ったが…流石に全軍寄越してくれ…って言うのは些かどうかと思うが?」

ヤマト「はい…ですから失礼を承知の上で…お嬢様にお願いします…それに…ある意味で私達…いえ…この神森大連盟国全ての住民の絆を更に深める事が出来ま

す……が……失敗すれば……私達も危険を晒す事になりますし……お嬢様の精神も……もう元には戻れない可能性も非常に高いです……。」

カズマ「……どうする？」

リュウカ(幻想)「……取り敢えず、作戦を言ってくれ……それで許可をする。」

ヤマト「はい……先ず作戦名ですが……【神森国家曲：神森大連盟軍曲作戦】……って言うのが正式名称の作戦名です……略すと……【神森大連盟軍曲作戦】です……。」

リュウカ(幻想)「神森大連盟軍曲作戦……。」

ヤマト「……作戦の内容は……【リュウカお嬢様自身が好きな曲を歌ってもらい……私達は、その歌っているリュウカお嬢様の【歌声に合わせて……目標に大規模な攻撃を……正確に行います……】……勿論、その目標となるターゲットは……そうですね……カズマさん。」

カズマ「ん？何だ？」

ヤマト「はい、貴方方の世界線で戦った……あの【機動要塞：デストロイアー】を使わせてもらいます……それで、そのデストロイアーは……私達の手で改造を行い……耐久力を弄らせてもらって……リュウカお嬢様が歌う曲によりますが……その曲が終わる

と同時に撃破……って言う位の耐久力に調整して……更に私達も、その曲に合わせて……
どういった攻撃を行わなければいけない……って言う事も必要です……本当に私達の絆
が試されます……私達の……リョウカお嬢様の絆は本物だって言う事を証明してあげま
しょう! お嬢様!」

リョウカ(幻想)「……ふ……なるほど! 確かにそれなら良いな……が、失敗すれば
そのデストロイアーにやられて終了……って訳か?」

ヤマト「はい、それに一応は実戦での本当の戦闘です……一発勝負で決めないとい
けません……」

リョウカ(幻想)「……練習は出来ないな……待てよ……俺達も参加するって言ったが……
歌うのはリョウカなのは分かるが……一応分身組も居るが……大丈夫か?」

ヤマト「はい、問題ありません……って言うよりも全員が参加します……ただ、歌う
方のリョウカお嬢様と……攻撃にさんからするリョウカお嬢様をどちらかに決めない
といけません……」

リョウカ(幻想)「なるほどな……なら、おい……この世界線のリョウカ。」

リョウカ(このすば)「はい?」

リュウカ(幻想)「お前が…歌ってくれるか？」

リュウカ(このすば)「勿論です！任せてください！あ…でしたら、歌う曲…もう決めた方が良いでしょう。」

リュウカ(幻想)「ああ、その方が有難い。」

リュウカ(このすば)「そうですね…じゃあ…私が歌うのは…【fantasy dreamer(フルバー)】…これを歌います。」

カズマ「ん？確かこの曲って…。」

リュウカ(このすば)「ええ、メタい事を言えば…貴方達の世界線でのアニメ化された時の第1期…のOP曲として出ています…結構人気ですよ、しかもこの本シリーズでもかなり多くの場面で使ってますよ？」

リュウカ(幻想)「メタいな…だが、結構良い曲なのは確かだ…が、かなり難易度あるな…この曲に合わせて正確な攻撃と…その攻撃の種類を決めて…それを実行しないといけない…考える前に動け…って言う感じだな…。」

ヤマト「はい…それで…如何でしょうか？」

リュウカ(幻想)「分かった…採用しよう…だが、流石に練習はしたいが構わんよ

な？」

ヤマト「ええ、良いですよ…あ…やるのは、約1ヶ月後です。」

リョウカ(幻想)「分かった…さてと、良い案が出た事だし…そろそろ締めるぞ…んで早速、全軍にもこの会議の事を報告して…んで準備及び練習を行う…で、リョウカをどうやって説得するかな…まあ良い…んじゃあ取り敢えず…解散！」

そしてその日…会議は終わり早速全軍に報告が入り…軍全体が慌ただしく行動をして…厳しい練習を繰り返した…

…1週間後…

リョウカ(幻想)「……………」

リョウカは、自分の部屋に居た…が、案の定…リョウカはかなり寝ていた…

リュウカ(幻想)「おーい、リョウカ…大丈夫…じゃないな…。」

リョウカ(幻想)「…おねえ…ちゃん…ですか?」

リュウカ(幻想)「ああ…そうだ…。」

リョウカ(幻想)「……私に…何か用ですか…?」

リュウカ(幻想)「ああ、実は後3週間後に…とある作戦に参加する…んでその内容だが…どうやらお前も含む全員参加との事だ…が詳しい事は当日に言われる…が、何でも…俺達と…お前の絆が試される…って言われてるぞ…。」

リョウカ(幻想)「…分かりました…。」

リュウカ(幻想)「あゝ…それでだが………リョウカ…。」

リョウカ(幻想)「……?」

リュウカ(幻想)「……あのなリョウカ…俺達は何も気にしてねえよ…それに…お前自身も言ったろ?過去は過去…今は今だって…んで…暴走程度でこんなにも思い詰める事ないだろ?…安心しなって…お前が、また暴走しそうだったり…暴走したら…俺達が…何度だってお前を止めてやるさ…無論、お前が道を踏み間違えそうになったり…踏み間違えたりしてもだ…俺達が何度だって、お前を助けてや

る……だからな……リョウカ……もう……安心して良いんだぜ……?リョウカ……。
リョウカ(幻想)「……っ……おねえ……ちゃん……!」

ぎゅう……

リョウカ(幻想)「……何度も言うぞリョウカ……今はゆっくりで良い……だから
な……気長に……自由気ままに……生きて行こうじゃないか……リョウカ……」

リョウカ(幻想)「……うん……うん……あ……ああ……あああああ……!!」

……リョウカの説得により……ようやくリョウカはリョウカらしさに戻りかけて
来た……

3週間後……リョウカはリョウカのお陰で体調は元通りになった……

そして……当日……

ウオオオオオ……！ウオオオオオ……！

リュウカ（幻想）「いよいよだ……お前ら！出撃の準備をしろ！この作戦に……全てを賭ける！そして……俺達の神森魂と……俺達の絆って奴が本物だって事を思い知らせるぞ!!神森大連盟軍!!全軍出撃!!」

全軍『おおおおおお……！！！！！！』

リュウカの号令により……神森大連盟軍と全艦が出撃した……全てはリュウカの為に……

リュウカ（このすば）「……行けるな？リュウカ？」

リュウカ（このすば）「うん、大丈夫だよ……さてと、みなさんの動きはどうですか？」

リュウカ（このすば）「……どうやら続々とこっちに向かってるそ……。」

リョウカ(このすば)「予定通りですね…さてと…こっちも準備をしますか。」
リョウカ(このすば)「だな…。」

そして数十分後…全ての準備が整った…

リョウカ(艦娘)『全砲台!準備完了です!』

リョウカ(艦娘)『同じく!全迎撃兵器準備完了!』

リョウカ(幻想)「良し!おい!デストロイアーの調子は!!」

兵士隊長1「は!問題ありません!いつでも行けます!1」

リョウカ(幻想)「デストロイアー…?お姉ちゃん?これは一体…?」

リョウカ(幻想)「ああ…ヤマト、そろそろ言っても大丈夫だよな?」

ヤマト「はい、良いですよ。」

リョウカ(幻想)「……?」

リョウカ(幻想)「リョウカ…実はこの作戦は…ある意味でお前関連の作戦でな…」

作戦名は…【神森大連盟軍曲作戦】…。」

リョウカ（幻想）「神森大連盟軍曲作戦……？」

リョウカ（幻想）「ああ、実はこの作戦を立案……計画したのは……ヤマトだ……まあ正確に言えば……全軍がこの作戦を立案したって感じだな……。」

ヤマト「はい、そうですよ……それではお嬢様……詳しい内容と……この作戦の思いを伝えます……。」

リョウカ（幻想）「うん……。」

ヤマトとリョウカは、この作戦の事を全て伝えた……

ヤマト「と言う訳です……。」

リョウカ（幻想）「……これ……全部……私の為に……？」

リョウカ（幻想）「そうだ……お礼って感じで……まあお前の恩はこんなもんじゃないが……せめてでのお礼って感じだな……。」

リョウカ（幻想）「……みな……さん……！！本当に……ありがとうございます……！！」

ヤマト「はい……！！」

リョウカ(幻想)「が、だ…この作戦、ある意味で俺達の国の存亡が掛かってる…お前の完全復活の為に…全てを賭けた…だからしくじれば…俺達の用意したデストロイアーが…。」

リョウカ(幻想)「…滅亡って事ですね…分かりました…ならば…やってやりましょうではありませんか! みなさん!」

リョウカ(幻想)「おう!」

ヤマト「ええ!」

カズマ「へ!」

めぐみん「はい! 勿論ですよ!」

美鬼「やってやりましょうかね!」

紫「任せなさい!」

リョウカ(幻想)「…良し! 作戦開始! デストロイアーを起動!!」

カチ…! ピッ…ピッ…ピッ…ピー…!!

ゴゴゴゴゴ…!!

デストロイアー『……………!!』

そして…デストロイアーが起動し…真っ直ぐに、拠点の方に向けて進行を開始した…

リュウカ（このすば）「デストロイアー起動を確認！…リュウカ、そろそろだぞ！」

リュウカ（このすば）「うん！…超広域スピーカー及び、超拡声機作動！」

カチ…！

リュウカ（このすば）「良し！準備完了！」

リュウカ（幻想）『分かった！……全軍に告ぐ！作戦開始！目標！デストロイアー！さあ！楽しんで行こうぜ!!』

全軍『おおおおお……!!!!』

今この瞬間…神森大連盟軍曲作戦が開始された…

VS
【機動要塞…デストロイアー】「神森一家製」

戦闘方式【ミュージカルアタック方式（略名…曲撃方式……内容は、前述通り…リズム良く正確に攻撃を実行する事）「ファイナルアタック有り」】

勝利条件【デストロイアーの撃破及びミュージカルアタックでオールパーフェクト判定を取る（ノーミスクリア）】敗北条件【最終防衛ライン陥落又は味方の内一体の撃破又はミュージカルアタックで一回でもミス判定を取る】

戦闘BGM:作品名【このすば】曲名【fantastic dreamer（フルバージョンウカver）】

【曲撃開始】

※注意！流石に歌詞は載せる事が出来ませんので…変わりに…攻撃側サイドを
の解説を優先します…

【第一陣：攻撃・曲撃「1番目開始」】

【航空機攻撃師団大隊：第1波】

リョクヨウ（エスコン）「clear do attack…!!リョクヨウ隊全機
攻撃開始！」

アヤカ（エスコン）「こちらアヤカ隊！爆撃開始！」

カチ！ヒュウウウ…！！ヒュウウウ…！！

リュウキ(エスコン)「こちらリュウキ隊!全機FOX3!!」

ドドドドドドドドドド……!!

リュウコ(エスコン)「こちらリュウコ隊!全機俺に続け!FOX2!!」

カチ!バシユウ……!バシユウ……!

【神森大連盟艦隊第1波】

大石「噴進弾!攻撃始め!」

ガバ……!バシユウ……!バシユウ……!

岬「砲撃用意!」

立石「うい……！方位良し……！」

岬「砲撃始め！！」

立石「てええ……！！」

ドオオオオン……！ドオオオオオン……！

アクア「セイクリッド！！ブレイクスペル……！！」

キユイイイイイン……！！ビイイイイイイ……！！

シュウウウ……！！

ヒュウウウ……！！

キイイイイイン……！！

ピキイイイイン……！！！！ズドオオオオオオン……！！

ガッシャアアン……!!

【第一陣攻撃完了:デストロイアー「障壁破壊」・曲撃「第1段階:パーフェクト」】

【第二陣攻撃開始・曲撃「2番目開始」】

カズマ「今だぁ……!!」

リョウカ(艦娘)『全砲台及び!全迎撃兵器!攻撃始め!!』

【神森大連盟国:拠点全砲台及び全迎撃兵器「第1波攻撃」】

ドオオオオン……!ドオオオオン……!ドオオオオン……!

バシユウ……!バシユウ……!バシユウ……!

カアオ……!カアオ……!カアオ……!

バアアアアン……!バアアアアン……!

【戦車師団大隊第1波】

戦車隊長1 「砲撃始め!!」

戦車乗員1 「待ってました!」

ドオオオオン…!!ドオオオオン…!!

【航空機攻撃師団大隊第2波】

アンカ(エスコン) 「こちらアンカ隊!クロカ隊!私達に続いてる!!」

クロカ(エスコン) 『は…はい!』

アンカ(エスコン) 「行くよ!FOX2!!」

クロカ(エスコン) 『はい…!!FOX2!!』

バシユウ……! バシユウ……! バシユウ……! バシユウ……!

マザーリョウカ(エスコン)「我ら! マザーリョウカ隊の実力を思い知らせるぞ
! FOX 2 !!」

バシユウ……! バシユウ……!

マザーリョウカ(エスコン)「フハハハ……! 我らの力を見せてやるぞ! FOX
2 !!」

バシユウ……! バシユウ……!

【超航空兵器攻撃大隊】

アーセナルバード1(ジャスティス)「こちらジャスティス1! 攻撃実行! 大出

カレーザーキャノン！ファイア！」

キュイイイイイイン……！！！！

ビイイイイイ……！！！！

レヴィアタン1「こちらレヴィアタン1！ターゲット捕捉！グレネードラン
チャー！全弾発射！」

ドオオオオン……！！ドオオオオン……！！ドオオオオン……！！

ヒユウウ……！！

ビイイイイイ……！！

シュウウ……！！

チュドオオオオン……！！！！

【第2陣：攻撃完了：デストロイヤー】「中破」・曲撃「第2段階：パーフェクト」

【第3陣「最終攻撃」 攻撃開始・曲撃「フィナーレ」前半「開始」】

【神森大連盟艦隊：第2波】

リョウカ（幻想）「全艦！VLS解放！全ミサイル：ファイア……！！」
リョウカ（幻想）「てええ……！！」

バシユウ……！バシユウ……！バシユウ……！バシユウ……！

大石「我らの実力を思い知らせるぞ！主砲攻撃用意！」

参謀長「主砲攻撃準備完了！」

大石「てええ……！！！！」

ドオオオオン……！ドオオオオオン……！ドオオオオオン……！

【航空機攻撃師団大隊第3波~~と~~戦車師団大隊第2波】

戦車隊長2「全戦車隊！攻撃始め！」

ドオオオオン……！ドオオオオオン……！

バシユウ……！バシユウ……！バシユウ……！

リュウカ（エスコン）「こちら、インフィニティ隊！全機！俺に続け！」

バシユウ……！バシユウ……！バシユウ……！

ドドドドドドドドド！！

シユウウウ…!!

ヒユウウウ…!!

チュドオオオオン…!!

【デストロイアー「大破」・曲撃「フィナーレ」前半】…パーフェクト】

【第3陣「最終攻撃」攻撃開始・曲撃「フィナーレ」後編「開始」】

【航空機攻撃師団大隊…最終攻撃】

リョウカ(エスコン)「こちらゼロ隊! さあ! フィナーレを飾りますよ! 攻撃始め!」

バシユウ…! バシユウ…! バシユウ…!

ドドドドドドドドド…!!

カチ…！ヒュウウウ…!!

【戦車師団大隊：最終攻撃】

戦車隊隊長 3 「行くぞ！お前ら！最後を飾るぞ！神森魂を見せてやれえ!!」

ドオオオオン…！ドオオオオン…！

バシユウ…！バシユウ…！バシユウ…！

【神森大連盟国：拠点全砲台及び迎撃兵器「最終攻撃」】

リョウカ（艦娘）『行きますよ！ありったけの攻撃を実行!!』

リュウカ（艦娘）『全弾を撃ち尽くせ!!』

ドオオオオン……! ドオオオオン……! ドオオオオン……!

バシユバシユバシユバシユ……!!

カアオ……! カアオ……! カアオ……! カアオ……!

バアアアアン……! バアアアアン……! バアアアアン……!

ドドドドドドドド……!

【神森大連盟艦隊「最終攻撃」】

リョウカ(幻想)「……行きますよ……! 全艦! 一斉斉射!! その後全艦は、本艦の前方から回避せよ!!」

ドオオオオン……! ドオオオオオン……! ドオオオオオン……!

リョウカ(幻想)「決めるぞ! リョウカ……!」

リョウカ(幻想)「はい! ……ヤマトさん! 全リミッター解除! 霧化形態! 及び

ファイナルモード起動!!」

キユイイイイイン…!!ゴオオオオオオオ…!!

【曲撃…「フィナーレ」〔後編〕・ファイナルアタック開始】

リョウカ（幻想）「めぐみんさん！ウィズさん！カズマさん！お姉ちゃん！艦首にて…最大級の爆裂神魔法実行！」

リョウカ（幻想）「おう！合わせろ！お前ら！」

めぐみん「ええ！」

ウィズ「はい！」

カズマ「おう！」

リョウカ（幻想）「……もう、私は迷わない！私は…私なのだから…!!…本艦のエネルギー及び私の全エネルギーを…全て艦首内蔵の主砲に集中……はああああ……!!」

キュイイイイイン……!!ゴオオオオオオオ……!!

リユウカ(幻想)「行くぞ……!お前ら!俺達の……最強の絆の力……!見せてやる!!」
リユウカ&めぐみん&ウィズ&カズマ『我が最強の全身全霊の……絶対の最終合体
攻撃魔法……!!爆裂神!最上級魔法……!!』

キュイイイイイン……!!

リョウカ(幻想)「……私の……うん……!私達の……最大の攻撃……!受け取りなさい……
!ラストスペル……!!」

ガシャン……!ウィイイン……!ガコン……!キュイイイイイン……!!

リユウカ&めぐみん&ウィズ&カズマ『……【親愛なる……ファイナルマスター……!!
ゴットノヴァアア……!……!】』

キユイイイイイイン……！！！ ドツキユウウウン……！！！！

リョウカ（幻想）「……！！ 【親愛なる…超重力究極波動大和砲…！！】 発射アア

ア……！！！！」

キユイイイイイイン……！！ピキイイイイン……！！ピギヤアアアア……！！！！ ドツ
キユウウウン……！！

キイイイイイン……！！

ビイイイイイン……！！！！

ピキイイイイン……！！！！！！

ズドオオオオオオン……！！！！！！

【第3陣「最終攻撃」 攻撃完了・デストロイアー「撃破」・曲撃「フィナーレ」後編】…パーフェクト】

【全攻撃行程…完了・全曲撃行程…完了「全パーフェクト達成」】

【戦闘終了】

リュウカ(幻想)「…やったぞ…！俺達の勝利だぜ!!」

リョウカ(このすば)『お見事です…！みなさん…！！…100点満点です…!!』
全軍『おおおおおお…！！！！』

リュウカ(幻想)「…さて、作戦は大成功だ！んじゃあ、帰ろうか！」

カズマ「そうだな。」

ヤマト「あの…非常に申し上げにくいのですが…。」

リュウカ(幻想)「ん？どうしたヤマト？って、ヤマトが此処に居るって事は…
まさか…。」

ヤマト「はい…最終攻撃のトドメの一撃の際に…本艦の全権限と全システムがリョウカお嬢様に委ね増して…それで…あの攻撃と形態で、全エネルギーを使い切って…倒れました…更に本艦も完璧に戦闘能力と移動能力も喪失しました…」

リユウカ（幻想）「…はあ…やれやれ…またか、まあリョウカらしいって言えばリョウカらしいな…んじゃあ一旦艦橋に戻るぞ。」

それでリユウカ達は、艦橋に戻ると…そこにはヤマトの言う通りリョウカが床に倒れていた…

リユウカ（幻想）「おーい、リョウカ？大丈夫か？」

リョウカ（幻想）「……………すう……………すう……………」

リユウカ（幻想）「…疲れて眠ったか…。」

めぐみん「まあ、仕方ないと思いますよ…今回は本当に大変な日でしたからね…。」

リユウカ（幻想）「だな、おーいヤマト…すぐに艦隊を呼び寄せて本艦を牽引してもらう様に伝えてくれ。」

ヤマト「はい、分かりました。」

その後、リョウカ達は無事に作戦は成功を収め…拠点に帰投した…

2日後…

リョウカ(幻想)「おーい、リョウカ…調子はどうだ?」

リョウカ(幻想)「うーん…やっぱり力出ませんね…私の能力でエネルギー量を無限にしているのに…一瞬で完全に枯渇しちゃいますね…。」

リョウカ(幻想)「まあ、お前の場合は…大部分の技や攻撃が膨大なエネルギーを消費するし…行動するだけでも膨大なエネルギーを使う…まあ常に膨大なエネルギーが垂れ流し状態の体質の故だな…だから確かに回復力では優ってはいるが…それでも常にエネルギーが垂れ流し状態且つそもそも物凄く身体の弱い事且つ常に能力発動状態でのエネルギー消費…それらが原因で…優ってはいるが…消費量がエグツなく多い所為で…エネルギー回復力が本領を発揮出来ないって感じだな…。」

リヨウカ(幻想)「…そうですか…。」

リユウカ(幻想)「ああ、あの作戦の後…一応念には念をいれて検査をして初めて知った…だから正直今まで気付けなくてすまん…。」

リヨウカ(幻想)「ううん、大丈夫だよ…っ…けほ…けほ…。」

リユウカ(幻想)「まあ、取り敢えずはしばらくは休んでた方が良い…。」

リヨウカ(幻想)「…分かりました…。」

リユウカ(幻想)「そんじゃあ、また来るな…。」

更に1週間後…

兵士隊長1「お嬢様、あの作戦での報告書が出来ました。」

リユウカ(幻想)「ん？ああ、有り難な。」

アヤカ(幻想)「さて、どんなか…：な…？」

リヨクヨウ(幻想)「…：…え？」

リユウカ&リヨクヨウ&アヤカ『ええええええええ…！！？』

リョウカ達が報告書を見て驚いたのは…

【神森大連盟軍曲作戦：報告書】

【作戦費用】

建造費及び改造費 [約 9 0 0 0 垓円]

出撃費 [約 5 0 0 0 京円]

弾薬費 [約 9 9 9 9 無量大数円]

報酬費 [約 9 9 9 9 無量大数円]

修理費 [7 0 0 0 垓円]

以下略

総合費用額 【計測不能】

……以上の報告だ…

アヤカ(幻想)「はあ……やれやれ……リョウカちゃんを復活出来たなら……これ位……これ……位……安い物よ。」

リョウカ(幻想)「……手伝おっか？」

リョクヨウ(幻想)「だ……大丈夫ですよ……！私達に任せなさい……！」

リョウカ(幻想)「お……おう……。」

そして、リョクヨウとアヤカが何とか全額支払い……そのまた1週間後にリョウカが本当の意味で復活した…

リョウカ(幻想)「復活です……！……このセリフを言うの……何回目ですかね……。」

リョウカ(幻想)「さあな……まあ取り敢えず……リョウカ……復活おめでとう。」

リョウカ(幻想)「はい、有り難うございます……お姉ちゃん……これから……末永く

よろしくお願いしますね…。」

リョウカ(幻想)「……………！おう…これからよろしくな…リョウカ…。」

リョウカは完全復活を遂げた…がそれで旅は終わりって言う訳では当然ない…
リョウカ達の旅は続く…

【その 9 …完】

その10 リョウカとリュウカの娘達の日常生活

…例の曲撃作戦から…約数ヶ月後…リョウカ達は取り敢えず平和の日常生活を送っていた…

今回は、そのリョウカとリュウカ達の娘達のお話しである…

リュウカ（幻想）「んじゃあ、行つて来るぞ。」

リョウカ（幻想）「それじゃあ…元気に…良い子で留守番しててね…もし何かあったら…みなさんが助けてくれる筈ですよ、後…もしどうしようもない時は…助けを呼んでみて…絶対に助けてあげますから。」

オウカ（幻想）「はい！お母さん！」

レイカ「頑張つてねー！お母さんにお父さん！」

ユウカ「絶対に…帰つて来てね！」

ハナカ「行つてらっしゃい！お母さん！お父さん！」

リヨウカ（幻想）「はい！行ってきますね！……それじゃあ、後は頼みましたよ……みなさん。」

リヨウカ（このすば）「勿論ですよ、任せて下さい！」

リユウカ（このすば）「おう！安心になって！」

リユウカ（幻想）「そっか、後赤ちゃんの世話も有るから……大変だと思うが頑張れよ。」

カズマ「おう。」

紫「ええ、気をつけて下さいね……お師匠様。」

そして本体のリヨウカとリユウカは仕事に出掛けた……因みに、今回リヨウカとリユウカの仕事は……この世界線（このすば）で……王都にて会議に参加する事になっている……リヨウカとリユウカは、本国の代表なので必然的に参加する事になっている……まあどんなに遅くても夜までには戻れるとの事らしい……

オウカ（幻想）「さて、何して遊びますか？」

ユウカ「うーんとね…あ！アマカちゃん達の世話しないと…！」

オウカ（幻想）「そうですね、それじゃあ行こっか！」

娘達全員『はーい！』

娘達4人は、アマカ達の所に向かった…

さてだが…現段階での…娘達の年齢についてだが…

オウカ【5歳】

レイカ&ユウカ&ハナカ【4歳】

アマカ&チカ&ムバナ&レバナ【1歳と9ヶ月】

…っと言う感じだ…オウカとレイカ達3人は1歳の差だが…そのレイカ達とアマカ達とは2〜3歳以上の差がある…が、アマカ達はまだまだ赤ちゃんだが…

因みに…リョウカの場合は、6～7歳だ…が精神年齢的に言えば…リョウカより歳下…12～14歳位は有る…

アマカ「あ～う～…。」

チカ「えへへ…。」

ムバナ&レバナ『…すう…すう…。』

オウカ(幻想)「ふふふ、元気そうですね。」

アクア「可愛いですね、この子達…。」

リョウカ(このすば)「抱いてみますか？」

めぐみん「良いのですか？」

リュウカ(このすば)「ああ、良いぜ。」

カズマ「それじゃあ、お言葉に甘えるぜ…えーっと…んじゃあこの子。」

アマカ「あう～…。」

カズマは、アマカを抱き上げた…

めぐみん「それじゃあ私は、この子ですね。」

チカ「えへへ…ぶうう…。」

めぐみんは、チカを抱き上げた…

ダクネス「なら、私はこの子だな…。」

レバナ「あう…。」

ダクネスは、レバナを抱き上げた…

アクア「じゃあ、私はこの子って事かな？」

ムバナ「あう…えぐ…。」

アクアは、残ったムバナを抱き上げた…が…

アクア「……え？」

ムバナ「あーっ…!!うあーっ…!!」

アクアがムバナを抱き上げた途端にムバナが大泣きし始めた…

アクア「何でよお…!?!? 何で泣きだしたのお…!?!」

リョウカ（このすば）「あゝ…、アクアさん…その子を私に。」

アクア「え…あ…うん。」

アクアは、ムバナをリョウカに返した…

リョウカ（このすば）「よしよし…大丈夫ですよ…ほら…私ですよ…。」

ムバナ「えぐ…あう……。」

リョウカ（このすば）「んゝ…おいアクア…一応聞くが…まさかこの世界線で厄介

事してないだろうな？」

アクア「え？あ…何も厄介事してないわよ…！」

リュウカ（このすば）「…さととり、アクアの心を見てくれ。」

さととり「ええ、良いわよ。」

アクア「だから…私は何もしてないわ！」

さととり「……はあ…この人…【シュワシュワやら宴会やらにお金使い過ぎたらしいわ。】」

アクア「…あ。」

ギチギチ…！

カズマ「…お前馬鹿か!? そりゃあムバナだって泣くわ…!!」

アクア「いたいわよお…!! カズマさあん…!! ごめんってばあ…!!」

ムバナ「えへへ…。」

オウカ（幻想）「あはは…!! コントみたい!!」

リュウカ(このすば)「…ある意味で娘達に人気だな…こう言うコントの展開…。」
 紫「そうですね…。」

取り敢えず楽しそうに会話をしていると…

リュウコ(幻想)「ああ!? てめえ、今何て言った!?」

リュウキ(幻想)「あ!? テメエは…【碌でもないトリガーハッピー脳筋野郎】って言ったんだよ!!」

リュウコ(幻想)「んだとお…!? テメエこそ…【碌でもない特攻脳筋野郎】だろうが!?」

リュウキ(幻想)「なにぃ…!? やんのかゴラァ!?」

リュウコ(幻想)「テメエこそやんのかゴラァ!? ああ!?」

リュウキ&リュウコ『……………』

リュウコ(幻想)「上等だぁ…!…!…! 今度こそハチの巣にしてぶっ殺してやる!!」

「

リュウキ(幻想)「ああ!?俺はテメエを木っ端微塵にまで切り刻んで殺してやるよお…!!」

どうやら部屋の外でリュウコとリュウキが鉢合わせて…一触即発からの戦闘に入りかけていた…

アマカ&チカ&レバナ&ムバナ『えぐ…あーっ…!!うあー…!?!?!?』

その2人が喧嘩騒動の所為でアマカ達が盛大に泣き出してしまった…すると…

リュウカ(このすば)「…紫さん、この子を頼みますよ。」

紫「…あ…は…はい…。」

リュウカは、ムバナを紫に預けて…

リョウカ（このすば）「…はあ……。」

リョウカは、溜息をすると…

ギチギチ…!!ゴオオオオオオオ…!!

全員（アマカ達及びリュウコとリュウキ除く）『……………!!?!?』

リョウカは、その場で大人化「巨漢化（通称：ゴンさん化）を発動して…

リョウカさん「……………」。

ッダ…!

リョウカさん「……………最初は…ゲー…!!」

キユイイイイイン…!!

リョウカさん「ジャン…ケン…！パー…!!」

ポオオピイイ…!!

リュウコ~~✂~~リュウキ『……あ？』

デデーン…!!

リョウカの怒りのジャジャン拳が…リュウコとリュウキをシバいた…

…数分後…

元の姿に戻ったリョウカと…その場で正座をしている問題児のリュウコとリュウ

キが部屋にてリヨウカの説教に遭っていた…

リヨウカ（このすば）「…で？何か言う事は有りますか？…え？」

リユウコ（リユウキ）『本当にすみませんでした…俺達が調子に乗ってました。』

リヨウカ（このすば）「…で？」

リユウコ（リユウキ）『だからお許し下さい…。』

リヨウカ（このすば）「…はあ…じゃあ良いですよ…でもね…またこの子達の前でやったら…分かるね？」

リユウキ（リユウコ）『はい…!!』

リヨウカ（このすば）「分かれば宜しいですよ…それじゃあ御使いに行つて来て下さい…この子達専用のミルクを切らしてましてね…取り敢えず一ヵ月分お願いね。」

リユウコ（幻想）「え？何で俺達が？…しかもよりによつて…コイツと？」

リヨウカ（このすば）「…私達はこの子達の世話で忙しいです…それに下手に離れたらどうなるか分かりませんし…それに、この機を機会に…仲を深めるのもありますと思うよ？」

リュウキ(幻想)「はぁ!?俺達が!?」

リョウカ(このすば)「……………」。

リュウキ(幻想)「分かった…!分かったから!無言で、詠唱無しのスぺルは止めろ…!!」

リョウカ(このすば)「じゃあ、頼みましたよ?……良いですね?」

リュウキ&リュウコ『はい…!!直ぐに行ってまいります…!!』

そしてリュウキとリュウコは逃げ出す様に買い物に出掛けた…

リュウカ(このすば)「…うん…怖いな。」

カズマ「そ…そうだな…。」

めぐみん「…リョウカちゃん…優しい人程怒ると物凄く怖いって言うのが良く分かりました…。」

リョウカ(このすば)「……?どうしましたか?」

リュウカ(このすば)「いや…何でもない…。」

リョウカ（このすば）「そうですか…あ…それよりも、あの子達は大丈夫？」

アカア「え？…え…ええ…大丈夫ですよ？」

リョウカ（このすば）「ああ、何とか泣き止んだ…。」

リョウカ（このすば）「そうですか…なら良かったです…。」

取り敢えずは、リョウカ達は安心していた…が…

兵士隊長 1 「ほ…報告です…!!」

リョウカ（このすば）「どうしましたか？」

兵士隊長 1 「は！実は…リョウコお嬢様と…リョウキお嬢様が…街中で喧嘩が始まってしまいました…被害も出てます…。」

リョウカ（このすば）「…………。」

リョウカ（このすば）「…あの馬鹿供…！何をやってる…!!」

リョウカ（このすば）「…………お姉ちゃん。」

リョウカ（このすば）「…………!!？　な…何でしょうか…？」

リヨウカ（このすば）「……少し出掛けて来ます…私が戻るまで頼みましたよ？」

リュウカ（このすば）「は……はい……!!」

めぐみん「……。怖い……」

カズマ「……。(うわー…目が殺る気だな……。ってか怖えーよ…!!)」

そしてリョウカは、殺気立ちながら出掛けて行った。そしてリュウカ達は悟った。あの2人。リョウカに徹底的にしばかれるだろうと。リュウカ達は静かに心の中で合掌した。

数十分後……

リョウカ（このすば）「ただいまです！」

リュウカ（このすば）「お！戻った……か？……どうしたの……それ？」

リュウコ&リュウキ『……あ……あ……。』

リュウカ達は絶句していた…何故なら…晴れやかな笑顔だが…所々大量の返り血で染まったりヨウカの姿と…最早リュウコ及びリュウキなのかどうか怪しいレベルまでって言うよりも…見せる事が出来ないレベルまで…やられた姿の2人がそこに居た…

リョウカ(このすば)「はい、お姉ちゃん…あの子達のミルクですよ。」

リュウカ(このすば)「お…おう…それよりも…どうしたんだ？」

リョウカ(このすば)「ん？ちょっと出掛けた際にね…2人に…『汚・破・亡・死』ただけですよ？あ…一応被害が有った所に謝罪や…弁償もして来ました。」

リュウカ(このすば)「なるほど…。」

リュウコ(幻想)「た…つけ…て…くれえ…。」

リュウキ(幻想)「し…んじゃ…う…。」

リョウカ(このすば)「…リュウキさん…リュウコさん…後の事は任せましたよ。」

リョウキ(幻想)「ええ…やれやれ…全く世話の掛かるお姉ちゃんですね？」

リヨウコ（幻想）「…うん…全く……お姉ちゃん…流石にどうかと思いますけど？」

リユウキ（幻想）「うるへえやい…くそ……いてえ……」

リユウコ（幻想）「あゝ…クッソ……いてえ……」

リヨウキ&リヨウコ『…はあ…お互い困ったお姉ちゃんです…』

そして、2人は妹達に連れて行かれた…

リユウカ（このすば）「…でリヨウカ…お前はさっさと風呂入って着替えて来い…」

リヨウカ（このすば）「そうですね…流石にこれは見せれないですしね…」

リュウカ（このすば）「んじゃあ行って来い。」

リヨウカ（このすば）「うん、行って来るね。」

それでリヨウカは、風呂に入って行った…

一方で…オウカ達は…

オウカ(幻想)「ん？あ、こんにちは…【ヒトラーさん】」

ハナカ「あ！ヒトラーおじいちゃんだ！」

ユウカ「こんにちは、ヒトラーおじいちゃん。」

レイカ「どうもです！ヒトラーお爺さん！」

ヒトラー「む？これはこれは…お嬢様の娘さん達ではないか…礼儀が良くて嬉しいぞ。」

実はだが、この日たまたま全国のトップの連中が来ていた…まあ仕事関連だが…それでオウカ達がたまたまヒトラーと遭遇した…

オウカ(幻想)「あの…ヒトラーさん…前々から聞きたい事が有るのですが…。」
ヒトラー「む？何かね？」

オウカ(幻想)「うん、たまたまヒトラーさんのお連れの人達が話していたのを聞いて…多分ヒトラーさん…貴方の事を言っていたと思います…。」

ヒトラー「……詳しく教えてくれぬか？」

ハナカ「うん！あのね、え〜つと…姿は見えなかったけどね…ゲーリングおじいちゃんね…【ナチスの船はボール紙並に脆い】って言ってたけど、ヒトラーおじいちゃん？それってどう言う意味なの〜？」

ヒトラー「……………お嬢ちゃん…教えてくれて有難う…しかし君達が知るにはちと早い…もう少し大人になったら分かる事だ…すまぬが急用を思い出したから失礼するぞ。」

オウカ（幻想）「うん、お元気で。」

ハナカ「バイバイ！ヒトラーおじいちゃん！」

レイカ「また来てね〜！」

ユウカ「またね！」

そしてヒトラーは、スタスタと早歩きで何処かに行った…その後だが…屋敷内にて、ヒトラーがゲーリングに激怒して説教している姿が見えたそうだが…自業自得と言うのはこう言う事である…

数時間後…アマカ達にとってはお昼寝の時間帯だ…

リョウカ（このすば）「それじゃあお寝んねしようね〜。」

アマカ「あう〜…。」

チカ「すう……すう……。」

レバナ「…すう…すう…。」

ムバナ「えへへ…。」

リョウカ（このすば）「…ふふふ…それじゃあお休みなさい…元気に育ってね…。」

リョウカは、アマカ達を寝かせた……そんな時……

ビィィィ…！ビィィィ…！

『緊急事態発生！緊急事態発生！本国に侵入者確認！！全軍戦闘配備！』

ビィィィ……！ビィィィ……！

レバナ&ムバナ&チカ&アマカ『あーっ……!!うわー……!……? びあああ……!……?』
 リョウカ(このすば)「あゝ……!?よしよし……怖くない……怖くない……絶対に大丈夫だからね……」

リュウカ(このすば)「おい！リョウカ！大丈夫か!?!」

リョウカ(このすば)「ええ、大丈夫ですよ……さてと……侵入者って言うのは誰か知りたいですね……」

リュウカ(このすば)「辞めとけ……それよりも娘達を頼むぞ。」

リョウカ(このすば)「うん、任せて!」

そしてリュウカは、侵入者の排撃に向かって行った……

オウカ(幻想)「お母さん……!」

ユウカ「お母さん…怖いよ…。」

レイカ「大丈夫…だよね…？」

ハナカ「…怖い…よお…。」

リョウカ（このすば）「……大丈夫…大丈夫だから…私達と一緒に居ようね…。」

オウカ（幻想）「……うん……。」

更に数分後…未だに侵入者の排除どころか…発見さえ出来なかった……が……侵入者の方は…

？「ふん…馬鹿供め…ここまで来れば大丈夫だ…さて…お宝は何処かな？」

そう…堂々とリョウカ達の家に侵入して来た……もう一度言うが、リョウカ達の家には堂々と侵入して来たのだ…（おいコラ警備仕事しろ…！）

因みにこの侵入者の武装は、ナイフ一本だけ…まあ強盗あるある装備だ…が…幾らなんでも相手が悪すぎではないのか？と言うのは無しだ…何せここまで侵入し

て来たのだから…

ゴソゴソ…ガサゴソ…

リョウカ（このすば）「……………！！？………良いね…絶対に私の側に居てね…大丈夫…大丈夫だから……………」

リョウカは部屋のすぐ側に何かを物色している音がして…リョウカは戦闘体制に入った…更には娘達を守る様に…リョウカは娘達を後ろにやった…

バアアアン…！バアアアン…！

突然部屋の外で銃声が響き渡った…

リョウカ（このすば）「……………っ…！！（……………来るなら…来なさい…！絶対に…絶対に

に……！娘達は……守る……！命に代えても……！）」

ガチャリ……！！

そして、部屋の扉が開き……そこに入って来たのは……

？「大丈夫ですか……！？みなさん……！？」

？「大丈夫か……！？お前ら……！？」

リョウカ（このすば）「……！！リョウカ……さん……！お姉ちゃん……！！どうして……此処に……！？」

どうやら……本体のリョウカ達が帰って来た様だ……

リョウカ（幻想）「……私達の所に侵入者が入って来たって報告が届いてね……だから無理矢理にでも会議を終わらせて……私達的能力でレポートで帰って来ました……。」

リュウカ（幻想）「で…その侵入者って言うのは…コイツだな？」

ドサッ：

リュウカは、侵入者であろう存在を見せつけた…どうやら…既に射殺された後の様だ…

リョウカ（このすば）「お姉ちゃん…今娘達が居るから…それを見せたら駄目…！」

「

リュウカ（幻想）「おっと！す…すまん…！まあ良い…おい！」

兵士隊長1「は！」

リュウカ（幻想）「この侵入者を処分しろ…大至急だ…。」

兵士隊長1「は！…おい！手伝え！」

兵士1「了解！」

兵士2「は！」

兵士達は、その侵入者の死体を処分する為に持って行った…

リョウカ（このすば）「…………ごめんなさい…私達の不甲斐ないばかりに…貴女達に迷惑掛けちゃった…。」

リョウカ（幻想）「気にしないで下さいよ、無事で何よりです。」

リョウカ（幻想）「おうおう、気にするな…まあアイリスが物凄く心配してたがな…。」

リョウカ（このすば）「じゃあ…今度お詫びに何か作って送ろうかな…。」

リョウカ（幻想）「いや…実はだが…その…。」

？「だ…大丈夫!？」

リョウカ（このすば）「…！アイリスさん！どうして此処に!？」

リョウカ（幻想）「実は、連れて行って欲しいって頼まれてね…だから断る事も出来ないの…連れて来ました…。」

リョウカ（幻想）「やれやれ…俺達に劣らず勇敢だって思った…仮にも一国のトッ

プに君臨してる者だろうにな……まあ俺達の場合はそれ以上の存在の癖して堂々と戦場に出張るからな……」

アイリス「……それよりも、貴女達の娘達は大丈夫でしようか？」

オウカ(幻想)「……大丈夫ですよ、みんな無事です！」

ハナカ「お母さん……！怖かったよ……！」

レイカ「うう……！」

ユウカ「お母さん……！あーっ……!!」

リョウカ(幻想)「あ……よしよし……怖かったよね……もう大丈夫だから……それと……本当にごめんね……私達が居なかったから……怖い目に遭わせちゃった……ごめんなさい………」

リュウカ(このすば)「はあ……！はあ……！おーい……！さっき銃声が……ってお前ら!? いつの間に戻ってたのか!?」

リュウカ(幻想)「馬鹿者！お前リョウカの元離れてどうする!? 今まで何処に居た!?」

リュウカ(このすば)「す……すまん！ずっと侵入者を探してた……んでさっき銃声

が聞こえて急いで戻って来た……」

リュウカ(幻想)「はあ、あのなあ……あの銃声は俺だ……俺がお前らが言う侵入者……て奴を射殺したんだよ……んで、奴が持っていた凶器はこのナイフ一本だ……」

リュウカ(このすば)「……ふうん……随分と使い込まれてるな……まあ……斬れ味はまあ悪くはないが……凄いとはいえんな……が対人戦においては充分以上の威力だな……ん？このナイフ……即効性の強力な毒塗らねてるな……切られた奴はこの即効性のある意味で即死に近い毒でお亡くなりになる……って訳か……」

リュウカ(このすば)「……危なかったですね……」

リュウカ(幻想)「ああ、俺達が来なかったら……お前らは……いやギリギリ、リュウカは危ねえか……リュウカがやられた上に……娘達も……死んじまう羽目になってただろうな……考えただけで恐ろしい……」

リュウカ(幻想)「……でも……本当に無事で良かったです……それだけでも本当に……嬉しいです……!」

オウカ(幻想)「……うん……!」

リュウカ(幻想)「……取り敢えず分かった事があるな……俺達が外に出れば警備が手

薄になり兼ねないのが分かった…なあアイリス。」

アイリス「ん？」

リュウカ(幻想)「本当に悪いと思うが…大事な会議は…俺達が必要な場合は、この本国…まあ正確にはこの家で行なって欲しいと思うが…。」

アイリス「…分かりました…確かに今回は私達が悪かったですね…今後貴女達が必要な場合は此処で行いますね…。」

リュウカ(幻想)「ありがとうございます…。」

アイリス「ついでに冒険者の方にも私達の会議の際に護衛任務として以来を要請させますね…。」

リュウカ(このすば)「何から何まですまん…。」

アイリス「ううん、これくらい当然ですよ！」

リュウカ(このすば)「所で…前々から思ったんだが…結局会議…内容はどんなんだ？」

リュウカ(幻想)「あ…そうだな、実はな…俺達が会議に参加したのはな本国の防衛能力の強化の為に…あのアルカンレティアの時同様に本国と同じ拠点を設置す

る計画を話していた…んでその結果を聞く前にこの緊急事態が起きた訳だ…。」

リヨウカ（このすば）「あ…すみませんでした…。」

リヨウカ（幻想）「まあ…大丈夫ですよ…後で幾らでもどうにかかりますし…でも命は大切だから…こっちを優先しただけです…。」

アイリス「…取り敢えず無事が判明して良かったですね…。」

リヨウカ（幻想）「うん、さてと…どうしましょうか…。」

アイリス「まあ…会議の件は後日に私達の独自の判断で決めますね…もし決まったら、報告しに行きますね。」

リヨウカ（幻想）「ありがとうございます…。」

アイリス「…それじゃあ、お元気でね！」

リヨウカ（幻想）「はい！あ…送って行きますよ。」

アイリス「はい、お願いしますね。」

そして、王都の王女のアイリスはリヨウカ的能力でレポートで帰って行った…その後だが、あの侵入者騒ぎでより一層…警備が厳重になったそうだ…しかも、対

人砲台や対人迎撃兵器っと言う…新しい種類の砲台系や迎撃兵器系が造設及び大量量産して…配備した…しかも性能や種類は通常の要塞砲台系や迎撃要塞兵器系と変わらない…いや…正確には、対人戦に特化したバージョン…っと言った所だが…まあ何にせよ…普通の人間ならばオーバークイル以上の威力だがな…まあそんな感じだ…

…一週間後…

…一応説明すると…例の拠点増設の件は…承諾された…しかも王都だからか、拠点を二つも設置した…(いや需要大丈夫なんか…?…ってか…そもそも王都は超人揃いだろ?…何てツツコムのは無しだ…)…因みに、王都からアクセル街までの距離があり過ぎる為か…中継ポイントの役目としての拠点も増設した…その他にも…全拠点を宇宙に出たとしても問題ない様な設備や武装に大改装を行なったり…その他色々行った…

リョウカ(幻想)「ふ…疲れましたね…。」

リュウカ(幻想)「やれやれだな……」

オウカ(幻想)「お疲れ様です！お母さんにお父さん！」

リュウカ(幻想)「うん、ありがとうね……」

リュウカ(幻想)「そうだ、たまには娘達を連れてどっかに旅行にでも行くか？」

リュウカ(幻想)「それは良いですね！」

オウカ(幻想)「旅行ですか！」

リュウカ(幻想)「うん、それじゃあみなさん！旅行の準備をしましょう！」

全員『おー！』

リュウカ達は、今日も平和で……何事も無い一日……何度でも言うが、まだまだ完全な平和への道は険しい……時には娘達にも危険が及ぶかもしれない……しかしリュウカ達は絶対に誰一人としても犠牲者は出さず……娘達も守ってみせる……だからこそ、リュウカ達一行の旅はまだまだ続く……そして……リュウカとリュウカの娘達にも平和で居て欲しいと願う……この素晴らしき神森一家に祝福を……

【
そ
の
10
完
】

その11 神森大連盟国…リョウカの故郷へ…

……リョウカ達一行は、後世世界線から直接ジョイ達の日頃の成果によって探し当てたりョウカの本当の世界線にやって来た…一応念には念を…もしもの時に備えて、全ての護衛国家及び全拠点には…最大限の警戒態勢を敷くように命令した…

リョウカ(幻想)「さて…着いたが…。」

リョウカ(幻想)「……………やっぱり…昔のままだね…。」

めぐみん「此処がリョウカちゃんの本当の故郷となった世界線ですか……………なんと言うか……………寂しい所ですね…。」

リョウカ(幻想)「……………ああ……………大昔にあんな異変が起きなければ本当はもっと良い所だったんだがな…………。」

リョウカ(幻想)「……………。」

シオリ「ま…まあ…取り敢えず、リョウカちゃん…昔に住んでいた家を探そっか？」

リヨウカ（幻想）「そうだね……一応この世界線に來た時から僅かに懐かしい感じがしますから……それを辿って行けば辿り着ける筈です……。」

リユウカ（幻想）「分かった……まあ一応何か有ったら不味いから全軍も呼び寄せておくか……。」

そしてそんなこんなで……2時間後……出撃準備が整い……

リユウカ（幻想）「んじゃあ、出発だ！」

リヨウカ（幻想）「はい！」

【神森大連盟軍：出撃】

出発から30分後……

ゴオオオオオオオ……!!

…現在リョウカ達を乗せた神森大和は、リョウカとその場所から感じる物を頼りに飛行していた…無論他の艦隊も同様に続いている…

リョウカ（幻想）「……やっぱり、昔以上に空が閉ざしているな…。」

リョウカ（幻想）「……それに、地上も…大部分の自然が枯れていたり…所々に点在している海も荒れてますね……。」

カズマ「……正に邪神化した世界線…って所か……言いたくねえが…。」

リョウカ（幻想）「……そうだな……で、リョウカ…どんなだ？」

リョウカ（幻想）「うゝん……まだですね…このままの速度で行けば…直線距離で…後2時間は掛かりますね。」

リョウカ（幻想）「そうか…このままの速度及びこのルートのまままで2時間だな？」

リョウカ（幻想）「そうです…。」

リョウカ（幻想）「じゃあ少し速度上げるか、ヤマト…速度を上げてくれ…全艦に

も同様の事を伝えてくれ。」

ヤマト「了解です、大和！第三全速！」

キイイイイイン…!!ゴオオオオオオオオオ…!!

リュウカの命令で、更に速度を上げた艦隊…

そして1時間後…

リュウカ(幻想)「……!!止めて下さい！ヤマトさん！」

ヤマト「了解です！全艦！停止！」

キイイイイイン…シユウウウ…

リュウカ(幻想)「…着いたのか？」

リョウカ（幻想）「はい…えーっと……あそこですね……とりあえず、地上に降りましよう…みなさん、装甲列車にて地上に降りよう。」

リョウカ（幻想）「分かった。」

ヤマト「では我々は、もしもの時に備えて上空に待機していますね…お気をつけて下さい、お嬢様。」

リョウカ（幻想）「はい。」

更に10分後…

ガッシャン…ガッシャン…キイイイ…プシュウウ…！

リョウカ達一行を乗せた装甲列車のカミモリヤマトは、家の前に停車した…しかし門が閉ざしていた…

リョウカ（幻想）「……………」

リュウカ(幻想)「…………懐かしい門だな…これ…。」

リュウカ(幻想)「うん…取り敢えず、開けてみますか…。」

リュウカ(幻想)「おう…。」

カズマ「んじゃあ、手伝うぜ。」

美鬼「それじゃあ私も。」

とりあえず、リュウカ達は門を開ける事にした…(列車から既に全員降りた…)

リュウカ(幻想)「それじゃあ、せーの…!」

リュウカ(幻想)「ふんぬう…!!」

ゴゴゴゴゴ…!! ギイイイ…!! ガッシャアアン…!!

リュウカ達は、力を合わせて…何とか門を押し開けた…

リュウカ(幻想)「ふー、ったく…堅い門だったな…。」

リョウカ(幻想)「そうですね、大分時間が経ったから錆び付いて…堅くなったかも。」

シオリ「そうなんだ…。」

リョウカ(幻想)「……さて……。」

リュウカ(幻想)「………帰って来たんだな…お前の昔の家に……。」

リョウカ(幻想)「………うん……。」

門を開けたその先には…何時も住んでいる家より半分程小さく…このすばの世界線に出て来る最終的にカズマ達が住んでいた屋敷が奥にひっそりと…寂しく未だに立っていた…が外傷が多く…所々が大昔に戦争した後なのか…大きな亀裂が入ったり…返り血の後らしく…茶色く変色した汚れもびっしりと有ったりもした…

めぐみん「………此処がリョウカちゃんの昔の家ですか……形状的に私達が使っていた屋敷に似てますけど………やっぱり酷いですね……。」

美鬼「……そりゃあ……大戦争の戦場だったからね……これ位で済んで寧ろ運が
良い方だよ……でも……長い時を放置されてるのに……良く立ってるね……。」

アヤカ(幻想)「……一応、シェルター並みの強度は有るからね……一応……。」

リュウカ(幻想)「まあ、取り敢えず入ろうぜ？」

カズマ「そうだな。」

そしてリュウカ達は玄関前に来た……

ザーツ……!!

リュウカ(幻想)「……っ……!!」

リュウカ(幻想)「………リュウカ？」

ザーツ……!

リョウカ(幻想)「……………っ。。」

リョウカは、玄関を開けようとしたが…自身の大昔の記憶の所為で開けようにも…恐怖心の所為で開けなかった…

リョウカ(幻想)「…………リョウカ…大丈夫か？」

リョウカ(幻想)「…………何で…かな…開けようって…思ってるのに…………私…やっぱり怖い…………自分が大昔にやってしまった事を…思い出したら…………怖くて…………とても…………」

リョウカ(幻想)「…………そっか…………やっぱそうだよな…………確かに幾ら過去を気にするなって言っても…あの過去の戦争…………幾ら何でも気にするなって言っても気にしないのは無理があり過ぎる事情だ…………しかも当時のお前は…………本当に精神的に幼い女の子当然だし…………それで大暴走してこの世界線そのものを結果的に滅ぼしてしまった…………まああくまでもこの世界線だけで留まったのが良かったが……………がだ…………お前にとっては最大級のトラウマみたいな結果を残してしまった……………んでそ

れが蘇ってしまった……と言う訳か……。」

全員『……………』

リュウカの言葉でリョウカの事情が本当に理解出来てしまう程に残酷な過去……それ故に同情してしまう程にリョウカは不幸で……悲劇な人生を送って来た……だから全員は同情する様な目でリョウカを見て……少し重い空気になった……

リュウカ(幻想)「……………リョウカ……………」

リョウカ(幻想)「……………」

リュウカ(幻想)「……………大丈夫……大丈夫だって……今と昔……昔と比べたら、俺達は本当に大昔以上に強大の存在だぜ？なに……今まで数々の蘇って来た最高邪神共を……俺達の手で倒して来ただろ？……………な……？……………だからゆっくりで良い……自分のペースで玄関を開けて……そしてゆっくりで良い……昔の家の中を……見て回ろう……。」

リョウカ(幻想)「……………うん……ありがとう……お姉ちゃん……。」

リユウカ（幻想）「へ…良いって事だ…。」

リョウカ（幻想）「……………それじゃあ…開けるね…………。」

ガチャリ…！ギイイ…！バタン…！

全員『……………!!』

リョウカが玄関を開けて…その中を見て…絶句した…何故なら、外があれだけ酷いなら…当然、中はそれ以上に酷く…凄惨な状況だった…所々に、大量の血らしき汚れが変色し…茶色く染まっていたり…大量の白骨化した遺体…更に至る所が亀裂が入って…倒壊してないのが不思議な位だった…

リョウカ（幻想）「……………!?う……………う……………!?」

リユウカ（幻想）「リョウカ…!?」

リョウカ（幻想）「…うおえええ…!!!!」

ビチャア…

リュウカ（幻想）「おい…！しっかりと…！！」

めぐみん「リュウカちゃん…！！大丈夫ですか…!?」

リュウカ（幻想）「はあ…！はあ…！……だ……大丈夫……です……。」

ドサ…！

家の現状に精神的に着いてこれず…嘔吐した後…完全に気を失ってしまった…

めぐみん「リュウカちゃん…！リュウカちゃん…！」

リュウカ（幻想）「……やっぱ無謀だったか……ここまで酷いと…リュウカが倒れてしまっても不思議じゃないな……仕方ない……。」

めぐみん「どうにかならないのですか…？このままじゃあ…幾ら何でも…せつ

かくの…本当の意味でのリョウカちゃんの家や…リョウカちゃんが可哀想ですよ…
！」

リウウカ(幻想)「そうだな…んじゃあ、此処いら一帯を…完全に復活させるか…つて言うか…今の俺らなら、滅んだ世界線を蘇らせる事位容易い事だから…まあその前に…俺らの拠点をこの家の近くに寄せるか…話はそれからだ。」

その後、リウウカの無線で拠点に連絡が届き…拠点及び護衛国家全てが実家近く…装甲列車のカミモリヤマトが停車していた場所のすぐ側らへんにテレポートしたのだ…それで…一旦リョウカを、拠点に戻して部屋に寝かせて…リウウカ達がこの世界線諸共復活させるべく…作戦会議をしていた…

リウウカ(ハンター)「で?どうやって復活させるんだ?」

リウウカ(忍者)「言っとくが、下手なやり方すれば…大昔に襲って来ただろう敵も現れて厄介になるぞ?」

リウウカ(このすば)「それだけでなく…この世界線に居る敵共も復活して…襲っ

て来るか…又はこの世界線が完璧に消滅するかのどれかになるしな…。」

リュウカ（幻想）「だからこそその作戦会議だろ？」

リュウカ（このすば）「うーん…作戦ね…私も分身だけど、私自身だから理解出来ますね……。」

リュウカ（ハンター）「うん…ねえ…助けてあげられないの？」

リュウカ（幻想）「そうだな…確かに今の俺らなら造作も無い事だが…難儀だな…そもそも規模が巨大だ…下手にやれば敵が復活して襲って来る…かと言って見捨てるのも論外…する位なら死んだ方がマシだ。」

リュウカ（忍者）「馬鹿もん！死んだら今のリュウカにとっては精神崩壊でジ・エンドだぞ！」

リュウカ（このすば）「左様！今のリュウカにとってはお前は最大級の存在だ…もし死んでしまえば…もうリュウカに一生心は元には戻らず…二度と誰も信用しなくなり…全ての世界線を破壊しまくる最強災厄の終焉破壊神が降臨する事になるぞ！」

リュウカ（ハンター）「んで…そうなってしまえば…また大昔みたく…完全に封印

した挙句…記憶操作して…また一からやり直しになる羽目になるか……リョウカを完全に息の根を止めないといけなくなるぞ…。」

リョウカ(幻想)「……そうだよな……すまん……だが、どうする？今の所案の一つも出ないのはどう言う事だ？」

リョウカ(このすば)「知れねえよ！俺だって必死こいて考えてるのに、お前らもなんか案がねえのかよ!？」

リョウカ(このすば)「……すみません……未だに案が出ません……。」

リョウカ(このすば)「駄目だな、全く思いつかん……ん？」

リョウカ(幻想)「何だ？」

リョウカ(このすば)「いやな、その方法について思い付いた……あくまでも敵が出て来なければ良いんだな？」

リョウカ(幻想)「そうだ、あの大昔に出て来たあの邪神さえ居なければ良い……完全に平和だった……あの世界線にな……。」

リョウカ(このすば)「なるほどな、ならば可能だ……しかしだ……やるには今も寝てるリョウカが必要だ……それにお前も必要だ。」

リュウカ(幻想)「は？俺もか？……まあ良いが……で？どうする？」

リュウカ(このすば)「ああ、昔にやったであろう……世界線作り……その修復バ―ジョン法でやる……それで自身が思う世界線を願い……想像しながら作業する……んで元の平和な世界線に元どおり……更に死んだ者も生き返る……一石二鳥の作業だ……。」

リュウカ(幻想)「なるほど……で？何かしら危険があるだろう？」

リュウカ(このすば)「そうだ、何せ完全にフルパワーでリミッターを解いて全力全開での作業だ……基本的にリョウカがメインで動く……リョウカの思う本当に平和な世界線に戻すにはリョウカ自身……まあ言ってしまうば……何処ぞの世界線に出て来る……某決戦兵器の人造人間の補完計画……それが始動した時の依り代……それは分かるな？」

カズマ「あ……アレか？あのトラウマの所か？」

リュウカ(このすば)「そうだ……もう言わなくても分かるだろ？」

リュウカ(幻想)「……まさか……リョウカ自身が依り代になるのか？」

リュウカ(このすば)「そうだ……リョウカが中心だが、どっちにしろエネルギー不足に陥る……更には俺達の発動させるには、その姉妹の証を証明させる……つまりは、

リョウカが発動させる時…お前の持つゴットピットのコア…それを計9機…儀式で用意し…更にリョウカのエネルギー不足をお前自身で補う…がそれでも足りるか怪しいのでな、結局は家族全員で参加せざる得ない…しかし作業を完遂させるにはどっちにしろリョウカとお前のエネルギーは必須…んで、エネルギーを送るにしても…過程を間違えれば…ボン！……だ…リョウカに必要なエネルギーはお前自身…お前自身に必要なエネルギーは家族全員で補う…って感じた。」

リユウカ(幻想)「結局そうなるか…で、昔からやった時と大分方法が異なるな…。」
リユウカ(このすば)「ああ、俺達は十分強化された…が、やるにしても…工程が大規模になるからな…こうなる。」

リユウカ(幻想)「…そうか…まあ取り敢えず、その方法で行くか。」

アヤカ(幻想)「そうだね。」

リユウカ(幻想)「取り敢えず、リョウカが目覚めるまで待つか…。」

リョウカ(このすば)「そうだね。」

そしてその日は解散した…

……2日後……

リョウカ(幻想)「……ん……ん……！あれ……？此処は……私の部屋……？」

リュウカ(幻想)「やっと起きたか……リョウカ。」

リョウカ(幻想)「お姉ちゃん……あ……そうか……結局私は倒れたのか……。」

リュウカ(幻想)「ああ……でだ……これからお前のこの世界線を救うぞ……リョウカ、動けそうか？」

リョウカ(幻想)「う……うん、でも救うって……どう言う意味ですか？」

リュウカ(幻想)「そのままの意味だ……大昔の……本当に平和だったあの頃にまで完璧に回復させる……。」

リョウカ(幻想)「……!!出来るのですか……!？」

リュウカ(幻想)「お……おう……だがそれ相応に大変な作業だ……良いな？お前が居ないと出来ない……それに……この作業……お前の意思と心が必要だ……。」

リョウカ(幻想)「……分かりました……やりましょう！」

リョウカ(幻想)「おう！」

3 時間後…リョウカ達一行は再び昔のリョウカの家にやって来た…作業の準備を済ませて…

リョウカ(幻想)「よし！準備が出来たな！」

リョウカ(幻想)「はい！…今度こそ…もう…あんあ…あんな…惨劇…大昔の私は…幼かった…だから精神的にも…力も弱かった…だからみなさんを死なせてしまった…更に…私の所為で自身の故郷を滅ぼしてしまった…この大罪は永遠に取れる事は無いです…しかし…私は如何なる事が有っても…私自身がどうなろうと…私はみなさんを救いたい…そして私は…生きている間…その永遠の罪を償い続けます…だから本当の意味での…罪滅ぼしの第一歩…みなさん…こんな私ですけど…改めて言わせて下さい…この罪深く…永遠の大罪の…この私を…許して欲しいって事は言いません…ただ…これから…末永く…宜しく願います…みなさん。」

リュウカ（幻想）「へ…当たり前だ…それに言った筈だ…お前がどんな罪犯したか知らねえ…がだ俺達は…お前を救う…ならばその罪は俺達も共に永遠に背負って行くまでだ…無論…この神森大連盟軍全軍…無論本国諸共…お前と共に覚悟を持っている…だろ？お前ら？」

めぐみん「勿論ですとも！」

紫「大丈夫ですって！お師匠様！私達も一緒に頑張って行きますよ！」

リュウカ（幻想）「……みなさん……ありがとうございます……私はやっぱり幸せ者ですよ…これ程までにこんなに充実した生活……そしてみなさんに巡り会えた……本当に幸せ者です……さてと……みなさん！始めましょう！」

リュウカ（幻想）「おう！ヤマト！準備は出来てるな！」

ヤマト『勿論です！神森大和本艦！準備万全です！』

リュウカ（幻想）「よし！リュウカ！一時的に大和の全制御をお前に移す！」

リュウカ（幻想）「はい！……確かに受け継ぎました…行くよ…神森大和！浮上

!!」

キ
ユ
イ
イ
イ
イ
イ
ン……！！！！

ゴ
オ
オ
オ……！！！！

【神森大連盟国：本世界線完全復活作戦開始】

リヨウカ（幻想）「……この辺りですね……全リミッター解除！大和！完全神化最終覚醒形態！最終決戦形態！霧化形態！発動！」

推奨BGM作品名【男たちの大和】曲名【帰らざる海】

ピキイイイイン……!!

【超戰艦・神森大和】完全神化最終覺醒形態・最終決戰形態・霧化形態】

リョウカ（幻想）「……………!!!」

キユイイイイイン……！！！！ピキイイイイン……！！！！

【最高神：神森リョウカ「完全神化最終覚醒形態・完全フルパワー形態・最終形態」】

リョウカ（幻想）「行くぞ！！ゴットピットコア……！！」

ピット（AI）『了解、リミッター解除……フルパワー。』

【最高神：神森リョウカ「完全神化最終覚醒形態・完全フルパワー形態・ゴットピットコア展開・最終形態」】

リョウカ（幻想）「……リョウカ！俺達の力を……受け取れ！！」

リョウカ（幻想）「はい！！」

リョウカ達はいよいよ準備が整い……今復活の儀式が開始された……

リョウカ(幻想)「……………つ…!! はあああああああ……………!!!!!!」

キユイイイイイン……………!! ピキイイイイン……………!!

……リョウカのエネルギーと…神森大和のエネルギー…そして神森一家のエネルギーが…全て解放され…この世界線を全てを包み込む程の眩い光を放った…その光は、全てを癒し尽くした…光が収まると……死んだ善のある者は生き返って……死滅し…全て枯れ果てた自然も自然豊かに蘇り…破壊尽くされた地形が…完全に新品当然の様に復活し……そして……空を覆い尽くしていた…分厚く雷が轟く積乱雲も…完全に消え去り…太陽の陽が差し込み…神聖なこの地を照らしていた…そう言う現象が各滅んでしまった惑星や銀河…宇宙全てが完全に回復した…

兵士1 「……………あれ…? 此処は…?」

兵士2 「俺達…死んだ筈じゃあ…?」

兵士3 「…俺達…生き返ったのか…?」

…そして、この屋敷で…リョウカの護衛をしていた全兵士や…全兵器…全てが完全復活したのだ…

シュウウウ…

リョウカ(幻想)「はぁ…はぁ……………よか…った…です…復活…出来て…………。」

ドサ…！

システムAI『警告…全エネルギーの枯渇…全エネルギーの枯渇……………本艦の全システムを……停止……します…………。(ザーッ…！ブツ…!!)』

ゴゴゴゴゴ…！！！！ ヒュウウウ…！！！！

リユウカ（幻想）「やれやれ…!! まあ予想してたがな…!! 手伝え…!!」

そして…間一髪…墜落して来た神森大和を何とか無事に着陸させて…リョウカを保護した…

30分後…

リョウカ（幻想）「……ん…あれ…また倒れてしまったのか……って……此処は……？」

リユウカ（幻想）「目覚めたか？リョウカ…。」

リョウカ（幻想）「あ…お姉ちゃん…此処は？」

リユウカ（幻想）「此処はって……あゝ…そうだな……あの後、お前と大和が墜落したんだが…まあ俺達の残った力で、大和とお前をこと無き終わらせた…んだ……お前の大昔の兵士には、全ての事を説明した…まあその結果…その兵士全員が悔やんでいたそうだ……何せ救えなかったからな……んで、肝心の此処についてだが……此処は……お前の家の…大昔にお前が使っていた寝室だ……。」

リヨウカ（幻想）「……………そうですか……………やっぱりこの懐かしい感じ……………」

リユウカ（幻想）「……………リヨウカ？」

リヨウカ（幻想）「……………本当に……………私……………帰って来たんだよね……………？夢じゃなく……………
幻でもないんだよね……………？」

リユウカ（幻想）「……………ああ……………そうだ、夢でも幻でもねえ……………現実だ……………」

リヨウカ（幻想）「……………そう……………ですか……………ひぐ……………えぐ……………うう……………あああああ
あああああ……………!!」

リユウカ（幻想）「……………よしよし……………」

リヨウカは、永遠の時を旅して……………本当の意味で……………故郷に戻って来て……………この滅
んだ子の世界線を完全に蘇らせた……………ある意味で……………リヨウカ達の旅自体は、目的
の一つは完遂した……………

そして……………

1年後…この故郷については…大昔みたくの惨劇が二度と起こらぬ様に…超大規模な拡大超大改修及び超大改造工事を行った…以後は、このリョウカの家は…神森一家の本当の家として扱い…前まで使っていた国を別荘と言う扱いにし…この拠点…神森大連盟国の本拠地である故に…大昔以上の嚴重な警戒網が敷かれ…今までなかった…海軍戦力と空軍戦力の為の施設を大量設置…更に兵器及び超兵器の大格納庫を大量設置し…至る所に大量の迎撃設備や防衛設備(別荘拠点以上の量)を設置した…その他にも色々有るが…色々と別荘拠点以上の超要塞化した拠点…それでだが、この屋敷の形状は変化はない…やはり昔の事も有る故に残したかった…が、そのままと言う訳でなく…サイズアップや…セキュリティの強化もした…以上がこの拠点の内容である…

更に一方で…リョウカ自身にも…この一年で…再び子供を産んだ…また二人で、同じく女の子だ…そして名前は…

【神森命華(メイカ)】

【神森魂華（タマカ）】

の名前で決定された…

リョウカ（幻想）「……平和ですね…。」

リュウカ（幻想）「そうだな…。」

岬「…本当に此処が平和になって良かったね…リョウカちゃん。」

リョウカ（幻想）「うん、ありがとうございます…。」

宗谷「しかし驚きましたよ、リョウカさんの本当の家が見つかって…更にその家を救ったと聞きましたから…。」

大石「確かにそうだな…お嬢様…我々も本当に長い時を旅して来て…この家…そしてこの世界線…お嬢様が無事にご帰還し…この滅んでしまった世界線を…再び蘇らせ…完全に平和な世界線に戻って来た…お嬢様、本当に長い…長い旅…我々も敬意を込めてご帰還を祝福しよう。」

リョウカ（幻想）「…みなさん……本当にありがとうございます……それじゃあ……」

一つ言っても良いかな…？」

リョウカ（幻想）「……何を言うか理解した……言ってみ。」

リョウカ（幻想）「うん……、」

『ただいま…です…みなさん。』

『お帰り……リョウカ……。』

リョウカ達一行……神森大連盟軍……それぞれの旅は、先程も言った通り、一先ずの一区切りとなった……が……あくまでもこの世界線を完全に救った……それは間違ではない……他の世界線はもっと苦しんでいるだろう……リョウカ達一行……そ

してこの神森大連盟軍の戦いは……まだまだ続く……

【その11…完】

その12 神森一家の拠点の秘密…そして未来へ…

……リヨウカの世界線を救ってから…更に1年と数ヶ月が経過した…そんなある日の事…

ガタ…！

リヨウカ（幻想）「ん？何これ…？……！！！！みなさーん！ちょっと来て下さい！！」

1時間後…リヨウカに呼ばれて全員が来た…

リユウカ（幻想）「どうしたんだ？」

アヤカ（幻想）「何があったの？」

リヨウカ（幻想）「はい、この家の事で…とんでもない所が有るそうです…。」

カズマ「おいおい……ただでさえ此処は恐ろしい程のチートだろ？これ以上のことでもない事って？」

リョウカ（幻想）「はい……実はね、私の部屋で……何時も通り掃除してたら……一部の壁が取れて……隠し部屋に行けそうなスイッチを見付けました。」

リユウカ（幻想）「何？」

リョウカ（幻想）「えーっと……有った、コレです。」

全員が取り敢えず見てみると……何かの二つのボタンが有るのと……もう一つ……手紙らしき物が装置に貼って有った……

リユウカ（幻想）「……何だこれ？手紙付きか？」

リョウカ（幻想）「うん、だからみなさんも呼びました。」

岬「まだ手紙は見えないの？」

リョウカ（幻想）「ううん、見てないです。」

リユウカ（幻想）「……取り敢えず、開けてみるぞ。」

リヨウカ(幻想)「はい。」

リユウカは、その手紙の封筒を開けてみた…

リユウカ(幻想)「えーっと…何々…『親愛なる…私達の娘のリヨウカちゃんへ…この手紙を見ているって事は…リヨウカちゃんが成長して此処に戻って来たか…又はもう私達はこの世に居ないと思います…だからもしもの時…この部屋の奥に行って…きつと…絶対に貴女の力になる筈だから…だから…生きて…リヨウカちゃん…』。リヨクヨウより…以上が書かれてるな…んでこの手紙自体…本当に大昔時代の物だな…古びてるが…普通に読める…。」

大石「ふむ…やはり大昔は今よりも切羽詰まっていた事になっていたのか…自分の娘があんな事になるなんて知りもしなかっただろう…。」

参謀長「ええ…確かにその通りです…。」

アヤカ(幻想)「……確かにあの時…リヨウカちゃんがあなってしまったのは本当に予想外だったわ……それに親である私達がリヨウカちゃんより先に死んでしま

う様な真似を見せて……リヨウカちゃんの暴走のトリガーを引いてしまったような物……だからこれについても全く知らなかったんだよね……。」

リヨウカ(幻想)「そう……なんですか……まあ……取り敢えず、開けてみますか……。」

カチッ……！ズウウウ……！ズズウウウン……！！

リヨウカが扉の開閉スイッチを押すとこの部屋の壁の一部がせり上がって……隠し通路らしきのが現れた……

リヨウカ(幻想)「……かなり深そうですね……行こう。」

それでリヨウカ達は、通路の奥へ進んで行った……

5分後……リヨウカ達は最終的に……神聖な所にたどり着いた……中央には巨大な祭壇が有り……そこに小さな球体状の物体が堂々と鎮座していた……

リョウカ(幻想)「この場所って…昔に俺達がりョウカの精神世界に飛び込んだ所と似てるな…。」

リョウカ(幻想)「そうですね…それに…さっきから私のゴットピットコアが…共鳴反応が物凄くします。」

大石「…ふむこんなにも神聖な場所があったとは…。」

岬「うわ…綺麗な所だね…。」

リョウカ(幻想)「…リョウカ。」

リョウカ(幻想)「うん、それじゃあ…待っててね。」

リョウカは、一人で祭壇に登って…

リョウカ(幻想)「…来て…ゴットピットコア…。」

ピシュン…!

リヨウカは、ゴットピットコアを呼び出した…すると…

フワァァ…ピキィィィン…！！！！

全員『……………！！！！！！』

突如として台座に収まっていた球体が浮かび上がり…辺り一面を覆い尽くす程の眩い光を解き放ち…台座に鎮座していた球体がリヨウカのゴットピットコアと融合し…それに共鳴し…神森一家全員のゴットピットコアがリヨウカと同じになった…そのゴットピットコアは、何時も以上に透き通っていて…持ち主と同じ色に常に神々しく輝いている…更にその宝玉の中の眼球の瞳が更に透き通って…持ち主と同様の色に常に神々しく輝いている…そしてそのゴットピットコアが持ち主に戻ると…

ゴゴゴゴゴ…!!

全員『……………!!?』

突然、部屋全体が揺れ始め…祭壇が段々と地面に格納されて行き…

ゴゴゴゴゴ…!!ズズウウウン…!!

ズウウウ…!!ガコン…!!

格納されると、部屋の奥に…巨大なエレベーターが現れた…

リュウカ(幻想)「なんか、同じパターンだな…。」

リョウカ(幻想)「そうですね…まあ行ってみましょう。」

取り敢えずリョウカ達はそのエレベーターに乗り…下に降りて行った…

ウイイイン……！ガコン……！

ギイイイ……！ガシャン……！

1分後に、リョウカ達は最下層に到着した……そこもまた神聖な場所だった……そして再び例の巨大な祭壇があった……が、今度は先程のゴットピットコアを装着する為の窪みが有るだけだった……

それでリョウカは、再び祭壇に登り……窪みにゴットピットコアをはめると……

ズウウウ……！ズズウウウン……！

リョウカ（幻想）「……この箱は……？」

リョウカ（幻想）「取り敢えず開けてみるぞ。」

窪みをはめる所から、凄まじい音を立てて……巨大な古代の装備品が入ってそうな

箱が出て来た…その中に入っていたのは…

リョウカ（幻想）「……装備品ですね…でも…これって…私達の中で伝わる…伝説級で…禁忌の素材で作られた装備品ですね…それに私の装備品が…やっぱリピットと同じく共鳴してます…。」

そしてリョウカが、その装備品に触れたら…

フワァァ……ピキイイイン……！！！！

また眩い光を放ち…リョウカの武器装備品が融合された…見た目は、それぞれ…所々にゴットピットやゴットピットコアの超小型バージョンのが嵌め込まれている…（ちゃんと動く）無論神森一家全員分も同時に……すると…

ズウウウ…！！ズズウウウン……！！

リヨウカ（幻想）「……………。」

そして…先程の箱収納され…今度は箱の中には無かった…二振りの刀剣…しかも柄の先端部にはリヨウカのゴットピットコアが埋め込まれていた…そしてリヨウカは…

リヨウカ（幻想）「……………っ…!!」

グググググ…!! シャキン…!

リヨウカは、その二振りの刀剣を引き抜いて…同時に…

ピキイイイイン…!! シュウウウ…!!

今度はその刀剣は、リョウカの元々持っていた刀剣と融合した…(以下略)

リョウカ(幻想)「ふん!(ブォン…!)ふ…!(シュ…!)やああ…!!!」(ブォ
ン…!シャキン…!)」

推奨BGM:作品名【ゼルダの伝説シリーズ】使用場面【伝説の魔剣入手イベン
ト(風のタクトver)】

リョウカは、その二振りを少し軽く振るって…二振りの刀剣を天高く掲げた…

(【伝説の魔剣…マ〇ターソ〇ドを手に入れた!】)

カズマ「おいおい、完全にどこぞの世界線の伝説の魔剣と同じ入手イベントじゃ
ねえか…。」

めぐみん「か…カッコイイです…!」

岬「うわぁ…今のスっごくカッコイイよ！」

リヨウカ（幻想）「えへへ…一度だけでもやってみたかったです…やはりあの人の気持ちは分からなくもないですね。」

リユウカ（幻想）「そうだな…。」

リヨウカ（幻想）「…さてと…。」

ザーツ…！

リヨウカ（幻想）「……!!」

リユウカ（幻想）「どうした？」

リヨウカ（幻想）「……全て思い出しました…恐らくこの家にまだ隠し通路があります。」

リユウカ（幻想）「何？マジか？」

リヨウカ（幻想）「うん…でも先ずは此処から出よう。」

リユウカ（幻想）「だな。」

リョウカ達が、この場所から出ようとする…

ギイイイ…!!ズズウウウン…!!

全員『…!!…!!』

…凄い勢いでエレベーターの扉が完全に閉じてしまった…

リョウカ(幻想)「……!!来ます…!!…!! 敵です!!数は…2体…!!」

リョウカ(幻想)「なるほどな…やっぱそう易々と帰してはくれんか…しかし厄介な事になった…非戦闘員も居るんだぞ…?」

リョウカ(幻想)「……大石さん、原さん…貴方達は一応は戦えますか?」

大石「分からん…しかしやるだけやってみよう。」

参謀長「ええ、私もやれるだけやってみます。」

リュウカ(幻想)「じゃあ…ほい、この二つを貸す。」

大石「これは…！お嬢様の刀剣と拳銃か…!!」

参謀長「お嬢様…大丈夫なのですか？」

リュウカ(幻想)「安心しろ、量産型だ…一応お前らにも渡す…自分の身は自分で守れ…俺達は出来る限りお前らを守る。」

岬「う…うん…。」

リュウカ(幻想)「大丈夫です…みなさんは絶対に守ります…!」

ズウウウ…!!ヒュウウウ…!!ガシャン…!ガシャン…!

敵1&敵2『ティヤア…!ソリヤア…!』

リュウカ(幻想)「…!!タートナック…!!しかも最上位個体ですか…!!」

リュウカ(幻想)「しかし、こいつらだけなら簡単だ…んじゃあ早速これらの性能を見せてもらおうか…!!」

リュウカ(幻想)「…来ます…!!」

敵1&2 『オオオオオオオ…!!』

そして、地下の神聖な場所にて…魔の最上位騎士…タートナックとの戦いに入っ
た…

VS 【魔の戦闘狂騎士…タートナック「最上位個体」】

勝利条件【敵の全滅】敗北条件【味方の内一体の撃破】

地形【神森大連盟国…本拠地「神森屋敷」…隠し通路最深部】

戦闘BGM…作品名【イースシリーズ】曲名【holders power(クロ
ニクルver)】

【戦闘開始】

リョウカ(幻想)「みなさんは、やらせないです！能力解放！みなさんに…全ての防護加護を!!」

ピキイイイイン…!!!!

リョウカの能力で味方全員に全ての加護と結界とバリアーが展開され…攻撃が通らなくなった…

岬「あ…ありがとう！」

リョウカ(幻想)「おまけだ！能力解放！お前ら全員に戦える力を!!」

ピキイイイイン…!!

今度はリュウカの能力で、味方全員に…全ステータスがリュウカ達の半分程度に
超上昇した…

岬「ありがとう…！リュウカちゃん！リュウカさん！」

敵2『デヤァ…!!』

もえか「ミケちゃん！危ない！」

リュウカ（幻想）「ミケちゃん！」

岬「え？…!？」

ブオオン…!!ガキイン…！

岬「……っ…!!おじさん…!!」

大石「ほう…!!大した力の持ち主…だな…!!」

ザシユウウ…!!

敵1 『グオオ……!!?!?』

カズマ 「おお！あのタートナックの最上位の防御をあっさり貫いた!!」

敵2 『オオオオオオオ……!!』

バアアン……!!グチャア……!!

敵2 『グオオオオオ……!!?!?!!』

ドサ……!!ボオオオオン……シュウウウ……!

参謀長 「残り一体です……!長官!」

大石 「うむ！一気にケリを付けるぞ！」

リョウカ(幻想) 「はい……お姉ちゃん！久々に……【アレ】……やりましょう!」

リョウカ(幻想) 「おお！アレだな！良し！丁度良い……!!合わせろリョウカ!」

リヨウカ（幻想）「はい！」

リヨウカ&リユウカ『スペル…!!】【合体連携剣術奥義!!】【双龍神皇天帝王劍術…八岐大蛇】「……！」

リヨウカ（幻想）「はあああ…!!」

リユウカ（幻想）「おおおおお…!!……！」

…合体連携剣術奥義…双龍神皇天帝王劍術…八岐大蛇とは…乱舞系剣術奥義の一つであり…リヨウカとリユウカのみ放てる剣術奥義…二人の解き放った二振りの刀劍が…しなやかに…狡猾に…尚且つ目にも留まらぬ速さ故に…それぞれの二振りの刀劍が計四つに見え…それが八つに見え…その八つ同時に襲い掛かる斬撃の嵐は…対象の身体を無残にも喰い殺すが如しに切り刻む…それ故に八岐大蛇と名づけられた…

ブォォンブォォンブォォンブォォン…!!

ザシユザシユザシユザシユザシユザシユザシユ…!!

ブシャアアア…!! ドサ…! ボオオオン…シユウウウ…

そして…最後の一体が倒され…

ギイイイ…ガシャン…!!

エレベーターの扉が開いた…

【戦闘終了】

大石「…見事な連携…更に目にも留まらぬ素早い斬撃……更に技名如く、側から見れば八岐大蛇に襲われる感覚になるな。」

宗谷「そうですね…流石リョウカさん達です…。」

ピキイイイイン…!! シユウウウ…!

岬「あ…消えちゃった…。」

参謀長「どうやら戦闘が終わったから持ち主に返されたのでしょう…。」

カズマ「それに加護もステータスの効果も戦闘終了と同時に消えたみたいだし…。」
リュウカ（幻想）「取り敢えず、急いで出ようぜ？また襲って来たら堪らん…。」
リュウカ（幻想）「うん…外に出よう。」

そしてリュウカ達は何とか元の部屋に戻って来ると…

ズウウウ…ズズウウウン…!!

…その隠し通路は完全に閉鎖された…

リュウカ（幻想）「……駄目ですね…もう反応しませんね。」

リュウカ（幻想）「まあ…一度きりとは言え…あんな神聖な所だからな…そりゃ

あ一度きりも納得だな…。」

大石「そうだな…これはある意味で超極秘の事で宜しいかな？」

リュウカ(幻想)「だな…先の戦闘も…秘匿で済ませてくれ…。」

大石「そうだな、忘れるとしよう…この情報が悪用されたら堪らんだろうし…。」

参謀長「そうですね。」

リュウカ(幻想)「…それで、そのもう一つの隠し通路って？」

リュウカ(幻想)「はい…こっちです。」

リュウカに案内されて…たどり着いたのは、家の前にある噴水…

リュウカ(幻想)「えーっと…有った！これを押せば…。」

カチッ…!!

ウイイイン…!! ゴゴゴゴゴ…!! ズズウウン…!!

リョウカが起動スイッチを押した事により…隠し階段が現れた…

リウウカ(幻想)「大規模な仕掛けだな…取り敢えず行くか…。」

そしてリョウカ達一行は…階段を降りて行った…すると今度は最新鋭の大型エレベーターが有り…それに乗って更に地下へ行き…そしてたどり着いた場所は…

全員『……!!』

そう…たどり着いたのは…まさかの格納庫だ…兵器や超兵器…更に艦艇…その他色々の兵器が保管されていた…更に驚くべき所は…別荘拠点にある隠し格納庫と同様に史実と全く同じなのは同様だが…自身のオリジナルの兵器や超兵器までも鎮座していた…そして……

リヨウカ（幻想）「……あれは……大和……ですか？」

リユウカ（幻想）「……いや違うな……大和型に限りなく近いが……大和型じゃない大和型だな……改大和型でもなく……超大和型でもない……何だこの型は……？」

そうリヨウカ達の見つけた史実の大和型に形状が限り無く近い謎の型……

リヨクヨウ（幻想）「……これは私達も知らない……。」

アヤカ（幻想）「何だろねえ……これ……？」

リユウカ（幻想）「お前らが作ったんじゃないとなると……まさか……これ作ったのって……リヨウカか……？」

リヨウカ（幻想）「……多分そうかな……分からないけど……ちょっと待って下さいね……うーん……。」

リヨウカは、思い出そうと考えた……すると……

ザーツ…！

リョウカ（幻想）「……？」

ザーツ…！

『やっと出来ました！へへへ！初めて私も作ったよ！お母さん！お父さん！』

『上手ね…リョウカちゃん…。』

『お見事だよ、本当に…それで名前は？』

『うん！う…ん…とね…名前は………、』

ザーツ…！

リョウカ（幻想）「………【幻創大和型1番艦…大和（タイワ）……。】」

リョウカ（幻想）「………思い出したのか…？」

リョウカ(幻想)「うん…子供の時に、何か巨大な物模型作りの感覚で作ってた…それで出来たのが…この大和に似た大和…通称(タイワ)…まあヤマトさんのそっくりさんです…ある意味で本当の意味で、大和型の初代ですね…私の中で…」

大石「なるほど…それで、これは動くのか？」

リョウカ(幻想)「分からないです…模型だと思って作ってみた感じだったですから…そもそも本物かどうか…」

リョウカ(幻想)「だよな…ん？待てよ？さっきこの艦を1番艦って言ったか？」

リョウカ(幻想)「そうです…それで次々に…【2番艦…ムゾウ】【3番艦…シンノウ】【4番艦…キノ(紀乃)】【5番艦…ケンマ(肩摩)】【6番艦…オバリ(尾羽李)】【7番艦…マホロア(麻帆露悪)】【8番艦…亜城木(アジョウ)】…の以上が幻創大和型です。」

大石「ふむ…言ってしまうえば全て大和型のパチモンって所か…」

リョウカ(幻想)「なるほどな…だから大和型に関してはこんなにも詳しく…更には作るのも得意な訳か…」

リヨウカ(幻想)「うん…何となくって感じに…自然な流れでやってみたらあっさり…です。」

カズマ「最早リヨウカは…リヨウカⅡ大和型…って感じになるな…ん？待てよ…なんか嫌な予感がして来た…なあ、これらと合わせて…全大和型を合わせて…何種類持つてる？」

リヨウカ(幻想)「えーっと…それぞれの艦隊に…8隻ずつだから…合計で…【30隻超】ですね。」

カズマ「まるで大和型のバーゲンセールだな…って何言わせようとしてる!!いやいや、幾らなんでも大和型の超戦艦多過ぎやしないか？余裕のオーバキルだと思うが？…相手もこっちの経済的にも…。」

リヨウカ(幻想)「さあ…？確かに現実世界で尚且つ現実世界同様の性能にしても…裸足で逃げ出す程の規模です…幾ら米国の全航空戦力を持っても…せいぜい5隻までが限度でしょう…その間に一気に米国を制圧された挙句…全艦隊が壊滅させられる運命でしか無いでしょう…まあ、相手が平等に攻撃して来たなら…少しは勝率が上がる筈ですけどね…。」

大石「なるほど…確かに制空権取ってなくとも充分過ぎる程の数だな…元々対空性能も高い艦が30隻以上も有る…更には最強の攻撃力の主砲を持っている…この大和型のみでの艦隊でも確かに米国に勝利するのも夢ではない…。」

リュウカ(幻想)「まあ核爆弾で一貫の終わりだな…。」

大石「そうだな…。」

リュウカ(幻想)「さてと…取り敢えず見て回ってみますか…。」

リュウカ(幻想)「そうだな…。」

そしてその後、リュウカ達一行は部屋を調べて…その後地上に戻り…その日は解散となった…

…そして1週間後…

リュウカ(幻想)「どうやら、この世界線で分かった事が有る…どうやらこの世界線は、とんでもない素材で作った物がわんさか有り…更に鉄や木材…その他全て…

今の俺らの兵器よりも上だ……だからこそそれらの素材で更に超強化と新規新しい兵器を作って行こうと思う。」

リヨウカ(幻想)「そうですね…。」

リユウカ(幻想)「だから再び、再度何でも屋を休業する…今度の期間は俺達が納得するまでだ…。」

リヨウカ(幻想)「だから…期限が不定期ですね…。」

リユウカ(幻想)「そうだ、それにもう少しこの世界線で休みたいしな…。」

リヨウカ(幻想)「……そうですね…それじゃあそうしましょうか…。」

アヤカ(幻想)「まあ、有りだね…さてと、じゃあ早速これからの事を考えて…行動しようか。」

リユウカ(幻想)「だな……。」

リヨウカ達一行は、再び何でも屋を休業した…しかも期限は不定期…だからいつ再開されるかも分からない…が…リヨウカ達は必ず再開するであろう……その時まで…リヨウカ達はずっと強くなり続ける…それがリヨウカ達なのだから……リヨウ

カ達の旅はまだまだ続く…

【その12…完】

その13 更なる神化新装!神森大連盟国!

戻って来て…約1カ月

今リヨウカは、1人…例の隠し格納庫に居た…どうやら何か悩んでる様だ…

リヨウカ(幻想)「うゝん…さてどうした物かな?」

リユウカ(幻想)「お! やつと見つけた! おーい! リヨウカ!!」

リヨウカ(幻想)「ん? あ、お姉ちゃん! どうしたの!」

リユウカ(幻想)「ああ! お前こそどうしたんだ!」

リヨウカ(幻想)「えーとね、どう改装や改造をするか悩んでた所!」

リユウカ(幻想)「分かった! んで、取り敢えずみんなを呼んだ方がいいか!」

リヨウカ(幻想)「ありがとう! 丁度みなさんの意見が聞きたかった事です! その間に考えとくよ!」

そして、この隠し格納庫の代表的な存在の幻創大和（元は大和「タイワ」で…変更され、幻創ヤマトと言う名前に変更…）その前に全員が集合した…

大石「…なるほど、そう言う訳か。」

岬「そうだね…それでどうしたいの？」

リョウカ（幻想）「はい、出来ればもう誰にも負けない様に…そして誰も議席が出ない…本当の意味での最強の軍事国家にしたいです。」

リユウカ（幻想）「そう言われてもな…俺達はどう充分過ぎる程強くなっただろ？」

「

リョウカ（幻想）「それでも…このままでは足りません…もっと強くないかと…だからこそのみなさんです。」

リユウカ（幻想）「はあ…まあみんなを集めたからには仕方ないか…で、お前なりで考えたのか？」

リョウカ（幻想）「ええ、一応は…。」

リユウカ（幻想）「…一応言ってみろ。」

リョウカ(幻想)「はい…実はですね、みなさん…これを見て下さい。」

リョウカは、目の前に二つの超巨大の何かの液体入りで…更にその中には…嚴重
そうに何かが保管されていた…

リョウカ(幻想)「なんかどっかで見た事あるな…これは何だ?」

リョウカ(幻想)「はい、こっちは…【ジ・グランさんのコアの本物そっくりのレ
プリカコア】そしてこっちは【ジ・アースの本物そっくりのレプリカコア】です。」
リョウカ(幻想)「おいおい…まさかだと思うが…全兵器や全超兵器…更に国中の
全迎撃設備や防衛設備にこれを搭載するんじゃない?」

リョウカ(幻想)「そのまさかです…幾らレプリカとは言え…仮にも全生物の絶対
的の頂点に君臨する者と…全兵器及び全超兵器の中で絶対的な頂点に君臨する兵器
のコアです…それ相応に強くなると思います。」

リョウカ(幻想)「なるほどな…だが、ご本人達には相談したのか?」

リョウカ(幻想)「うん、一応は聞いてみました…まあ…渋々了承…って感じでし

たけど……」

リョウカ（幻想）「渋々了承って……はあ……まあ搭載したとしても多分それだけじゃあ駄目だろう……何せ渋々の時点で不味いだろうし……もっと何かが必要だろう。」

リョウカ（幻想）「そうですか……。」

大石「ふむ……ではお嬢様、お嬢様にとって具体的に何が足りないと思う？」

リョウカ（幻想）「え？ えーと……そうですね……やっぱり何をやってもいつもギリギリの戦いになってますから……どうにかして全ての性能を上げたり……武装の追加したり……兵器の追加したり……その他色々有りますしね……。」

リョウカ（幻想）「ほぼ全部じゃねえか……あ……そもそもリョウカは働いてみんなの為ならどんな苦難でもやりたがる……まあ現代風に言えば……社畜と働き者の極みの塊だな……しかも殆ど1人で行動起こすから……具体的に指定しようとしても……ほぼ全部を直そうとするんだったな……。」

リョウカ（幻想）「……あはは……すみません……。」

リョウカ（幻想）「まあ、取り敢えず色々試そうか……。」

リョウカ（幻想）「うん。」

そして5ヶ月後…

ドオオオオン…!!ヒュウウウ…!!チュドオオオオン…!!

リョウカ(幻想)「…うゝん…やっぱりもう少しですね。」
リュウカ(幻想)「だな…。」

更に…1ヶ月後…

ドオオオオン…!!ヒュウウウ…!!ズドオオオオン…!!

リョウカ(幻想)「…やっぱりまだまだですね…。」

リュウカ(幻想)「はぁ…。」

更に更に…半年後……

ドオオオオン……！！ヒュウウウ……！！ズドオオオン……！！

更に…1年後……

キュイイイイイン……！！！ドギヤアアアン……！！

ピキイイイイン……！！！チュドオオオオン……！！！！！！

リョウカ（幻想）「良い感じですけど……もっと行けそうですね……。」

リュウカ（幻想）「やれやれ……。」

………5年後………

ゴオオオオオオオ……！！！！！！

リヨウカ(幻想)「遂に……やり遂げました……!!!!」

リユウカ(幻想)「おお! やつと出来たぞ!!」

リヨウカ(幻想)「さてと、ここからですよ! ぱっぱと行きますよ!」

リユウカ(幻想)「おう! ……え?」

……そして更に……5年経過した……合計で……約11年以上も掛かった……歴史上残る
最大級の超大魔改造と超大魔改装を……いよいよ完成の時が近付いて来たのだ……

リヨウカ(幻想)「はあ……はあ……」

リユウカ(幻想)「ぜえ……ぜえ……疲れた……あ……しんどい……」

リヨウカ(幻想)「はあ……はあ……そうですね……さてと……後は総仕上げの……この二
つのコアを搭載すれば……完了です……!」

リユウカ(幻想)「……ええ……?」

……更に9年……

リヨウカ(幻想)「はあ……はあ……やっと……できまし……た……げほ……!げほ……!……あう……。」

ドサ……!

リユウカ(幻想)「ゼエ……ゼエ……!もう……駄目……もう……動けん……。」

ドサ……!

……作業開始から……計20年……ようやく全改造及び全改装作業が終了した……が、リヨウカ達は……ある意味で休まず徹夜を繰り返し……限界を超えたので……終わって……完全に力尽きた……

リヨクヨウ(幻想)「ん……?……!!!?　ねえ……!!大丈夫……!!!?　しっかりして……

!!リヨウカちゃん!!リユウカちゃん……!!」

アヤカ(幻想)「不味いね……完全に過労し過ぎだよ……!急いで運ぼう!」

リヨクヨウ(幻想)「うん!」

それで、運良くリヨクヨウとアヤカが心配して見に来てくれた所……リヨウカとリユウカは、部屋に運び込まれた……無論流石に過労し過ぎて1日程度では目覚めず……1週間経過してようやく目が覚めたが……案の定無理し過ぎたのかこつてりと怒られて……3ヶ月は絶対に休む様にと言われたそうだ……

3ヶ月後……

リヨウカ(幻想)「ん……!疲れが取れました!」

リユウカ(幻想)「はあ……ようやく疲れが取れたな……あ……くっそ……こんなにも掛かったな……。」

リヨウカ(幻想)「合計で20年だもんね…。」

リユウカ(幻想)「はあ……20年か……娘達とは碌に遊んでねえな……。」

リヨウカ(幻想)「……実はそう言うと思ひましてね……こんな事もあるのかと……実は作業する際に……作業開始から終わりまで……全ての時間の流れを非常にゆっくりとしました……無論人体にも影響が有って……成長速度が尋常じゃない位に非常にゆっくりとなりますから……私達が20年働いても……実際には……たったの2週間程度ですよ。」

リユウカ(幻想)「抜かりねえな……本当に……ん？あくまでも経過時間と人体の成長速度を非常にゆっくりになるんだよな？」

リヨウカ(幻想)「ええ、それだけです……ただし……私達の居た空間はそのままです……あくまでも外だけ影響が出ます。」

リユウカ(幻想)「そうか……ならばばらくは娘達と遊んでるのも有りだな……。」

リヨウカ(幻想)「そうですね……。」

テイカ「あ……。」

コウカ「あ……あ……。」

リヨウカ(幻想)「あ……よしよし、良い子ですね……。」

リュウカ(幻想)「ははは…良い子だ…ほら、たかいたかい。」

テイカ「えへへ…。」

コウカ「あはは！」

リュウカ(幻想)「ふふふ…さてと…しばらくは休業ですね。」

リュウカ(幻想)「だな、文字通りの俺達の休みでしょう…。」

そして、3度目の休業をし始めた…今度は単純にただの休み…この休業で…今まで出来なかった平和な時を過ごす…ただそれだけの為に…が今はそれが一番だ…
リュウカ達は、束の間の平和な時を……過ごす事にした…

【その13…完】

その14 リョウカ達の休日

リョウカ達一行が何とかメタルギアソリッドの世界線にてスネークイーター作戦を成功させ…リョウカ達の世界線に帰って来た…

リュウカ(幻想)「ふい…何とか帰って来れたな…。」

リョウカ(幻想)「そうですね…。」

めぐみん「あ、お帰りなさい…みなさん。」

リュウカ(幻想)「おう、帰って来れたぞ。」

永琳「…無事に帰って来れて良かったわ…モニター越しで見てたし聞いたわ…。」

めぐみん「ええ…全て聞かせてもらいましたよ…リョウカちゃん…。」

リュウカ(幻想)「見てたし聞いてた…ってまさか…?」

めぐみん「ええ…もうこの国中に知れ渡りました…貴女の過去の事全てです…。」

リョウカ(幻想)「…そう…ですか…。」

めぐみん「…リョウカちゃん…本当に大昔に辛い事を体験して…精神的に辛い

のに……あの世界線に向かいトラウマの克服に掛かったそうですね……順調……そうでは……ないですね……。」

リョウカ（幻想）「まあ少しずつだが……。」

めぐみん「……本当にすみませんでした……貴女の過去の事で……気持ちも知らなくて……。」

リョウカ（幻想）「だ……大丈夫ですよ……みなさん……。」

紫「しかし……お師匠様……。」

リョウカ（幻想）「……確かに……今でも過去の事を思い出せば……私は辛過ぎて……いつまた耐え切れずに暴走しそうで……怖いですが……でもそれに負ける訳にはいかないのです……。」

永琳「……やっぱり貴女らしいわね……。」

リョウカ（幻想）「うん……。」

永琳「……はあ……まあそれはさて置き……で？あの世界で……貴女どれだけ無茶をした訳なの？……心臓部の横スレスレに矢が刺さる……。」

リョウカ（幻想）「うぐ……。」

永琳「……更には…確かヴォルギン…だっけ？その人から全員を逃す為に身代わりとなってボコボコにフルボッコにされたり…。」

リョウカ(幻想)「ぐう…。」

永琳「…挙句…限界を超えて倒れ…更にリョウカに頼んで…本当ならもう作戦続行どころの話しじゃない位の瀕死を…無理矢理回復させ…全力戦闘してまた倒れた…。」

リョウカ(幻想)「つう…。」

永琳「……貴女…どう言うつもりなの？…どう考えても死ぬ気でしよう？…しかもたったの数日で回復何て…幾ら貴女でも限度って物が有るわ…何かしらの副作用って物が有るはずよ。」

リョウカ(幻想)「確かにそうだな…リョウカ…どうなんだ？」

リョウカ(幻想)「えーっと…正直に言わないといけないですか？」

全員『駄目。(駄目だ。)(駄目です。)』

リョウカ(幻想)「うう……実はその……確かに傷は治ったけど……あまり力が出ない感じ…かな？」

永琳「はあ…弱体化の症状ね……。」

めぐみん「……リヨウカちゃん。」

リヨウカ（幻想）「何でしょう…か？」

めぐみん「…兎に角絶対に貴女は休んで下さいね？ 良いですね？」

永琳「そうだね…そうした方が良いわ…これは医師としての指示よ…休みなさい。」

零月「リヨウカちゃん…お願いだからもう休んで…身体がもう持たないから…もう少し…うんもつと自分の身体を大事にして…。」

岬「リヨウカちゃん…無茶は駄目だよ…？」

リヨウカ（幻想）「………はい……。」

リユウカ（幻想）「リヨウカ…まあ取り敢えず休んでくれ。」

リヨウカもほぼみんなから絶対に休めと言われたからか…渋々休む事にした…

………つで…

リョウカ(幻想)「……………暇です…。」

そう…休めと言われ渋々休んだは良いものの…そもそもリョウカの日課は…朝起きた時からせつせと家事を勤しんで…更に全兵器や超兵器の点検及び整備…更に更に全てのペットの健康チェックの餌やりと…全兵士の食事作りと健康チェックと教官もして…トドメには…日中毎日の様に数時間は修行又はトレーニング及び訓練を行う…それらを行い…娘達の世話をしている…無論だがリョウカは色々仕事も有る…これは基本的に休日の時に行ってる…では基本的に仕事日は…24時間体制で警察を行い…更に最近開店させた飲食店の経営も行なってる…休憩時間には先程の休暇の日課を行なったりもしてる…更にそれプラス…買い出しと食材確保…その他色々の行動をしてるのだ…側から見たらこんな幼い女の子がこれほどまでの超ハードスケジュールを何度も…休み無しで働き続けてる事に同情せざるを得ない程に哀れ身の目で見られるだろう…そう…ある意味でリョウカにとってはリョウカ達から休めと言われてしまえば…この先程述べた事全て出来なくなる…

更に言えばこれがリヨウカにとっては、日常生活の一環だと思ってるので……完全社畜で完全なる従者……まあ超仕事熱心で超修行熱心のリヨウカにとっては……苦痛みたいな物だったのだ……

纏めれば……全てのやる事が出来なくなって暇……兎に角暇なのである……無論だが、リヨウカにとっては日課と言ったが……他の家族面々で言えば……明らかにリヨウカが異常だった……それこそ今すぐにでもそう言う日課を辞めさせるべきだと思ってる……が……この拠点や国そのものは大部分がリヨウカ自信が築き上げた物だ……更に言えば家の管理も家事の管理……等の色々の管理は全てリヨウカが担当してる為か……リヨウカ無しでは中々作業が捗らないのが実情だ……偶にリュウカの策でリヨウカから全兵士（特殊部隊や全兵士元帥も含む）に指導してるが……それでも時間が掛かる……そう……人数不足だった……この列強国の欠点は超精鋭揃いで大量に居るにも関わらず……リヨウカの日課の代わりになる人数が圧倒的に足りなかった……リュウカ達が考えて必要な人数倍率は……何と約【500万9000倍】……それくらいの大人数の人材が必要なのだ……まあやろうと思えば出来なくも無いが……兎に角圧倒的に人数が足りない事が分かったので……その人数が揃うまでの間はリュウカ

達の参加でどうにもするって事になってたのだ……

リョウカ(幻想)「……………大丈夫……………だよね…?」

リョウカ自信もやはり心配だった…本当に大丈夫なのだろうか…それでその結果…

リョウカ(幻想)「おーい!そっちは終わったか!」

兵士元帥1「は!今ようやく50%完了致しました…!」

リョウカ(このすば)「マジかよ…!数時間頑張ってまだ50%だと…!」

リョウカ(エスコン)「これは…面倒な事に…なった…」

リョウカ(幻想)「おい…なんか一人の俺がくたばりかけてるが大丈夫なんか?」

リョウカ(モンハン)「大丈夫だ、問題無い。」

リョウカ(ハンター)「大アリだボケ、ほらさっさと休んで来い。」

リョウカ(エスコン)「ういゝ…」

ガッシャアアン……！

兵士元帥 2 「ぼっかもおおん……！！！！ 食器を壊す程の力を加えるんじゃない……

！！」

兵士 1 「は……！！申し訳ありません……！！」

兵士元帥 2 「まあ兎に角、怪我が無くて大丈夫だな……次は気を付けろ。」

兵士 1 「は！」

……案の定リョウカの心配が現実となっていた……が辛うじて……何とか半日掛けて
全作業を完了した……

リョウカ（幻想）「もう……駄目……疲れる……。」

リョウカ（幻想）「大丈夫………じゃないですね………やっぱり………私も動いた方が……。」

リョウカ（幻想）「いや駄目だ………これもリョウカの為だ………それに集まりもすれば………

何とかリョウカの作業の代わりが務まる筈だ…。」

リョウカ(幻想)「……………」。

リョウカ(幻想)「まあ…それも永く掛かるだろうがな…まあ一時的とは言え……
絶対にゆっくりと休んでろ…良いな？」

リョウカ(幻想)「うん…。」

それで翌日…

リョウカ(幻想)「……………」。

リョウカ(幻想)「……………」。

リョウカ(幻想)「なあ…聞いても良いよな？」

リョウカ(幻想)「うん…。」

リョウカ(幻想)「俺達って…最近やった訳じゃないんだよな？」

リョウカ(幻想)「うん…。」

リョウカ(幻想)「じゃあ…何で…お腹が膨れてる訳？」

リヨウカ（幻想）「分からないです…でも感じるのです…このお腹の中には…新しい命がまた二人も増えるのですよ…。」

リヨウカ（幻想）「そ…そうか…。」

リヨウカ（幻想）「……ふふふ…こう言うのが楽しみになりました…また増えて…嬉しいです。」

リヨウカ（幻想）「そうだな…名前考えないとな…。」

リヨウカ（幻想）「そうですね…。」

…1時間後には案の定家族全員に、リヨウカがまた妊娠中した事が伝わったそうだ…が…最初は勿論リヨウカが疑われたが…誤解が解けたそうだ…

そして妊娠して…5時間後に…リヨウカとリヨウカの間にまた二人の生命が誕生した…それでその名は…

【神森陽華（ヨウバナ）】

【神森夜華（ヨハナ）】

と言う名前となったのだ：

それで1ヶ月後：

リョウカ(幻想)「どうしましょうか…。」

リョウカ(幻想)「どうした？なんかいるか？」

リョウカ(幻想)「うん、私が休みで…何も出来ないなら…せめて旅行くらいなら大丈夫かな…って思っていましたけど…そもそもこの世界で…何処に旅行に行こうか悩んでいたのです。」

リョウカ(幻想)「旅行…なあ…一応聞くが…誰々連れて行く？」

リョウカ(幻想)「それは私とお姉ちゃん…そして娘達全員ですよ。」

リョウカ(幻想)「なるほどな…だがな、娘達全員となると…やっぱり誰かしら面倒を見るメンバーが足らん…。」

リョウカ(幻想)「そうですね…。」

リュウカ（幻想）「んで、そもそも何処に行く？それが分からんと行けれねえだろ？」

リュウカ（幻想）「そうですね……じゃあ……温泉旅行でも行きます？」

リュウカ（幻想）「温泉旅行……温泉旅行……なあ……確か……前にそんな旅行した時災難だったな……このすばの世界線でアルカンレティアに行ってみればアクシズ教徒に絡まれるわ……魔王幹部に攻められるわ……散々だったな……」

リュウカ（幻想）「あはは……でもこの世界ならその心配は無いですよ。」

リュウカ（幻想）「そうだな……じゃあそうするか……」

……2時間後……

リュウカ（幻想）「みなさん、準備はいいですか？」

リュウカ（幻想）「おう、出来てるぞ。」

オウカ（幻想）「旅行……楽しみですね……」

ハナカ（幻想※いつの間にか分離能力で分離した）「うん！」

めぐみん「旅行ですか…まあそれなら大丈夫ですね……多分。」

シオリ「まあまあ…楽しもうよ。」

零月「そうだね…。」

リョウカ(幻想)「さてと……じゃあ、行きましようか…ヤマトさん、お願いしま
すね。」

ヤマト「分かりました、……装甲列車…神森大和…発進！」

ポオオオオオ…！ガタゴト…ガタゴト…！ゴゴゴゴゴ…！

そしてリョウカ達を乗せた装甲列車の神森大和は温泉旅行の為に出発した…因みに護衛は無しだ……が…表向きではそうだ…実際には…リョウカには内緒で…こっそりと…約10分遅れで、残りの全員と…全軍率いて…ひっそりと後を追うように出発したのだ…更に悟られぬ様に…先回り出来る様なルートを通って行った…

…4時間後…リョウカ達一行は無事に高級な温泉旅館に到着した…

リヨウカ(幻想)「あれ？みなさん？何故此方に？」

リユウコ(幻想)「ん？ああ、偶々偶然旅行先が重なっただけだ…。」

ジョイ「まあ、そう言う事よ…気にしなくても大丈夫よ。」

歓喜「ええ…所で貴女様達もこちらで？」

リヨウカ(幻想)「うん、そうですよ。」

リユウカ(幻想)「まあな。」

岬「まあ、せっかくみんな揃ったのだから一緒にどう？」

リヨウカ(幻想)「そうですね、じゃあそうしましょうか。」

リユウカ(幻想)「だな。」

それで全員と合流し…旅館にチェックインも済ませて…温泉に入る事にした…(因み…予定では、2泊3日の予定だそうだ)

カポーン…

リユウカ(幻想)「あゝ…生き返るんじゃ…。」

リヨウカ(幻想)「そうですね…。」

オウカ(幻想)「気持ち良いですね…。」

ハナカ(幻想)「そうだね…。」

リヨウカ(幻想)「…ふふふ…お気に召して嬉しいですよ…あ…気持ち良いですか

…？」

ヨウバナ「あう…えへへ…。」

ヨハナ「えへへ…あうあう…。」

リユウカ(幻想)「…どうやら大丈夫だな…。」

リヨウカ(幻想)「そうですね…あ、こらこら…そんなにはしゃいでると危ないで

すよ？」

めぐみん「どうですか？」

リヨウカ(幻想)「はい…大丈夫そうですね。」

めぐみん「なら良かったですね…それで貴女は大丈夫ですか？」

リョウカ(幻想)「はい、大丈夫ですよ。」

めぐみん「そうですか……あ、背中流してあげましょうか？」

リョウカ(幻想)「そうですね…。」

リョウカ(幻想)「別に良いぜ？」

リョウカ(幻想)「…じゃあ、お言葉に甘えてお願いしますね…。」

めぐみん「はい、お任せ下さい……あ…そうでしたね…そもそもこれでもほぼ移動が出来ないのでしたね…。」

リョウカ(幻想)「……すみません…泳げなくて…。」

めぐみん「はあ……まあ良いですよ…ほら…。」

そして数十分入浴して…リョウカ達は入浴を終えた…

………2日後……

リョウカ(幻想)「さてと、帰りましょうか…。」

リュウカ(幻想)「だな。」

リュウカ(幻想)「えーっと…荷物は…大丈夫ですね…それじゃあ家に帰りましようか！」

オウカ(幻想)「うん！」

それでリュウカ達一行は、装甲列車艦隊に乗り込み…帰って行った…その4時間後には無事に何事も無く家に帰ってこれた…

リュウカ(幻想)「良い旅行でしたね。」

リュウカ(幻想)「そうだな。」

リュウカ(幻想)「また、こう言う旅行…しましょうね。」

リュウカ(幻想)「だな…。」

その後…リュウカ達の休日の日課に家族旅行と言う日課が追加されたのは…この1週間後なのは知る余地も無かったそうだ…

【その
14
…
完】

その15 最高神及び最高邪神の完全開放と完全覚醒

リョウカ達の世界線でのとある日の事…

リョウカ（幻想）「はああ…!!」

ブォオン…!ズガァァァン…!!

リョウカ（幻想）「……まだまだですね……。」

リョウカ（幻想）「……そうだな…ふむ…どうした物か…。」

リョウカは今…訓練用の空間にて修行していた…

リョウカ（幻想）「………はああ…!」

ポオオピイイ……！ズドオオオン……！！！！

リヨウカ(幻想)「うゝん……微妙ですね……」

リユウカ(幻想)「……………む？ならだが……丁度いい機会だ……力のコントロールの修行の再開と行こうか。」

リヨウカ(幻想)「そうですね、そうしましょうか。」

リユウカ(幻想)「よし、んじゃあ先ず……最高神化最終覚醒形態になってみる。」

リヨウカ(幻想)「分かりました……すう……はあ……全リミッター解除!!はあ
ああ……！！！！！！」

ピキイイイイン……！！！！ゴオオオオ……！！！！！！

リヨウカは、リユウカの指示で最高神化最終覚醒形態になった……

リユウカ(幻想)「よし、上手くなったな？その状態で……更に始焉無限創造神化

形態になってみてくれ。」

リヨウカ(幻想)「はい……！はああ……！！！！！」

ピキイイイイン……！！

リヨウカは、リユウカの指示で更に重ね掛けの要領で……始焉無限創造神化形態も発動した……

リユウカ(幻想)「よしよし……んじゃあその状態を……そうだな……まあ取り敢えずお前の体力が尽きるまで維持してみろ。」

リヨウカ(幻想)「は……はい……！！」

リユウカの修行メニューは形態の維持だ……今回は自身の体力が尽きるまで維持する事らしい……

そして…

リョウカ(幻想)「はあ…！はあ…！っ…ああ…！」

ピキイイイン…！パアアアン…！

ドサ…！

リョウカ(幻想)「……………1時間か…まあ大体そうだな……………おい、大丈夫か？」

リョウカ(幻想)「げほ…！げほ…！っ…!!うおえええ…！！！」

びちゃあ…

リョウカ(幻想)「……………って…全然大丈夫じゃねえ…！待ってろ…今どうにかするから…。」

……1時間後……

リュウカ（幻想）「大丈夫か？」

リョウカ（幻想）「うん……さっきよりもましになりました……。」

リュウカ（幻想）「そうか……それで聞くが……あの形態の維持……どれ位から身体に異変が起き始めた？」

リョウカ（幻想）「えーっと……大体……20分……ん？ 30分……かな……多分その間くらいです……そこからちよつとずつ……です。」

リュウカ（幻想）「じゃあ多く見積もって30分か……んじゃあもう1時間休んだらもう一回さっきの形態維持だ……が今回は……その30分まで維持だ。」

リョウカ（幻想）「はい！」

それで1時間後……再び形態維持の練習を開始した……

……そしてその修行をして…1ヵ月後…

リュウカ(幻想)「おお…凄いな…1週間は持つ様にはなったな。」

リョウカ(幻想)「ありがとうございます…お姉ちゃん。」

リュウカ(幻想)「いや…殆どお前だけの力だ…さてだが…今度は邪神化の方に行こうか…あの形態の逆…最高神邪神化形態と終焉破壊零神化形態になってみる…今度は不安定だからな…今度はそうだな…大体30分の半分の15分までやってみろ。」

リョウカ(幻想)「はい！」

更に今度は全く逆の形態変化の維持の修行を行った…

…更に2ヵ月後…

リュウカ(幻想)「はあ…色々と有ったが、何とかこれも1週間は継続出来る様になったな…」

リョウカ(幻想)「そうですね…さてと…少し色々と確認してみますか…えーっ

と……ん?」

リュウカ(幻想)「どうした?」

リュウカ(幻想)「うん、新しく覚醒形態が増えてますね………ん!?!」

リュウカ(幻想)「どうしたんだ?」

リュウカ(幻想)「うん、どうやら新しい覚醒形態の影響で全ての覚醒形態に大規模な変化が出てます……どうやら段階式ですね……確かえーっと……あの終焉暴走形態時の段階システムと同じですね……」

リュウカ(幻想)「なるほどな……それならある程度は抑制しながら戦えば更に長時間……戦えるだろうな……んでその問題の形態は何だ?」

リュウカ(幻想)「はい……それがですね……」

リュウカ(幻想)「おお、何だ?」

リュウカ(幻想)「はい……その名は……」

『……………【始焉ノ終焉…終零滅神ト無限始創神ノ戦姫鬼神化】…です。』

リュウカ(幻想)「……!!」

リュウカの新しい覚醒形態が…何故かその名前を聞いたリュウカの顔が青ざめていた…余程までに恐ろしい形態なのだと理解出来る…

リュウカ(幻想)「…どうやらこの形態も段階式ですけど…大分特殊ですね…どうやらこの形態は自動で発動…又は自分で発動可能らしくて…その形態の時…感情が高まれば高まる程…更に戦えば戦う程…段階が上昇して行く様で…何もしなくても少しずつだけ段階は上がって行きますが…かなり遅い様です…後…どうやら他にもこの形態…段階が上がると…更にこの形態が変化して行っって行くらしいです。」

リュウカ(幻想)「そ…そうか…。」

リュウカ(幻想)「……………一応こう言う形態は何かしら怪しいですね…………お姉ちゃん、一応みなさんを集めて下さい…もしもの時に備えて私を止める為の要員が必要ですから…………嫌だけど。」

リュウカ(幻想)「……今回はえらく慎重な判断で賢明な判断だな。」

リョウカ(幻想)「……うん、お姉ちゃんのさっきの反応を見て絶対にこの形態が危険なのが分かります……だから最初から最大限に警戒するのも悪くは無いかと……思いますね。」

リュウカ(幻想)「そうか……んじゃあ待ってろ。」

そして……30分後……

アヤカ(幻想)「……で、いよいよその形態を得てしまったから私達が必要な訳ね。めぐみん「へえ……新しい覚醒形態ですか……何事も無ければ良いのですが。」

永琳「だからこそ……私達全員が必要な訳ね。」

リュウカ(幻想)「……っでリョウカ……行けるな?」

リョウカ(幻想)「はい……ではみなさん……多分危険だと思うので……離れてて下さいね。」

アンカ(幻想)「分かったよ。」

リョウカは、全員に危険が出来る限り及ばない様に離れさせて…いよいよ発動の時が来た…

リョウカ(幻想)「…………全リミッター解除……禁忌解除……最終リミッター…解除！行きます…!!はあああ……!!……!!」

推奨BGM:作品名【モンスターハンターシリーズ】曲名【真なる祖】

キユイイイイイン……!!……!! ゴゴゴゴ……!!……!! ピキイイイイン……!!……!!

リョウカの周りに…紅いオーラとドス黒いオーラが纏わりつき……それがリョウカを完全に球状に覆い尽くして…眩い光を解き放った…

リョウカ(幻想)「……………どうなった!?」

リヨクヨウ(幻想)「…………!! 見て…………!!」

カズマ「おいおい…………あれって…………本当に…………リヨウカ…………なのか?」

リユウカ(幻想)「…………リヨウカ…………なのか?」

そう…………明らかに姿がガラリと激変していた…………身体に関しては、何時ものリヨウカと同じくらいだが…………髪の色が完全に紅く染まり…………目も紅い…………服は紅く…………所々に黒いラインの入った…………重装甲のドレス姿を着ている…………が特徴的な帽子は消え…………代わりに天を貫こうと言わんばかりの真紅の一角が装着されていた…………更にその周りにはリヨウカの2倍以上の装甲板か…………又は砲台なのか…………よく分からない真紅の部位が合計7つ程…………リヨウカを囲う様に装着されていた…………(元ネタの姿は完全に赤オークランドの例の艦装だが…………パクリだろうって思ったら負けである…………)靴も真紅のブーツに変わっていたのだった…………最後に、頭上には…………エネルギーで構成された紅く輝く天使の輪の形状をした物質が現れた…………

リユウカ(幻想)「…………リヨウカ…………だよな?」

リヨウカ(?)「そうなりますね、それで？私の相手になるのは誰？」

リユウカ(幻想)「……………！！！！ お前……………そこまで好戦的な性格だっけ…!!」

リヨウカ(?)「さあね？まあ謂わばこの姿は…私であって私では無い…まあ流石にラージャンよりは好戦的じゃないけどね、でもこれになると戦いたくて堪らないですよ……………で？私の相手は何処？」

リユウカ(幻想)「……………仕方ない……………お前ら下がってろ……………」

リヨウカ(?)「ん？お姉ちゃんですか…貴女が相手になりますか？」

リユウカ(幻想)「そうなるな…さてと…見せてもらおうか…破壊と創造の覚醒の凄さとやらを……………!!」

リヨウカ(?)「うふふ……………！良いでしょう……………この姿の実験台としては丁度いいですね……………！それじゃあ……………始めましょうか……………！！！！ 本当のZEROの恐ろしさを……………」

リユウカ(幻想)「……………っ……………!!」

リヨウカ(?)「さてと……………この…終滅零神リヨウカ……………そして……………無限始創神リヨウカ……………この二つの融合形態……………創滅零無神リヨウカの恐ろしさを味わうが良い……………!!

┌

リュウカ(幻想)「やっぱり暴走じゃねえか…!!止めてやる…!」

ZERO「……………さあ…来い!」

そして、リュウカと創滅零無神化としたリョウカの戦いが始まった…

VS 【最高邪神及び最高神:創滅零無神:ZEROリョウカ「始焉と終焉:終零滅神

ト無限始創神ノ戦姫鬼神化:第1段階」

勝利条件【ZEROの撃破又は鎮圧】敗北条件【リュウカの撃破】

戦闘方式【特殊戦闘】

戦闘BGM:作品名【ダンボール戦機シリーズ】曲名【希望と絶望の狭間で】

【戦闘開始】

ZERO「これが本当の制圧射撃ですよ、喰らいなさい。」

ウイイイン…ガコン…!

ドツキユウウウウン…!!…!!

リュウカ(幻想)「不味い…!はぁ…!!」

リュウカは、リュウカの装着されていた装置から放たれたエネルギー砲弾を避けた…すると…

ピキイイイイン…!!…!! チュドオオオオン…!!…!!…!!

全員（ZEROは除く）『……………！！！！！！』

そうあのエネルギー砲弾が着弾した所は超規模の爆発が発生した…その跡には何もかも全て完全消滅していた…そう完全に零に還すが如くの完全に無に還す超消滅反応弾の様だ…

ZERO「……………なるほどね…これがこの力ですか…まあ良いでしょう…そう言う攻撃はあまり使わなければ良いだけの話よ…。」

リュウカ（幻想）「随分と舐められた物だな…使わなくても勝てるか？」
ZERO「さあ？どうでしょうね？なら…これは如何でしょうか？」

ウイイイン…！ガコン…！バシユウ…！バシユウ…！

リュウカ（幻想）「…！！これも喰らったら不味い…！！はああ…！！」

ピキイイイン…!! チュドオオオオン…!!

ビキビキ…! ガッシャアアン…!!

リュウカ(幻想)「やはりさっきのと同じ効果か…! こうもあっさりと…!」

ZERO「ふむ…これもか…ならば…。」

ピシュン…!

リュウカ(幻想)「な!？」

ZERO「結局…近接戦闘しかないよね、これが。」

ドコォ…!!」

リュウカ(幻想)「ぐふ…!!?」

キイイイイイン……！！！！！！ズガアアアアア……！！！！！！

めぐみん「リュウカさん……！！！！！！」

ZERO「ふふふ……さあ……本当の絶望を知るが良い……艦装装着！来い！神森大和ZERO！」

ピキイイン……！！キイイイイイン……！！

ZEROリョウカが召喚した神森大和ZEROとは……結論を言えば、神森大和の最終決戦形態と霧化形態と最高神化形態になった時の姿を……そのままZEROリョウカカラーに染めて……更に装飾と武装と装甲が追加された物だ……

全員『……！！！！！！』

ZERO「行くぞ！」

キイイイイン…！ピキイイイイン…！！パアアアン！！

ZEROリヨウカに合わせて、大和ZEROも高く上昇…そのままZEROリヨウカと大和ZEROは合体した…

【ZEROリヨウカ…艦装装着形態に移行・覚醒形態…第2段階に移行】

その姿は、船体の半分（サイズはミニサイズ）がZEROリヨウカにで装着され…そこに大和ZEROの全武装が全乗せ…更にその周りには先程の巨大な砲台艦装とミラーリングシステム…ZEROリヨウカ形態時の専用の形状のゴットピット…それがZEROリヨウカを囲う様に固定及び浮遊し…頭部には、紅い天使の輪みたい形状のエネルギーが現れ…頭部の角は新しく（やっぱり赤オークランドの所の頭の角を丸パクリした様な感じで）追加で装着された…尚元々周りの装備品と艦装で更にZEROリヨウカとの身長差が歴然と出て…船体部分に居るリヨウカは…船体に座る形で堂々とした感じだ…因みに更にだが…ZEROリヨウカの頭上に有った

天使の輪型は、更に二つ追加で…その二つとも超巨大で…艤装状態のZEROリョ
ウカの頭上に一つと…真下に一つ現れたのだ…

ヒュウウウ…フワア…

ZERO「……なるほどね、これが艤装形態ですか…。」

リュウカ「っ…クソ痛え…。」

ZERO「……さてと想像以上な実験の結果が出ましたね…そろそろフィナーレと行きましようか！」

ウイイイン…！ガコン…！

キュイイイイイン…！！！！

めぐみん「リュウカさん…！！！！！！ 逃げてええ…！！！！！！」

ZERO「……………」。

リュウカ(幻想)「……………ここまでか…。」

ZERO「……………。」

シュウウウ…！

ウイイイン…！ガコン…！

ZERO「……辞めですよ…やっぱこの姿になっても…私が幾ら闘争本能化しても私そのものだから…私には…みなさんを殺す事は出来ませんよ…。」
リュウカ(幻想)「……………リュウカ…………。」

ピキイイイイン…!!シュウウウウ…！

そしてZEROリュウカから元のリュウカの姿に戻った…

【戦闘終了】

リョウカ(幻想)「……………ごめんなさい…私…お姉ちゃんに酷い事や酷い事言いました…ごめんなさい…。」

リウウカ(幻想)「……………いや…良いんだ…リョウカ…。」

めぐみん「……………ふう…全くひやひやしましたよ？本当に殺す所でしたよ？」

リョウカ(幻想)「……………ごめんなさい……………」

リウウカ(幻想)「めぐみん、それくらいにしとけ…今のリョウカは精神的に無理がある……………辞めてくれ。」

めぐみん「すみませんでした……………」

リョウカ(幻想)「……………」

リウウカ(幻想)「リョウカ…？大丈夫…？」

リョウカ(幻想)「…大丈夫です……………ただ…ね…あの姿になると……………悲しい声が…怒りの声が…様々な怨念の音が…私の頭の中で聞こえて来て……………私が私らしく無くなりそうで怖いです……………」

リウウカ(幻想)「……………そうか…リョウカ、一応聞くが…俺達でもなれるんだな

？」

リョウカ（幻想）「……うん……なれると思うよ……？」

リョウカ（幻想）「……分かった……少し離れろ……。」

リョウカは、全員に離れる様に指示して……

リョウカ（幻想）「……リミッター解除……禁忌解除……最終リミッター解除……!! 行くぞ!! はぁぁ……!!」

キユイイイイイン……!!!! ピキイイイイン……!!!!

リョウカの周りには……先のリョウカと違い……完全に青く……白いオーラが纏わりつき……完全にリョウカを球状に包み込み眩い光を解き放った……

光が収まれば……そこにはリョウカ……つばいのが居た……姿型は、あのZEROリョウカを蒼白く染めて……それをリョウカに差し替えた姿を想像すれば良い……

めぐみん「…………どう……なりましたか……？」

リョウカ(幻想)「…………お姉ちゃん…………。」

リョウカ(?)「…………なるほど…………どうやら俺の場合は、リョウカとは逆の性質になる訳か…………。」

リョウカ(幻想)「…………大丈夫…………？」

リョウカ(?)「ああ、問題無い……寧ろ清々しい位だ……んでこれは……リョウカとは全くの対極って訳だから…………リョウカがZEROなら…………俺は……INFINITY
Y……つまりは無限って訳だ…………。」

めぐみん「なるほど…………。」

INFINITY「さてだが…………まあ俺は安定してるとして…………リョウカ……もう一度だけなってくれ……恐らく今の俺ならその厄介な症状をどうにか出来るだろう…………。」

めぐみん「え!?でも…………なるだけでもリョウカちゃんは…………。」

INFINITY「……大丈夫だ…………俺を信じてくれ…………。」

リヨウカ（幻想）「分かりました……。」

そしてINFINITYリウカに言われて…再度リヨウカは戦姫鬼神化（あの形態の別名で安略版）した…

ZERO「……。」

INFINITY「……じつとしてろよ……ふむふむ……なるほどな……これはまたすげえ量の怨念やら呪いやら纏わり付いてるな……そりゃあまあ…暴走し易くなる訳か……んじゃあ怨念には怨念らしくさっさと浄化されとけ……はああ！」

ピキイイイン…!!

INFINITYリウカは、ZEROリヨウカに対して対怨念で浄化能力で浄化させた…

INFINITY「……どうだ……？」

ZERO「……聞こえないです……ありがとうございます……お姉ちゃん……」

INFINITY「……そっか……んじゃあさっさと元に戻ってくれ……あ……俺は少しこの姿で実験をする……まあ安心してくれ、俺は適当な相手にする。」

ZERO「う……うん。」

それでZEROリョウカは、元のリョウカに戻ってINFINITYリョウカの観戦をする事に……

INFINITY「さてと、リョウカと対極のこの力はどんな物か見せてくれよ……んじゃあ手始めに……全主砲……ファイア……!!」

ウイイイン……! ガコン……!

ドツキュウウウウン……!!

INFINITY「……お!? コイツは…!? 分離してるのか…!?」

キイイイイン…!! チュドオオオオン…!…!!

どうやらINFINITYリュウカの放ったエネルギー砲弾は着弾するまで分離し続けて…更に…着弾すると、ZERORYウカと同等の超規模の大爆発が発生した…が今回の場合は確かにほぼ消滅レベルだが…完全と言う訳でなく…ただの破壊程度…しかも…

INFINITY「……壊れた地形が直っていったるな…。」

そう…これがこの姿の特徴…ZERORYウカが完全な破壊と殺戮と終焉による絶対の零に還す絶対のパワー型なら…INFINITYリュウカは完全な創造と始焉と誕生による絶対の無限に回復と創造を司る再生能力と回復能力更に防御能力の絶対の防御型と回復サポート型だ…

INFINITY「……じゃあ待てよ…これって俺…どうやって敵を倒せて言うんだ？」

そう…問題なのが…いや謎なのがこれだ…INFINITYリュウカの能力面では…明らかに戦闘向きではなく…味方支援に徹底した物だったのだ…果たしてどうなるのやら…

INFINITY「……じゃあ実際の敵召喚してみてやるか…。」

っで…INFINITYリュウカが敵を召喚して戦ってみたら…

INFINITY「……問題無い様だな…敵なら効果無く…創造による物と圧倒的な物量で破壊と死を与え…味方には絶対の守りか…。」

どうやら敵に對しての攻撃は全て通じる様だ…寧ろ…サポートアタッカー型と言
う事が判明した…

ピキイイイイン…！ シュウウウウ…

リュウカ（幻想）「なるほどな…こりゃあ完全にあのリュウカとダックを組んだ事
が前提での感じだな…ありゃあ。」

リュウカ（幻想）「そうですね…。」

アヤカ（幻想）「…絶対の破壊と絶対の創造のダックね…これは面白そうじゃな
い。」

リュウカ（幻想）「矛と盾…そのダックだ…さてと…疲れた…とっとと休も
う。」

リュウカ（幻想）「うん、そうだね…。」

そしてリュウカ達は新たな形態を手に入れ…更に凄まじく強くなった…はてさて

リョウカ達の一行は…無事なる平和を掴めるだろうか？

【その 15…完】

その16 最強軍事国家:神森大連盟皇帝神国:ピースウォーカー事件の前準備!

例のISの世界線から神森世界線に戻って来てから数十年後:

【神森大連盟皇帝神国:神森一家】

この神森大連盟国はもう何処から見ても最強軍事国家になった為:神森大連盟皇帝神国に名前が変更した:無論その実力は最強:その全ての兵士は長年リョウカ達一行と供に過ごして旅をして来た為:超精鋭の最強だけが揃っている:更に特殊部隊も同様:長年の旅を続けて来た為、本当にリョウカ達と肩を並べる程の実力だ:それ以外にも:神森大連盟皇帝神艦隊(装甲列車艦隊や潜水艦隊も含む)や神森大連盟皇帝神魔獣軍も同じく超精鋭で最強の存在になり:更に規模が増えたり:新たな存在も仲間に加えたりもした:……最後に肝心の神森一家は最早言うまでも無い

位の最強の存在に留まり続けているが…更に超強大な存在になっていた…

そんなある日…

リョウカ（幻想）「さてと、そろそろあの世界に行きましようか。」

リュウカ（幻想）「あの世界線って？」

リョウカ（幻想）「メタルギアの世界線ですよ…そろそろ时期的にあの事件が発生する頃合いかと思えます。」

リュウカ（幻想）「あ…確かにそうだが…そもそもあっちの世界線って時止まってるだろ？」

リョウカ（幻想）「ええ、だから厳密には…行った直後にその事件が起きる直前の時間まで進ませて…ちょっとした下準備をしたいと思えます。」

リュウカ（幻想）「分かった…が良いのか？ 仮にも下準備だけとは言え…あのメタルギアの世界線だぜ？…お前、大丈夫か？」

リョウカ（幻想）「多分、大丈夫ですよ…さてと、みなさんに伝えて…出発しま

しょうか。」

リュウカ(幻想)「だな…。」

その後…色々と準備をして、その4日後に再びメタルギアの世界線にテレポー
トし…予定通りにその世界線に辿り着き…リュウカ達の能力でピースウォーカー事
件の発生直前(2ヶ月前)位まで時間を進めた…………

リュウカ(幻想)「さてと、こんな感じですね。」

リュウカ(幻想)「なあ、一応聞くが…何故2ヶ月も猶予が有る?」

リュウカ(幻想)「ん? ええ、ピースウォーカー事件の対策の為の準備期間です
よ。」

リュウカ(幻想)「なるほどな…まあ今回は大規模な戦闘が予想されるからな…ま
あそれ位はしないと。」

リュウカ(幻想)「はい……。」

リヨウカ達はそのピースウォーカー事件の対策の為に下準備を始めた……のだが……此処で大事件が発生した……

それは事件発生の1ヶ月前の深夜……完全に神森一家も寝静まった時の時間帯だ……1人を除いて……

リヨウカ(幻想)「……………。(そろそろ……ですか……)」

リヨウカは、こっそりと隣で寝ているリュウカを起こさない様に起きて……更に身支度を整えて……

リヨウカ(幻想)「……………。(ごめんなさい……お姉ちゃん……私にはこれからやらなければならぬ事が有りますから……もしかしたらタダでは済まないと思います……もしもの時は……お願いしますね……お姉ちゃん……)」

リヨウカはこっそりと書き置きを残し……密かに部屋を出て……家を出て……港まで

やって来て…誰も見てない事を確認して……

リヨウカ(幻想)「……来て…【神森龍華(リヨウカ)】…。」

ザザアアン…!

リヨウカに呼ばれて…龍華(リヨウカ)はこっそりと現れ…リヨウカは龍華(リヨウカ)に【ある物】を積み込み…ひっそりと単艦で1人で出撃して行った…その目的地は……【コストリカ】である……リヨウカの目的はこの時点で不明だ…果たしてリヨウカの目的は如何に…?

そして丁度リヨウカが出撃してから2時間後…

リユウカ(幻想)「……ん…ん…?…んん!?リヨウカ…?…あれ?リヨウカは何処に…って何だ?この手紙…?」

リュウカはリョウカが居ないのを察知して目が覚めた…その時にリョウカが残した書き置きの手紙が目に入って…読んでみると…

リュウカ(幻想)「……っ…！あの馬鹿リョウカ…！俺達に内緒で一体何をする気だ…!?……しまった!!もうリョウカは此処には居ない…!?……クソ！」

リュウカは急ぎ身支度済ませて…更に神森一家全員を叩き起こした…無論起こした事で神森大連盟皇帝神国は瞬時に警戒態勢に移行した…それでリュウカはリョウカが居ない事を説明し…書き置きの事も説明した…

リュウカ(幻想)「…と言う訳だ…。」

アヤカ(幻想)「はあ…やれやれ…リョウカちゃん…一体何で1人でそんな事をするの…?もっと私達に相談すれば良かったのに…。」

リョクヨウ(幻想)「うん…でも急がないと不味いでしょ…?。」

リュウカ(幻想)「ああ！だから急いで向かうぞ！リュウカの反応は…コスタリカ方面に有る！…全軍に出撃用意しろ！急ぎでだ！」

兵士元帥1「は！」

そしてリュウカがひっそりと出撃して3時間後に…リュウカを追う為に…神森大連盟皇帝神艦隊は総出撃でコスタリカに向かって行った…

【神森大連盟皇帝神艦隊…総出撃】

………2時間後…リュウカはコスタリカに上陸し…ある物を運搬しながらある場所に向かって行った…がこの時点ではやはり目的は不明…リュウカの目的…そしてそのある物とは一体何なのか？

………一方でリュウカ達と言うと…コスタリカに到着まで後1時間と言う地点に居た…

【神森大連盟皇帝神艦隊…総旗艦…神森龍華（リュウカ）】

めぐみん「…リョウカちゃん…一体何をする気でしょうか…？」

カズマ「分からねえな…。」

リュウカ（幻想）「……………」

ヤマト「あの…リュウカさん？」

リュウカ（幻想）「……………分かったぞ…！リョウカがやろうとしてる事が！」

大石『分かったのですか？』

リュウカ（幻想）「ああ…が完璧って訳じゃないが…直感だ…多分リョウカと関係してるのは…【核兵器だ…。】」

大石『核兵器…？』

めぐみん「どう言う意味でしょうか？幾らリョウカちゃんでも核兵器に関係あるのならば…我々にもすぐに知れ渡る筈ですよ？」

リュウカ（幻想）「ああ…だがな、今回はそんな事が無かった…そこが俺達のミス

だ…実はだが、リヨウカが何かこっさりとなんか作ってるな？ ってのを見て確認しようとしたらリヨウカに拒否された挙句隠されたからな…んでだ…出発前に確認したら何もかも無くなっていた…リヨウカが密かに作ってた物がな…。」

ヤマト「…密かに作ってた物って何でしょうか…？それが分かれば…。」

リユウカ(幻想)「多分だが…リヨウカは1人…んで龍華(リヨウカ)単艦で…あの物を積んで出航した…1人且つ単艦でないといけない理由は…被害対策だろう…それほどもでに危険な代物だろう…例えば…核兵器とかな…それかその模造品かだ…。」

大石『お嬢様が…核兵器を密輸しよう…？』

リユウカ(幻想)「違う…その逆だ…恐らく時期的にはコスタリカに核兵器が存在する筈だ…んでリヨウカは…この日を狙い…そのある物を積んで…コスタリカに向かい……んである物を運搬して…核兵器の所に向かい……【核兵器とすり替える…】とかな…。」

全員『……!!』

そう……リュウカの言う核兵器とすり替える……正に今リュウカの目的はそうであつた……リュウカの今も運搬してゐるのは……実際にピースウォーカーに搭載予定の核弾頭の偽物だ……その偽物は見た目や重量は本物そっくりだが……中身は核ではなく……ただの花火弾だ……しかもバレない様にご丁寧に放射能そっくりの人的や環境に無害の特殊な薬品をかけまくつて……色までそっくりまでした……そう言う代物を運搬してゐる……

めぐみん「じゃ……じゃあ……！もしそれが本当なら……そのすり替えた後の核兵器をどうする気なの!?」

リュウカ（幻想）「恐らく処分する気だ……だからこそ単独且つ単艦で出撃した……俺達を巻き込まない為にな……！」

カズマ「だったら急がないと……核兵器以前にも……もし核兵器が有ったら警備が嚴重な筈だ……もし見つければタダでは済まないぞ……！」

リュウカ（幻想）「そうだった……！全艦……！最大戦速……！コストリカに急ぎ急行し……一刻も早くリュウカと合流するぞ……！」

全艦『了解!』

リュウカ(幻想)「機関出力最大!最大戦速!!」

キユイイイイン…!!ザザアアン…!!

神森大連盟皇帝神艦隊は、一刻も早くリュウカの元へ向かうべく…最大戦速でコスタリカに向かった…

その後、リュウカに30分遅れでコスタリカに上陸し…リュウカの後を追った…

一方でリュウカは…例の核兵器が有るであろう車両基地まで来ていた…

リュウカ(幻想)「……!!あそこ…ですか…!」

リュウカは、基地の外から核兵器の有る場所を特定したが…

リョウカ（幻想）「やはり警備が厳しいですね……よいしょつと……まあステルス起動すれば大丈夫かな……。」

リョウカは偽物の核兵器ごとステルスモードを起動し……基地に潜入した……

……10分後……

リョウカ（幻想）「……………。（辿り着きました……！さてと……これと入れ替えて……つと……。）」

リョウカは、例の核兵器をすり替えて……

リョウカ（幻想）「……誰も見てないね……？………良し……！………破壊……！」

ピキイイイイン…!! シュウウウウ…!

リョウカは、すり替えた本物の核兵器を消滅させた…その後リョウカは難なく基地から脱出して…龍華(リョウカ)の元に戻ろうとしたが…因みにちゃんと来た時と同様にステルスは起動している…しかし…

キイイイイイン…!!

? 『……』

リョウカ(幻想)「……!!!? あれは…【クリサリス…!!!?】」
クリサリス『敵を発見…応援を求む…敵を確認…攻撃開始…』

クリサリスは電波で応援を寄越し…クリサリスは攻撃態勢に入った…尚リョウカの起動していたステルスモードはそもそも相手はAI兵器である故に…体温を誤魔化す事が出来ず…赤外線センサーやカメラで捉えられてしまった…

リョウカ(幻想)「急いで逃げないと…!!」

ドドドドドドドド…!!

チュン…!

リョウカは、その場から大急ぎで逃走を開始し始めた…因みに全て徒歩である…
しかも今回の天候は運が悪く雨…しかもまだ暗い夜だ…そんな中を徒歩で頑張っ
ている…

数分後…

敵兵1「待てええ…!!」

敵兵2「逃すなあ…!!」

クリサリス『ターゲットロック…ロケットランチャー発射。』

バババババババババ…!!

チュン…!

バシユ…!バシユ…!

チュドオオオオン…!!

リヨウカ(幻想)「はあ…!はあ…!しつこいですね…!」

クリサリス『レールガンチャージ。』

キュイイイイイン…!!

ドギヤアアアン…!!

リヨウカ(幻想)「…!しま…!?!」

チュドオオオオン…!…!!

ヒュウウウ…！ドシャア…！

リョウカ(幻想)「がは…!?…………ぐふ…！」

リョウカは逃げ続けたが、とうとうクリサリスのレールガンに直撃し…吹き飛ばされ…崖下まで落下した…

リョウカ(幻想)「ぐふ…！はあ…！はあ…！…………っ…ああ…!!」

リョウカはレールガンの直撃と落下のダメージで重傷を負った…右足は完全に折れて…左腕も折れて…所々で破片が突き刺さって…見られない程の重傷だった…挙句に、大ダメージとここまでの疲労が重なり…意識が朦朧としていた…

リョウカ(幻想)「はあ…！ごふ…！…………はやく…………も…どらない…と…!!げほ…！げほ…！！！！！」

敵兵3 『敵はこの辺りに居る筈だ…！探せ…!!』

リョウカ(幻想) 「不味い…です…ね…はあ…はあ…ここまで来て…これま
でですか…仕方ない…ですね…ならば…せめて…最後まで…足掻かないと…
ね…！」

リョウカは、残った力を振り絞り…兎に角脱出を目指したが…

ツガ…！ドシャア…！

リョウカ(幻想) 「ぐふ…!!っ…！はあ…はあ…。」

敵兵4 「…☐居たぞー…!!」

敵兵5 「逃すなあ…!!」

キイイイイイン…!!

クリサリス『…目標再度補足…攻撃再開。』

リヨウカ(幻想)「……………っ…！……………ここまでですか……………」

そしてとうとうリヨウカは追い詰められてしまった…敵兵やクリサリスに追い詰められ…暗いジャングル内の橋の所に完全孤立した…

リヨウカ(幻想)「……………下は…川ですか…激しいですね…今の私に耐えられるかな…？……………仕方ないです…此処で死ぬよりは…天に任せるのも…一つ有りかな…？……………一か八か…賭けましょうか…！…」

リヨウカは、急いで橋の手すりをよじ登り…そのまま…意を決して…飛び込んだ…

リヨウカ(幻想)「ああああああ…！！！！！！…」

突然頬に鋭い痛みと共に乾いた音が響いた…

リョウカ（幻想）「……っ…!!」

？「この…馬鹿リョウカ…!!どれほど心配したと思ってるんだ…!!」

リョウカ（幻想）「……おねえ…ちゃん…!!」

そう…何故か家に居る筈のリョウカが居た…がそれだけでなく…

めぐみん「全く…!!リョウカちゃん…!!貴女どれ程心配したか分かったいるのですか!!」

リョクヨウ（幻想）「そうですよ！リョウカちゃん！心配したんだから…!!」

アヤカ（幻想）「ええ！全く…貴女って子は…！どれだけ無茶をすれば気が済むの!!」

リョウカ（幻想）「みなさん…ごめん…なさい…。」

リョウカ（幻想）「はあ…まあ兎に角…生きててくれて良かった…それだけでも充

分だ…。」

リヨウカ(幻想)「……ごめんなさい……でも…此処は一体?」

リユウカ(幻想)「此処か? 此処はコスタリカの…【スネーク達の拠点】だ…数分違いで間に合わなかった…だから最終的に流れ着く場所でお前を回収して…んで運良く此処に行き着いた訳だ…まあぶっちゃけ言えば…逃走劇を大部分見ていた…助けようと思ったが…助けられる状態じゃなかった…こっちもすまなかった…何度も何度も間に合わなくてな…。」

リヨウカ(幻想)「……ごめんなさい…私の身勝手な所為だよ…すみません…。」
リユウカ(幻想)「……身勝手じゃないと思うぞ…お前がやったのはある意味で大金星物だ…核をすり替えたんだろ?」

リヨウカ(幻想)「……!! 何故それを…?」

リユウカ(幻想)「直感だ…当たってた様で良かった…がお前、核はどうした?」
リヨウカ(幻想)「もう…消滅しました…私の手で…。」

リユウカ(幻想)「……そうか…さてとだ…どうせ動けないのは分かる…が少々苦しいと思うが…拠点に戻るぞ…そこなら医療が出来る…頼むからもうそんな事はし

ないでくれ……リョウカが死ぬのは御免だ……良いな？」

リョウカ(幻想)「……はい……」

リョウカ(幻想)「……取り敢えず世話になった……スネーク……それとミラー……いずれまた来る。」

ネイギット「ああ……分かった。」

その後、瀕死のリョウカを龍華(リョウカ)に乗せて……龍華(リョウカ)は、龍華(リョウカ)と神森大和と神森武蔵に牽引されながら拠点に帰投し……リョウカを入院させた……尚この核すり替え事件は後々神森一家にも伝説として語られる……(通称:【コストリカ核弾頭盗難異変】)

……1ヶ月後……リョウカが何とか退院した……

リョウカ(幻想)「やれやれ、色々あったが何とかなったな……がもう俺達に相談無しで独断で単独出撃は絶対にするなよ？」

リョウカ(幻想)「はい…。」

リョウカ(幻想)「そう言えば思ったんだが…あの時積んで持って行ったのって…本当は何だったんだ?」

リョウカ(幻想)「あれですか?…そろそろ良いでしょう…実はあの時に作っていたのは確かに偽物の核弾頭です…本物そっくりに仕上げるのは大変でしたよ…それで中身は完全にただの花火ですよ…ただバレない様に人的にも環境にも完全な無害の放射能そっくりの特殊な薬品をたつぷりと浸していました…だから誰もそれを本物の核だと思いませんよ。」

リョウカ(幻想)「つぶ! ハーッハッハッハッハ…!!花火か!?お前…とんでもない物付けたな!…まあそれだけ聞いて安心した…あん時に密かにな本当にリョウカが核兵器を作って密輸しようと思ったんだが、そんな事無くて良かった…。」

リョウカ(幻想)「そ…そうですか…。」

リョウカ(幻想)「…まあでも、あんな危険な事してまで…リョウカが頑張った…その努力は無駄には出来ん、残る核は一つ…ピースウォーカーそのものだ…。」

リョウカ(幻想)「そうですね…。」

リュウカ（幻想）「まあ遠距離からの脅威は無くなったのは良い事だ…アイツらに喚く姿が目には浮かぶ…何せ偽物だからな…。」

リュウカ（幻想）「ええ、でも…幾ら花火弾とは言え…直撃は危険ですよ？森林地帯に落ちれば火災が発生したり…住宅地に落ちて同じ…大火傷程度で済めば良いですが…。」

リュウカ（幻想）「まあどっちにしろ…撃たせなければ良いだけの事だろ？」

リュウカ（幻想）「そうですね…あの今更だと思えますけど…あの時に追っていた兵士達やクリサリスは？」

リュウカ（幻想）「クリサリスは逃したが…敵兵は皆殺しにした…クリサリスは多少の損害を与えたが…結局は逃げられた。」

リュウカ（幻想）「そうですか…。」

実はあの時に…リュウカの探索を打ち切った敵兵は油断し切っていた…そこを狙い、激昂していたリュウカ率いる神森大連盟皇帝神軍の奇襲によって敵兵は皆殺し…クリサリスは小破と言う戦闘結果だった…

では実際の一部始終を見てみよう…

時は遡り…1ヶ月前の例のすり替え事件直後且つリョウカが橋から転落した後
の事…

リュウカ(幻想)「……………！！！！ もう…我慢出来ん…！！よくもやりやがった
なあ…！！！！？ 全員纏めて皆殺しにしてやる…！！！！ 全軍突撃せよ…！！！！！！」

全軍『おおおおおおお…！！！！！！！！！！』

敵兵1「……………☒敵は…」

バババババババババ…！！

ズチャア…！！

敵兵1「ぐわああ…！！」

敵兵2 「どわああ…!!」

兵士元帥1 「お嬢様の仇をとれえ…!! おおおおお…!!」

バババババババババ…!!

バシユウ…! バシユウ…!

チュドオオオオン…!!

敵兵供1 『ぐわああ…!!』

クリサリス 『目標確認…攻撃開始…』

リュウカ(幻想)「クリサリス…!! てめえだけは絶対にぶち壊してやる…!!」

喰らいやがれエエエエエ…!!

ポオオピイ…!!

チュドオオオオン…!!

クリサリス『機体ダメージ増大…戦闘能力低下…一時撤退します…。』

キイイイイン…!!

クリサリスはリュウカの激昂の一撃により撤退して行った…

リュウカ(幻想)「……畜生が…!! 次に会ったら…必ずぶっ壊してやるからな…!!」

その後リュウカ達はその場に残っていた敵兵を怒りのままに暴れまくり…全員を皆殺しにしたのだった…因みにその時の味方には被害は一切無かった…それでだが…戦闘後に我に返ったリュウカ達は急いでリュウカの流れ着く場所に急行して…リョウカを回収してあのスネークの拠点に運び込んだのだった…

以上が事の顛末だった…

リュウカ(幻想)「まあ安心しろ…次こそは絶対に俺が仕留める…。」

リュウカ(幻想)「いえ、私もやりますよ…私だって一方的にやられましたが…あの時は仕方なかったです…疲れも溜まっていたし…天候も悪過ぎましたからね…せめて一泡位は吹かせてあげたいですね。」

リュウカ(幻想)「はあ…まあなんか有ったら不味いからな…常に俺の側に居ろよ？」

リュウカ(幻想)「うん。」

リュウカ(幻想)「さてと、予定の事はやった…とっととズラかるぞ…またいつか此処に戻るぞ…。」

リュウカ(幻想)「分かりました…それじゃあ撤退しましょうか。」

約1時間30分後…神森大連盟皇帝神国は、護衛国家と共にこの世界線を発った…リュウカ達の旅はまだまだ続く…

【
そ
の
16
完
】

東方最高神 [零 Z E R O] 【番外編:日常編】 (完結)

著者 神森リョウカ

発行日 2021 年 7 月 31 日

ハーメルン -SS・小説投稿サイト-

<https://syosetu.org/novel/212970/>

本書の内容を無許可で転載・複写・複製することは、禁じられております。